

学童保育施設におけるグループワークⅡ

—グループ・プロセスと個人の成長 その1—

田中 美奈子
須之内 玲子

I. 研究報告の意義

この研究報告は、小論「学童保育施設におけるグループワーク——指導員の専門性についての考察——」(1)の実践篇ともいうべきものである(なお、今後この論文については「小論」と略すこととする)。換言すれば、「小論」を実証する資料でもある。順を追っていえば、むしろ、この研究報告に示されるような実践に(それは元より実践の一部に過ぎないが)携わりながら、私たちが考察を進めたものが「小論」であったといえよう。ただし、「小論」では指導員の専門性についての考察という副題が示すように、その課題に焦点を合せながらグループワークについて論じたものであった。故に、グループワーカーが如何にメンバーに働きかけるかというワーカーサイドの視点から援助過程を考察したものであった。

しかし、この報告では、実践をグループ・プロセスとして段階別に詳述していく中で、「小論」の集団処遇における様々な問題の項で触れた、プログラム、ワーカー集団、サブグループ、リーダーシップ、ワーカーとメンバーの関係について数々の具体例を以って述べたい。また、「小論」では、日常的処遇のプロセスそれ自体に専門性があると主張し、教育のプロセスの一部としての治療的処遇もあることを指摘した。これらについては、3年間にわたるグループの動き、ワーカーの意図・動きを明かにする中で実証されるのではなかろうか。

また、今回の報告は研究テーマである「グループ・プロセスと個人の成長」の前半部分に当るものである。次の機会に、個人の変容過程はどうであったかという

視点から、僅少な事例ではあるが具体的かつ詳細な研究報告を致したいと思う。なお、グループ・プロセスについて既に「実践記録」(2)及び小論において簡潔に触れているので参照していただければ幸いである。

II. 研究方法

1. 研究の対象と期間

研究対象は、「小論」におけると同様、M学童保育クラブ(以後、Mクラブと称する)在籍児童とし、父母会等は割愛する、Mクラブの利用者は小学校1～3年生、人数は各年度40名前後(定員40名)である。

研究期間は、56年4月から59年3月までの3年間とする。なお、学童を対象としているので、時期を表す際には便宜上年度を用いる。次に、現在までの実践を検討した結果、この3年間を選定した意味について若干の説明を加えたい。56年度、新規に入所した1年生の数が20名とMクラブの半数を占め、人数において2、3年生を圧倒した。数量において勝るにとどまらず、質的にも多様で個性の強い児童を含む点において特徴的な1年生であった。これらの条件をもった56年度入所児童が卒園するまでの3年間は、グループ、個人の変容が非常に鮮明に表われた期間でもあった。この意味において、この3年間の研究対象としたのである。

2. 研究資料と方法

まず、使用した資料を列挙し、資料についての説明を加えたい。

○グループ記録(A)

毎日、各グループの状況につき逐時式で具体的な事柄を記録したものである。順番制で各ワーカーが1人

ずつ担当し、出来るだけ全体を把握するようにするが、記録に当っては担当外ワーカーの情報をもって補足する。

○活動日誌

毎日、当センターの活動全般について記録する。これもワーカーの当番制で担当する。学校や家庭との関係については、必要に応じてケース記録の方式をとっている。

○個人記録

個人の行動のうち必要と判断したものを記録する。いわゆる問題行動に偏らず、良い行動にも着目している。各ワーカーが随時記録するものである。

○グループ記録（B）

専任ワーカーが、主としてグループ記録(A)担当外の日随時記録する。

以上であるが、グループ記録(B)を除く資料は、専任ワーカーと共に非常勤の寺嶋敏子(56年4月～59年3月)、志村敦子(56年4月～58年9月)が当番制で書いたものである。

研究資料整理の作業手順として、56年度寺嶋、57年度田中、58年度須之内が各資料に目を通して整理し、3人で協議の上分担執筆する予定であったが、寺嶋が退職したため56年度分は緒についたところで須之内が引き継いだ。

Ⅲ. 一年周期としてみるグループ・プロセス

グループ・プロセスを記述するに当って、年間プログラム、グループの主な動き、ワーカーの意図・動き、外部との関係、考察の枠組みを設定した。ただし、枠組みに柔軟性をもたせ、記述の重複を避けたため、4つの枠組みを総体としてとらえていただきたいと思う。次に、年間のプログラムと4つの枠組のうちグループの主な動きについて、ここではどのように考えているか述べておきたい。

1. Mクラブのグループ・プロセス考察上の前提条件

(1) 年間プログラム

日常的なプログラムである自由遊び、おやつ当番、掃除当番は除外するが、実は、この自由遊びの中にこそ子どもたちが自主的に作り上げた多彩なプログラムが存在すると考えている。Mクラブでは、全プログラムに全員参加を強制していない。全員参加のものは、自由遊びを主体とし、掃除、おやつ、行事としてキャンプファイヤー、クリスマス会、連合スポーツ大会、遠足、父母会共催のバスハイク、おやつ作り位のものである。週一回の工作、裁縫、近隣での園外保育などは自由参加としている。

園外保育の自由参加の方法は、Mクラブ独自のもので、参加希望のメンバーが自分の名前を黒板等に書くというやり方である。これは全員参加型の行事にも生かされていて、出し物の参加をメンバー自身が表明する。もっとも字が書けなかったり、消極的なメンバーにはワーカーが積極的に働きかけることになる。

なお、Mクラブの活動内容については「実践記録」(3)において述べている。

(2) グループの主な動き

各々の時期における特徴的な動きを示す。ここでは当然、典型的な動き、つまり頻度が高く、長時間に及ぶ、多くのメンバーが参加する活動は第一に挙げなければならないであろう。しかし、3条件を備えていない動きが主な動きの範ちゅうに入らない訳ではない。極端に言えば、ある1人のメンバーの動きが主要な動きになり得るからである。また、サブグループの動きも見逃すことができない。

次に、Mクラブの特徴と思われることについて説明を加えたい。

(ア) ワーカー集団

専任ワーカー、非常勤ワーカー各2名が原則で、1日3人体制をとっている。自由遊びにおいては1人がグループ全体を把握することにし、校庭など外回りを担当するが、子どもの遊びに参加しながら他のメンバーを観察したり、動き方は多様である。他の2人のワー

カーは主として小グループや個人の援助に当るが、外遊びが多数の場合は3人共外に出るなど、基本的役割分担があっても互いに状況に応じ補い合った動きをすることにしている。

昼食時と子どもが帰った後、処遇について話し合いを行う。

(イ) おやつ時間に遊びを誘うこと

このことは、全メンバーに遊びを誘うことを意味しているので、リーダーシップが明確に表現される行動である。

なお、グループ・プロセスの記述において、常勤ワーカーと非常勤ワーカーの区別する必要がない場合には一括してワーカーで表わし、区別する場合には非常勤ワーカーをワーカー（非）と表わす。

2. 56年度のグループ・プロセス

〈年間のプログラム〉

4. 7 新入会児歓迎会

- 9 本木第二公園に遊びに行く
- 10 工作 割りばし鉄砲
- 11 裁縫
- 17 工作 折紙の箱づくり
- 20 工作 弓矢
- 22 高野公園に遊びに行く
- 23 高野公園、ぞう公園に遊びに行く
- 24 工作 二面相 塩川ボランティア指導
- 25 裁縫

5. 1 工作 葉書とコーキ

- 2 裁縫
- 8 工作 パラシュート
- 9 裁縫
- 13 ぞう公園、高野公園に遊びに行く
- 22 工作 ストローで回す輪 塩川ボランティア指導
- 29 工作 ヤジロペー
- 30 荒川土手にザリガニ釣り小遠足

- 6. 5 工作 豆を食べる鳩
- 6 父母会共催のおやつ作り カレーライス ゼリー
- 12 工作 風車 塩川ボランティア指導
- 13 裁縫
- 19 工作
- 22 工作
- 26 工作 ポップアップカード
- 27 裁縫 原っぱに虫採り

7. 7 セタまつり

- 10 工作 クリップ使用の蝶
- 11 北鹿浜学童祭りに参加
- 25 父母会の模擬店とキャンプファイヤーの集い
- 27 原っぱに虫採り

8. 3 共同製作（彫金）開始

- 25 父母会共催のすいか割り

9. 4 工作 紙のほうき作り 塩川ボランティア指導

- 11 工作 くるくる回るヒコーキ
- 12 本木東児童館仲よし縁日に参加
- 18 工作 ぶんぶんゴマ作り

10. 1 裁縫

- 3 裁縫
- 9 工作 歩くあひる
- 10 団地の原っぱに虫採り
- 15 本日より見学実習（11月30日まで計12回）
- 16 工作 星型モビール

17 父母会共催のおやつ作り 手巻き寿し 豚汁

- 23 工作 動く亀
- 24 裁縫
- 30 工作 紙ひものコースター

11. 6 工作 しゅりけん飛ばし

- 20 工作 ペンダント

- 21 裁縫
- 27 工作 空缶の貯金箱
- 12. 4 高野公園に遊びに行く
 - 5 裁縫
 - 19 クリスマス会、父母会主催会食会
 - 22 工作 シャンデリア 塩川ボランティア指導
 - 26 裁縫
- 1. 20 本日より砂ねずみ2匹を飼う
 - 29 工作 紙粘土の花びん、筆立て
- 2. 5 工作 紙粘土の花びん、筆立て
 - 12 工作 木工
 - 13 父母会共催のおやつ作り
 - 19 工作 砂ねずみの家作り
 - 24 体育館ドッチボール
 - 26 工作 まくらめのプードル犬
- 3. 1 工作 まくらめのプードル犬
 - 2 工作 ♪
 - 3 ひな祭り
 - 12 工作 クレープの花
 - 13 工作 ♪
 - 19 工作 ブラバン
 - 20 工作 ♪
 - 21 父母会共催バス・ハイク 交通博物館
 - 26 おわかれ会

第1期 準備・開始期（4月上旬～5月中旬）

集団の主な動き

〈4月〉

1年19名と2年カヨミという丁度グループの半分の新入会児を迎える。特に男の子は個性の強い子が多く、利かぬ気の強そうな子が多くて大変そうだなというのが第一印象。非常勤ワーカー2人（毎日交代）も本年度より全く新しい人に入れ替る。

1日目、早速O保育園同志のマサイチ、アツオ、ユウタは前庭で野球を始める。運動好きなのが感じられる。他の1年生も2～3人の小グループに分かれて、保育園同志、クラスが同じになった同志で遊び、順調な滑り出しであった。しかし、マサヨシは、皆がまだ本当の自分を出さず「猫をかぶっている」初日にして、ワーカー(非)をたたき乱暴な様子が伺える。午後、下校した3年、シンジ、コウヤ、ケンジは、2年のヒデミツを混ぜて、早速キャッチボールを始める。(シンジは1年生の10月に途中入会した。2年生の時はコウヤについていることが多く、反抗的な言動が多い。コウヤは運動も得意で全体にバランスよく能力を持っている子。ケンジは運動能力は抜群だが、どもって話し学業は振わず、おしっこをチビることが多くよくズボンの前がぬれている)1年生には全く興味を示さない。この4人でキャッチボールする日が続いた。ワーカーは3年ナホコ、ユミ、1年ヒデオと高鬼をする。そこに1年タカコ、ヒトエも近づいて加わり、2年アツコ、ミワコ、更に3年マサタツ、1年アツオも加わる。このようにワーカーが加わった遊びに次々にメンバーが加わっていくのは1学期の特色で、ワーカーは各学年の子どもを結びつけるパイプの役割を果たす。その時の連なかりを基に、ナホコ、ユミはその後も続いてタカコ、ヒトエと一緒に中当てをする。3年女子はリーダーシップをとろうと試みている。2年ユリ、アツコも1年生を遊んであげる。

1週目の様子をワーカーの動きを中心に記してみよう。

卒園児とワーカーがやっているプロレスに1年マサイチ、テツシ、アツオが加わる。

3日目、1年生を近くの公園に連れていく。ワーカー(非)がハンカチ落としなどをもちかけるが、反応がない。影ふみには女子全員が参加したが、男子でヒロト、ユウタ、ヒロユキ、ジュンヤは全く興味を示さなかった。

9日ナホコ、ユミ、ミサ、ミワコとワーカー(非)で

かくれんぼをした。ワーカーを仲間はずれにすることで一致団結する。新しいワーカーに対しての意地悪、攻撃、反抗を2、3年生の女子が団結して行うのはよくある行動パターンである。1年生とオセロ、ピンポン、バッティングをする、工作を教えるなど1対1のかかわりも多い。特に1年生は先生と遊ぶのを好む。3年マサタツ(身体は1年生と同じ位小さく、勉強も遅れ、情緒的にも未発達で、乱暴、かみつきな学校、クラブともトラブルがたえない)は先生と遊ぶのを好む。10日ワーカー(非)とピンポンをした。途中電話に出たり、他の子にかかわったりすると「またかよ」「先生はやくっ」と大きい声でどなったり、ラケットでテーブルを強くたたいたりする。

週末にはシンジが野球を誘い、ワーカーも加わり2、3年生女子ミエ、ユミ、ミワコ対1年生ユウタも加えた男子シンジ、ヒデミツ、マサタツで野球をした。

2週目になると、13日、1年生はワーカー(非)も一緒に男女混じって11人もの人数で中あてをする。ヒトエ、マサエ、リカ、シズ、マサイチ、ヒロユキ、トモテル、テツシ、ヒデヨ、クミ、ヒロコである。しかし、3年シンジたちが下校して加わると1人づつ抜けていった。同じ日ワーカーが加わることでコウヤ、シンジは1年生トモユキ、アツオも加えて野球をした。おやつの後始めて10人という多人数の野球が行われる。シンジ、コウヤ、タカオ、ヒデミツ、ミエ、ミワコ、トモユキ、マサイチ、テツシ、マサタツである。この時期に女子が加わっているのはめずらしいことである。

11、13、14、15日と多人数の木のバットでの野球が続く。15日、ケンジは黙々とピッチャーをやる。(負けてかっかして、わざと高いボールを投げる子も多い)相手チームの子とも何かと会話しながらこやかである。ワーカーは、「ケンジ君がいると、あなたって怒りっぽくないでしょ。負けても怒らないからすごく楽しくできるわ」「ウン」「明日も来てね!」「うん」と話す。ケンジのリーダーシップを支持する援助をする。引き続き17日、27日、28日もオヤツ後、野球が行われ

る。28日は専任ワーカーが審判をしていたせいもあるが、コウヤも同チームのヒデトが、ヒットで出てホームインすると頭をなでて「おまえ、えらい」と言ったり、バットの構え方を教える時も「な、な、」と言いながらやさしい目付きをする。

1年男子、7人も相撲やプロレスをすることもあった(16日)。テツシは強く、乱暴なのが目立つ。1週目は部屋の中にいることが多かった1年生は中当て、野球にと活動的になる。

15日、コウヤ、シンジ、ヒデミツとワーカー(非)でプロレスをしているところに1年シズが加わる。シンジ、ヒデミツは本気になって「やっちゃえ、やっちゃえ」と2人でかかるなどスキがあれば攻撃性むき出しである。また同じ日折角女子も入って野球をしても、途中でミエが止めると「なんで途中で抜けたんだよ」と他の子と一緒ににはげしく責める。1年同志2階にある大きい木箱に入り楽しんでいるところに加わるが、手加減しないで毛布をかぶせるためワーカー(非)が止めさせたこともあった(16日)。シンジはこのように攻撃的で、とてもやさしくリーダーシップをとるというのではない。

2年アキカズ、ナオト(途中入会、1人だけT小学校)が1人でいることが多い。

3週目、22日オヤツ後にはシンジたちは1年生のマサイチ、テツシ、ヒロト、トモテル4人も加え野球をやるようになった。3年ミサ、ミエも1、2年を加え8人で高鬼をして遊ぶ。

絵かき、工作、折紙などの室内遊びも活発であるが、屋外での小グループでの遊びも活発である。隣接した所に紙工場の原っぱがあり、そこで盛んに虫採りをする。特にマサタツは虫採りが大好きで、仲間がいようとまいと、連日虫採りに興じ、虫採りの技術も優れている。雑草での花束作り、プレハブでのままごともよく行われた。主として2～3人から4～5人までの単位の遊びである。

本年から金曜日は工作指導の日と決め、あらかじめ

用意したものを教える。また、月一度は塩川ボランティア(本学卒業生)が工作指導を行う。

マサヨシは特異な存在である。表情は暗く友人とも殆んど遊ばない。ワーカーとも殆んど係わろうとしなかった。1日参加しただけで8日から、はやり目のため暫く学校もクラブも休まなくてはならなくなった。(これが後に大きくハンディとなる。)20日から再び参加し、野球に興味を持ち、すっかり凝る。2人のワーカー(非)は来る日も来る日も彼のバッティングの相手をしてひたすらボールを投げ続ける。「うまく打てた時の顔は何ものにもかえがたい」とその苦勞と喜びが記されている。

〈5月初旬~中旬〉

ドッチボールが盛んに行われる。特にコウヤ、シンジ、ケンジ、マサタカ、ヒデミツは熱心である。1日オヤツの後はこのメンバーに1年ヒデト、テツシ、マサイチも加わる。3年ヤスヨリ、2年ナオトも加わるようになる。1年生もドッチに興味を示し、ボールを上手に受けたり、投げたりできるようワーカーと熱心にボール投げの練習をし(マサイチ、ヒロト、マサヨシ、テツシ、ヒデト)、徐々にドッチボールに加わるようになる。シンジ、ヒデミツでバッティングをしたり、マサタツとタカオでキャッチボールする姿もよく見られる。9日ケンジらを中心に9人で始めたリレーに、ワーカーが更に1年ヒロト、トモテル、テツシの3人を入れて、12人の大きなグループになった。シンジが「足が痛いからやりたくない」というのを聞いてヒデミツも同調した。シンジの言動を支持するヒデミツとの関係が確立しつつある。また、13日公園に遊びに連れていった時も、シンジ、ヒデミツはクラブ外の子になまいきだと言い背、頭をたたき、泣かせた。西沢実習生の18日の記録によると「一年生の女の子と一緒に遊んでいると、平和を破壊しだす子たちがくる。……3年のシンジ君。全く私をばかにしたような態度で、初対面の謙虚さなどなく『高校のやつだろ』など言いながら、強暴、乱暴のすさまじさ。三年生のマサタツく

んと二人で、私にいじめるような感じで、ボールをぶつけてきたり、字のおもちゃを雨のようにバンバン投げたり、一年生の方へ松ぼっくりを投げたり、エネルギーがあり余っているという感じのすさまじき光景である。」と述べられている。

一方15日、3年生のユミ、ミエも西沢が1年の男子と一緒に鉄棒しようと言ったら「1年の男子となんか一緒に遊ぶのやだ」と言った。18日、2年のミワコ、ユリは西沢と3人でかくれんぼをしようと言う。それまでのこおり鬼には入れていたのに「ミホが入るならやだ」と言い出す。西沢が「みんなで遊ぼう」と言うが二人で内緒話などして、「もういい、じゃあ、そっち三人で遊べばいいでしょ。私たち二人で遊ぶもんね」と言い、ぶいと向うへ行ってしまった。以上のようにメンバー間の結びつきも少なく、雰囲気としても攻撃的、荒々しさが感じられる。

1年同志はこの頃になると打ちとけて、1年だけの大きな集団で遊ぶようになる。アツオ、ヒロユキ、マサイチ、テツシ、アキトシ、エイキでダンボールで宇宙船のようなものを作って遊んだり(7日)、マサイチ、ヒロト、マサヨシ、ユウタとワーカーで野球(14日)をしたりである。しかし、野球ではこの時期打つことしか考えていないので、いつもピッチャーをやっているワーカーが抜けると長続きしない。

マサタツは幼児っぽい面が多く、乱暴、いばるなどのためシンジ、ケンジらは彼の存在は認めているが、同じレベルの3年生としては扱っていなかった。しかし、9日得意のパチンコを作ったマサタツはパチンコ屋を始め、ワーカーの援助の下に、シンジ、ヒデミツ、ケンジが客となって参加したように、得意なことで能力を示そうと試みるようになる

マサヨシは風疹が治り、6日より出席する。マサタツの釘を打って作ったパチンコの釘をつぶしたり、絵を描いている途中女の子の袖に絵の具をわざとつけたり、アキトシらの見ている図鑑を勝手に自分の方に引き寄せたり絶えずトラブルを起こす。

外部との関係

4. 4 新入会児保護者オリエンテーション

7 新入会児歓迎会

18 父母会

27 〇小担任、アツオを頭痛のため連れてくる

5. 16 父母会

ワーカーの意図、動き

第1期は物の取り合い、大きい子に遊びの邪魔をされたりトラブルが連日数件あり、それにより泣く子も多い。マサヨシ、テツシは特に乱暴で、4月当初から、1年同志のつかみ合いのけんか、ハサミ、イスなどを使ったケンカも多かった。特にマサヨシは表現力が未熟なため、すぐに、ける、なぐるなどした。そのためその解決、対応のために大わらわである。1年アツオは母子分離が不完全で、母親との関係が確立されていないために、23日にはころんで弁当がめちゃくちゃになったとは泣き、4月14日には頭が痛いと言われ学校から泣いて帰り、地田太踏んで20分以上泣くなどの（実は母が在宅であることを知っていた）ため、ワーカーとの信頼関係を確立し、クラブに安定できるように心がける。一方、母親は母子関係が不安定であるのに無理やりつき放そうとする文句ばかり言う怖い母親であるためお迎えの時、話し合うなど母親へのアプローチも試みた。

1年アキトシも興奮しやすく、すぐ泣く。また、ヒデヨ、ヒロコ、タカコ、ヒトエの友人関係をめぐるとトラブルもほぼ毎日あり、誰かが不平不満を訴えにやってきた。誰かが仲間はずれにされいじける、泣くと言うものが多かった。アツオ、アキトシ、ヒデヨ、ヒロコ、タカコとも〇保育園の出身で、委しゅくして言葉表現が発達してなく、自律していないための問題が多かった。14日にはユウタが「Mクラブは動かないのでイヤダ」と言っている、15日にはアツオが「いじめっ子がいるので行きたくない」と言っていると各々の母からの電話であった。どちらもクラ

ブ自体の問題と言うより母子関係の不安定さから来る4月によくある訴えであった。

マサヨシは、4月当初、遊びや昼食を通してのワーカーと1年生の信頼関係を確立する貴重な時期にはやはり目のため欠席をせざるを得なく、大きく出遅れることになる。同じ保育園出身者はいないことや、情緒的に問題を持つ上に、更にこのハンディのためその後、その分のワーカーとの関係、グループへの参加にワーカーは多大なエネルギーを投入することになる。攻撃的なマサヨシは、バットに球を当てる快感を味わうようになる。攻撃性を遊びの中に昇華できるよう意図的にバッティングに興味を向けていった。技術を向上させることによって他人との正常な係わりの持てないマサヨシを野球などの遊び仲間に加わせようという見通しも持っていた。特に、非常勤ワーカー2人が熱心にバッティング相手を続けた。

1年生が多いため、そのケア、家庭との連絡の多い時期でもあった。

1年生に対しては、バッティングのピッチャーの役割、ドッジボールのなげっこを特に積極的に果した。1年生の技術の向上により各々に達成感を体験させ、身体を動かすことにより抑圧された精神を解放し、更に技術の向上をもって2、3年生の集団に円滑に仲間入りできることをねらったものである。

一方、3年生のあり方がその集団の質を決定づけるため、専任ワーカーは、気を配った。下級生をやさしく誘い、親切に教えるよう、援助をする。得意な分野で、リーダーシップが発揮できるよう、各々の能力の良いところを支持し、自信を持たせる。

この時期に必ずあることだが、1年生の入会により、2、3年は先生をとられたような不安な気持ちになり、ミエ(父子家庭)、ユミのようにワーカーにおぶさってきたり、膝の上ののったりすることが多くなる。ミチヨはちょっとしたことにワーワーとしつこく泣くようになり、ワーカーの関心を得ようとする。2、3年生の自己存在アピールと受けとり、受容的態度で接する。

考察

ドッチボール、野球、リレーなど大きいグループでの遊びも時々見られるが、それは2、3年生中心のもので、全般的には2〜3、4人の小グループに分かれての遊びが多い。

シンジは、野球を誘うなど試みるが、継続的に毎日誘うということにはならなかった。3年生に積極性がなく、お互いに相手の出方を待っているという陰湿な感じがあった。どの3年生も未熟で積極的リーダーシップをとるに至らない。5月の動きに記したように、シンジを中心にした陰湿な動き、女子メンバーの排他的な感じはこの時期を象徴している。シンジのことを少し解説すると、3年生になってこれほど意地悪、扇動的なことをする子は珍しいことである。シンジは途中入会で、2年の時はコウヤにいつもついていた。途中入会のためワーカーとの信頼関係の薄い子であった。3年になりわかに行動が目立つようになった。

しかし、4月後半には、専任ワーカーが審判をする時は、3年生も穏かにリーダーシップをとる兆しを示し始めた。

21日は、テツシが弓矢作りのセロテープが上手く巻けないと泣くのを見たシンジが、見かねて「泣くなよ」とやってやるという場面もあった。

ワーカーは遊びに積極的に加わったり、遊びを提案したり円滑に遊べるようにするが、未だ、ワーカーが抜けることによって遊びが続かない時期でもある。

第2期 発展期（5月中旬～7月25日）

集団の主な動き

〈5月中旬～下旬〉

バッティング、キャッチボールは個々には前庭でよく行われていたが、木のバットでの野球は18日1日だけであった。それも、オヤツの時コウヤが誘っておいて、「ヤメタ」といったのをワーカーが「そんなことしたら今度またあなたが誘ってもみんななくなるよ」と注意すると野球をすることに決める。コウヤ、マサ

タツ、ヒデミツ、1年のヒデト、ヒロユキ、それにミサ、ミエ、卒園児のタミコの女子も加わる。シンジはあとで加わった。ヒロユキは途中で抜けた。まだ大きい子と一緒にやる勇気のないユウタは楽しそうに見ていた。ドッチボールは20、22、26日に大勢のメンバーが参加して行われた。コウヤ、シンジ、ヒデミツのいつものメンバーにタカオも加わり、女子もミサ、ミエ、ミワコ、ユリが参加、卒園児のタミコ、トモユキも加わる。3年生の態度も変わり、おだやかにゲームができるようになる(20日)。22日のドッチにはエイキ、テツシも加わるようになり、26日は今回始めてタカオが誘う。シンジ、ヒデミツ、1年生はユウタ、アキトシ、アツオ、ヒロト、テツシの5人も加わった。

27日、ワーカー（非）がシンジたちに怖い話をせがまれ話したのがきっかけで、シンジ、ヒデミツ、サトルは2階で、机、ゴザ、毛布を使っておぼけ屋敷を作り出した。入場券を作ったり、ポスターをあちこちにはって入場者を募った。多くの者が入場した。ミエ、ミホ、シズ、ヒデオ、ヒロコ、テツシ、ヒロユキ、エイキ、アキカズである。何の変哲もない中を暗くしただけのおぼけ屋敷で、ワーカー（非）の助言により工夫が加えられた。その後、1年生が同じ遊びを始めた。2階でシズ、リカが、プレハブでエイキ、テツシが始めた。この時期、3年生の始めた遊びを遅れて1年生が真似するのはよくあることである。

25日からコマがはやり出す。2、3年生は殆んどの子が回せる。2、3年生に混じって、ヒロユキ、マサヨシ、ヒロト、ユウタも練習を始める。26日にはやっと各々が1回回る位になる。27日には新たにアツオ、テツシの1年生、女子もミワコ、ミホ、ミチヨ、マサエ、クミヨも加わり13人もが参加した。1年生にはワーカーが何回も何回もひもを回してあげる。

丁度、この時期はザリガニの時期である。虫の大好きなマサタツは22、23、25日とも無断で池に行ってしまう。注意しても注意しても27、28、29日とヤスヨリも加えて出かけてしまう。丁度、時機を得て23日例年通り

荒川土手ヘザリガニ釣りのプログラムを入れるが、雨天のため、30日に実施した。子どもたちは興奮する。マサタツは、日頃落着きがないのに、一人でため知っていた穴場に陣どり、集中して100匹も釣った。他の子が見るのもいやがっていたが、帰る時皆んなに配ってあげた。

季節と共に、プレハブでの遊びも活発に小グループで展開される。女の子だけでなく男の子もよくまごごとをした。

徐々に大きいグループでの遊びも活発になるが、2、3～4人位のサブグループでの遊びも活発である。この時期気の合う仲よし同志ができ、そのため集団の中でも気持ちが安定し、集団への帰属意識も増してくる。ヒロトとトモテル、クミヨと姉のミチヨと妹のマサエの3人組、リカとシズ、2、3年生は前年から続いた仲良しのミワコとユリ、ミエとユミ、ユミはミサ、ナホコとも仲よしである。2、3年生のサブグループに1年生が1、2人参加して遊ぶ姿がよく見られるようになる。

22日、工作指導のボランティアの塩川氏は、オヤツの時ミサ、ナホコ、ユミ、ミエの前に座った。ユミとミエが膝を立てて食べていたので「足をそんな風に立てるのはおかしい、おろしなさい」と言う。「これは体育座りというんだよ」「そんなにいうならこなければいいのに」と言った。ミサ、ナホコ、ユミは乳児の時からずっと保育園が同じで、強い絆で結ばれていて、3人で非常に攻撃的になる時がある。前年度も新米の小柄なワーカー（非）に3人で頭から砂をかけはじめたことがあった。

2年カヨミは、学校、近隣でも友人がいなく、乱暴をするなどの問題行動が多いため、本年よりクラブに入会することになった。プレハブでのまごごとがお気に入り、ほぼ連日閉じ込もって遊ぶ。マサヨ、ミホらと遊べてはいるが、ワーカーが見ていない時に意地悪をしたり、入れてと言う子に対し、他のメンバーは賛成しているのに一人だけイヤと言ったりなどのため、

親友がなかなかできず、無断欠席も多く、またワーカーとも信頼関係が確立されるに至らなかった。

マサヨシは、人の使っていた画用紙を切る、18日には学校のプールのガラスに石を投げて割る。27日は学校の教材用の双葉の出た朝顔の苗を5本引っこ抜くなど目を離せないが、14日には前庭の木に120cm位登れるようになったり、28日にはこまが始めて回せるようになるにつれ、目立つ行動の数が減ってきた。29日、西沢はこまひもを何回も巻いてあげた。西沢を媒介として、その日はマサイチや女子とこま回しをしたり、その後、その女子と西沢の始めたドッチボールにも入り、友人とも遊べるようになってきた。

<6月>

しばらく下火になっていた木のバットを使っての野球が、再び盛んに行われるようになった(3、4、6、8、9、10日)。ドッチボール、中あて、盗るいもよく行われ、ユウタ、テツシら1年生も参加するようになり、ミワコ、ミサら女子も加わった多人数で行われることも多くなる。

大きい存在であったコウヤが、引越しのため6日で退会した。3年生の力関係が微妙にゆれ動き始める。8日月曜日、早速マサタツとケンジは自分を誇示し始める。マサタツはおやつの時、皆んの前で「オレおやつ食わない」と言って、なかなか席に着こうとしなかった。皆んな注目される動きをしていた。また、ドッチボールを誘いかけたのだが、1人1人にしつこく聞き、いばっている態度であった。結局、やったのは、サトル、ヒデミツ、ユウタ、アツオのたった5人であった。マサタツの怖さを物語っている。アツオがやらないと言い出すとユウタに命令していじめさせようとした。一方、ケンジはタカオ、ヤスヨリとゴミ捨て場で拾った乳母車に乗って遊んでいたが、車に乗っていたのはいつもケンジ一人で、他の2人はその車をずっと押していた。二人はデス、マス調でケンジに話し、おだてたりしていた。

しかし、マサタツは11日にはおやつの時、乳母車を

やるから乗りたい人は葉っぱを持って来るようにと呼びかけた。マサタツは乳母車をずっと引っ張り、多くの子を乗つけた。タカオ、ヒデミツ、ヤスシ、サトル、ミワコ、テツシ、ミエ、ヒトエ、ヒロコ、アツコが交替で乗った。切符売り場までできて実に楽しそうだった。マサタツが、全然いばらず、リーダーシップをとって満足感を味わう始めての体験であった。

1～13日まで、シンジはハシカで欠席し、その間のできごとであった。

マサタツは、11日にはヤスヨリ、ヒロトに家まで送らせたり、12日エイキの頭をぶったり、ヒデミツを泣かせたり、自分が家を作ろうと女の子たちが使っているゴザをひっぱり取ったり、19日はオヤツ当番で配っているポテトチップをワーカー(非)の目を盗んで二度も食べたり、26日はマサヨシのザリガニをマンホールに捨てたり、一時も目を離すことができない。しかし、ケンジのいない時17日、六虫を、19日には盗塁をおやつの時誘うなど正しい方法で3年らしさを発揮するようになってきた。六虫には、シンジ、ヒデミツ、ミサ、ミワコ、マサエが入った。盗塁にはヤスシ、ヒデミツ、ユウタ、テツシ、ミチヨが入った。ミワコ、ヤスシ、テツシは明らかに電車ごっこでの結びつきである。

前後するが、16日はオヤツの時、しばらく休んでいたシンジが、ドッチボールを誘った。ケンジ、マサタツ、ヤスヨリ、トモテル、マサヨシ、タカオ、ヒデミツが参加したが、ケンジ、マサタツはシンジの呼びかけだったためか、ゲームの最中2人で自転車を乗り回すなど真面目にやる気がない。

20日のドッチボールは、シンジ、タカオ、1年のヒデト、アキトシ、ユウタも加わるようになった。

8日にはエイキの誘いで、ヒロト、トモテル、アツオ、マサイチ、テツシの1年生ばかりでプロレスを、長い時間熱中してやった。あとでカズトも加わった。また、17日には、アツオとヒデヨとワーカー(非)でボールを投げをしていたところに、マサヨシ、ヒロコ、

マサイチ、ヒロユキも来て中あてになった。このように1年生同志の大きい集団として遊べるようになってきた。しかし、タカオ、ヤスヨリが途中から入るとマサイチは抜けた。

22日は0小の代休日であった。ユミの姉を含む4年3人が参加してユミ、ミワコと一緒にぬり絵屋を始めた。机を組みたて窓口を作ったり、見本や料金表を作ったり手がこんでいた。8×13cmの虫や女の子の可愛い絵は人気のマトとなり沢山の子が紙のお金を作りお客さんとして参加した。次の日、早速、ヒトエ、タカコがぬり絵屋を始めた。遊びは大きくなり、ヒロコ、シズ、リカ、ミホ、カヨミが客として加わった。マサヨシ、テツシも真似て、うつし絵をして店の準備を始めた。

26日には、2階で家ごっこを、マサイチ、エイキ、ヒデヨ、ヒトエ、タカコで始め、そのメンバーでジャングルジムへも移動した。この数日前から、このように1年の男女が混じって先生を混じえなくても遊ぶことが多くなる。

一方、ヒトエ、タカコ、ヒロコはプレハブでままごとなどを一緒によくするのだが、ヒロコが変な顔をしていじけていたり、泣いていたりすることが相変わらず多い。ヒロコが、自分の意志をはっきり言えないところがいやがられるようである。

また、子どもたちの遊びが活発になるにつれ、1年生のケンカが急増する。それも危険ではげしいものが多い。5日にはマサイチとアキトシのおやつのとおり合い、アキトシとエイキのなぐり合いのケンカ、20日にはテツシとエイキが家を作って遊んでいるところにマサヨシが入れてといったが、テツシがイヤだと言ってケンカになる。2人とも、すさまじい勢いで、双方とも何か持ってなぐりかかる。止めに入ったワーカー(非)もなぐられた。テツシは椅子を持ち上げぶつけようとし、同ワーカーが止めるとすかさず棒を持ってマサヨシになぐりかかる。なぐられマサヨシが泣く。11日に、アキトシは「大変人！」とからかわれ、両手

にハサミを持って怒るなど興奮しやすい。攻撃的な1年が多い。

リレーが、23、25、30日に沢山のメンバーで行われた。23日はシンジが誘い、マサタツ、ヒデミツ、ヤスヨリ、ミチヨ、ミワコ、ヒロト、ユウタ、マサイチ、シズと男女、学年も混じえての参加だった。タカオも途中誘われ入る。ワーカー(非)とアツコも途中から加わり、活気に満ちる。30日のリレーは専任ワーカーが見ていたため、ケンジが参加したが、マサタツはいじけずにリーダーシップをとった。

26日は、マサタツ、シンジは休みであった。タカオが誘い1年も、女子も加わり盗るいをした。

シンジは、野球の時、審判のワーカーが相手チームの子をセーフと言うと「アウト」と言い「オレがかわいくないからだろ」とワーカーに対する不信感は根強かったが、20日にはワーカー(非)にプロレス、盗るい、ドッチにといろいろ誘い、自分に関心を持ってもらいたい気持を素直に表すようになった。

マサヨシをめぐるトラブルは相変わらず多いが、少しずつ遊びに参加できるようになる。ワーカーのひざに座るなど甘えたり、20日にテツシとケンカしてやられ、始めて涙を流して泣くなど感情も豊かになってきた。

<7月上旬～キャンプ・ファイヤー>

木のバットを使っての野球は10日、23日に行われただけだった。ドッチボール、中あて、リレーがよく行われた。1日のドッチボールはシンジ、タカオ、マサタツ、サトル、ヒデミツ、ヒロト、ヒデト、マサヨシが参加。シンジがワーカー(非)に10分でコート・チェンジをする時間を計ってと自分から頼み素直な態度である。前半はシンジがマサヨシにボールを譲ったり、1年をかばったりいいムードだったが、後半はマサタツ、シンジがヒデミツを攻撃した。今まで、運動もその他の遊びにも殆んど加わらない2年アキカズの側に、2日のオヤツの時、わざわざ席を変え座ったり、3日には「アキカズあそぼう」と誘い、リレーにも参加した。15日の中あてでは、シンジがあとで入る形だった

が、「ドッチにしよう」と言い、ヒロト、ヒデミツがドッチはいやだと言うとボールを当てて言うことをきかせようしたり、反則をしたり雰囲気が悪くなる。タカオは「シンジが入るとイヤダよ」と言う。マサイチも、まだ2、3年生が加わるとすぐ抜けてしまう。ケンジは50mは級一の早さ、リレーでは生き生きしているが負けそうになるとタッチの時、5～6m前に出てズルをししたりする。しかし、同じ3日、シンジがマサタツをボール投げに入れれないというが、「マサタツ入ってもいいよ」とやさしい面も見せる。

リレーは1、2、3日続けてはやる。ヒロト、ヒデト、マサヨシ、トモテル1年ばかりで始めたところに、カスト、サトル、マサタツも加わった。

1日は、シンジがワーカーに「先生スーパーマンごっこしよう」と誘い、ジャングルジムでヒデミツ、タカオと4人で楽しく遊ぶ。ナオト、アキカズ、ヒデトも加わり高鬼となり、その後、かくれんぼになった。遊びもスポーツー刃倒からバラエティに富んだものになってくる。

2日、ミチヨ、ヒロコ、ヒデオで始めた店屋さんにアツコ、マサエ、クミヨ、タカコ、ヒトエとどんどん加わり、客としてテツシ、ユウタ、マサヨ、カヨミも加わった。3日も続けられ、ミチヨはいいリーダーシップぶりを発揮した。ユミも、2日にはナホコと共にミワコ、ミホといろいろ遊びをし、3日はナホコに代ってミサが入りいろいろ遊びで楽しく遊べた。

15日ヒトエ、タカコ、ヒロコにヒデオ、カヨミ、マサイチも加わり、プレハブでままごとをしていた。2度ケンカになったが、ワーカーが行くと「いいよ、いいよ」と自分たちで解決できるようになってきた。ヒロコをめぐるもめごともしなくなってきた。

13日から、キャンプ・ファイヤーに向けての準備、練習にとり組む。オヤツの後、毎日、キャンプ・ソングの練習を始めるがマサヨシ、アツオは逃げる。テツシはふざけたことを言ったりして騒ぐ。ミエ、ユミ、ミチヨ、ナホコは劇をやることになっていて17日は1

日その準備にかかっていた。マサタツはその頃から、ワーカーが劇の指導などで自分への関心が薄くなったのを敏感に感じとりイライラする。ワーカーはピンポンやキャッチボールの相手をする。17日には「荒川土手に行こう」と突拍子もないことを言い、執着する。マサタツはマサヨシを弟と呼び連れて歩く。17日には、マサタツはヒトエの使っている虫かごをぶん取りに行く。突然、「カヨミを泣かす。泣かしたいから泣かす」と言う。ワーカー（非）が注意すると、逃げてしまい、再び現れ、おやつを配っているところへお尻をたたきに来て、マサヨシに3回やらせた。

1年男子で劇をすることになり、マサイチが「虫の冒険」と言う話を作り、リーダーシップをとる。テツシも加える。ヒロトも誘うが、なかなか意志をはっきりせず、とうとうキャンプ当日入ることになり、あわててギリギリにカマキリの面を作らせた。

ケンジ、カスト、ヒデミツ、タカオのベープサートは子どもたちだけで練習するなど熱心であった。

人形劇をやるミサ、アツコ、ミワコは浅沼実習生が台本を作るよう声をかけると「先生が言ったんだから、先生が作らなければ…」と、新しい大人には反抗的である。

外部との関係

- 5月16日 父母会
- 5月18日 マサヨシ、ヒロユキ、トモテル、学校のガラスを割り警備員に謝りに行く
- 5月19日 O小学校教頭訪問、プール更衣室のガラスをクラブ児が割り、謝る
- 5月20日 マサヨシ母、マサヨシ他2名同伴、一昨日の件、教頭に謝る
- 5月28日 マサヨシ、教材用の朝顔の苗を抜き教頭に謝りに行く
- 7月11日 父母会
- 7月13日 マサヨシ、サトル、ワックスをかけた小学校の廊下に土足で入ったり出たりし、用務員に謝る

ワーカーの意図・動き

6月6日コウヤの退会により、スポーツなどではケンジもリーダーシップをとれるよう援助をしたかったが、マサタツと勝手にザリガニを取りに池に行ったり、無断で欠席するなど、クラブに安定しなかった。

マサタツは、他の男子を誘い5月の6日間に加え、6月1、2日にも勝手にぬけ出し、池に行く。7月にはマサタツ、タカオ、ヤスヨリは友人の家へメンコをしに行くなどマサタツを中心に無断で外へ行ってしまうことが多く、神経を使うと共に、男子メンバーに楽しく生活できるプログラム作り、ワーカーとの信頼関係を基に安定できるような働きかけをする。特に、情緒的に未熟だが、3年生としての役割を感じているマサタツには、毎日、学校から来てすぐキャッチボールの相手をするなど受容の態度で接した。これが、何らかの理由で行われない時は、集団に溶けこむことができなかった。6月11日学校の友人とドッジボールをしているところをワーカー（非）が見てあげると、強い球がとれるたびワーカーを見て、ニコニコするなど新しいワーカーとの信頼関係も少しづつできてきた。

3年ユミは、毎日どこか痛いと訴え、ワーカーがロンバスと包帯を巻くまで騒いだり、「先生、おんぶして!」と後ろから、絡みついたりする。ミエは少しおちついてきた。

マサヨシに対しては、6月はこまが上達できるようせせとこまのひもを回いてあげたり、一緒にこま回しをする。7月には仲間とこま回しをして遊べるようになる。

6月13日、タカオは、友人に花火をもらったと言い、マッチを自宅から持ち出し、マサタツ、ケンジを誘い団地で遊ぶ。6月15日、ケンジがタカオに、1,000円持って来いと言ったことが判る。13日の花火も、タカオが500円貯金箱から持ち出し、買ったものであった。早速、子どもたちにも注意すると共に、タカオ母にも連絡し、家にお金を置かないように話す。1学期には2、3年にこの種の出来事は、ままだが、特に新入

会児の多かったこの年、1年生のケアに追われ、ワーカーの目が、まだ充分でなかったことへの戒めと取るべきであろう。

考察

5月30日には、シンジは、ワーカー（非）に障害物競争をいどみかけ、負けそうになるとずるをして先にゴールしてしまったりしたが、6月20日には、2、3年生でドッチを楽しんでいるところに、マサヨシがはいりたいと言ってくる、全員いやだと言うが、ワーカー（非）が「いれてあげなさいよ」と言うと、シンジは「マサヨシ、きついたまでもいい？」マサヨシ考え込む。シンジ「じゃ中くらいにしてやるから、はいれ、はいれ」と言い、やさしい気づかいも見せるようになる。しかし、マサヨシがボールがとれず逃げてばかりいると、集中していじめ、タカオの投げた石が腹に当り泣かすというようにまだ、継続した下級生への配慮はできないのである。

しかし、同じ日に、シンジはワーカーが入る前からタカオ、ヒデミツ、1年アキトシ、ヒデト、ユウタも入れてドッチを始めていた。1年生と仲良く遊ぶ姿も見られるようになる。

6月17日の六虫には、ミサ、ミワコ、マサエが加わり、19日の盗るいにはミチヨ、ユリも加わり、20日の盗るいにも女子が加わるなど、横暴な3年生男子がいるのにもめげず、1～3年の女子が運動に盛んに加わっている。

6月4日には、砂場で遊んでいたいくつかの1年男子サブグループ7人をワーカーが見ていると、アツコ、クミヨも加わり9人で運梯をしたり、いくつかのサブグループが集り12人もが同時にシャボン玉をするなどお互いに密接な共同作業を連れいして行ってはいたのだが何となく1つのグループ構成をするようになる。

7月に入り、ドッチボール、リレーと1年生も加えた更に大きい集団での遊びが見られるようになる。シンジ、ケンジとも他人のことも考えリーダーシップを取れるようにも成長してきた兆しも見られるし、まだ

いばったりして従わせようとしたり、自分のチームに有利なようにしたり両面が見られる時期である。

ユリ、アツコ、マサイチでままごとをしたり、夏休みに入ってから22日には家ごっこをヒトエ、タカコ、エイキで始め、マサイチ、ユウタ、アキカズも加わったり、同じ日の文房具屋ごっこにはミワコの兄、ミワコ、ミホ、ミチヨ、クミにアツオも加わり、男女が混じっての遊びも自然に行われるようになる。

第3期 再編成期（キャンプ・ファイヤー以後の小学校の夏休み期間）

集団の主な動き

〈7月下旬〉

ビニール・プール遊びを27、29、31日とする。27、29日は原っぱに虫採りに連れて行く。27、28、31日と木のバットで野球をする。28日はマサタツが誘いタカオ、カズト、ナオト、アキカズ、ミワコ、クミ、アツコ、カヨミがやる。カヨミは始めて野球に参加。一塁のベースを踏んだが戻ってきて、ミワコらに文句を言われ、泣いたが、とても楽しかったようで「はじめてやった。おもしろかった」と何回も言っていた。マサタツは自分チームの得点にばかりにこだわり、ゲームを楽しくやろうという気持が全くない。チップでないのにチップだと言いはったり、ウソをよくつく。打てないと相手チームのピッチャーのミワコのボールの投げ方のせいにして、「おれも、へんな球投げてやる」とボールを強く投げる。女子は怖がってやめてしまい、ナオトは腹をたてやめた。それに対し「いいよ、やめればいいじゃん」と意地をはる。まだ、ズルをするので、ワーカー（非）が注意するとバットで地面をたたき、どなりちらして、バットを折ってしまった。Sワーカーが始めて野球審判をやり、マサタツの横暴さに振り回された。

マサタツは、ヒデミツにおんぶをねだるという彼らしいやり方で、自分の権力を試そうとする。

クミは、28日いつもの仲良しのミチヨ、マサエ姉妹

が休みだったが、すぐに、ヒロコ、ヒトエ、タカコ、ユリとお家ごっこをして一緒に遊べた。そこへ、カズト、アキカズも入った。クミはその日始めて野球にも入った。

27日、ユミは姉も参加して、ミエと折紙屋をした。

〈8月〉

この夏は、特に暑かったせいもあるが、ビニールプール遊びは、ほぼ毎日行われた。特に8月前半に毎日10人以上の子が楽しんだ。夏休みの共同製作は、アルミ板を釘で打出していく彫金をした。金づちを使って打つ作業は、おもしろい上に、攻撃的な子どもたちにもわいていて沢山の子が参加した。これも、ほぼ毎日取り組まれた。

木のバットでの、野球は、休館（12日～16日）以前は、全く行われなかったが、後半はほぼ毎日9日間行われた。大きいグループの集びとしては、ドッジボールも時々行われた。

休館明けの17日、マサタツは来る前に電話をかけてきて、「だれがきている？、3年の男？」とたずねる。その日は、3年男子は、ヤスヨリ1人だけだった。マサタツは、自分より強い3年が誰もいないと判り、昼食の時、ジュースを5、6人の子からもらって、コップに混ぜあわせたり（以前ケンジがしたことがある）、落ちついて食わず、大きな声でクイズを言ったり、注意した西沢をぶったり、蹴ったりした。おやつの時、ドッジボールを誘ったが、脅かすような言い方のため、1年生は脅えて加わろうとしない。それを見て、「みどりの全員やるんだ」と強制し、一人一人の所へ行き、脅かして回る。ミサ、ミワコ、ミホ、テツシ、アツオ、ユウタ、ワーカー（非）、西沢でやった。途中で、マサタツは当たると、それを認めず絶対外野に出ようとする。ワーカー（非）の注意に「そんならやらない」といじけて外に出る。今度、他の人の分をもらってやる「分あり」を主張しはじめ、他のメンバーはおもしろくなくなりやめてしまった。

22日、テツシ、エイキ、ヒロユキ、ヤスシ対ヒデミ

ツで輪ゴムの戦争ごっこをやろうとしているところに無理矢理マサタツが、ヒデミツの組に入ってきた。マサタツ組の輪ゴムがテツシにあたり、痛いと言った。ワーカーが中央のラインを決めたが、ヤスシはゴザにかくれ「当てられてもヤルナ」と指示したため、敵が全々出てこないでマサタツたちは、陣地に入ってきて側で輪ゴムをとばす。マサタツ、ヤスシは言い合い、陰悪になり、止めとなる。しかし、その後、ワーカーが、マサタツにいばらないよう約束させ、ヤスシたちと鉄棒に行き、お互いに、「クモ」「ナス、キュウリ」を教え合い楽しく遊ぶ。（ワーカーはついていた）

20日すぎ、参加人数も増えてきて、再び10人位で木のバットを使っての野球が盛んになった。25日の参加は、ケンジ、マサタツ、シンジ、ヒデミツの常連メンバーに、ヤスヨリ、カズト、ナオト、トモテル、テツシ、マサイチである。テツシ、トモテル、ヒロユキもよく加わるようになり、1年の参加が多くなる。今まで大きい子が入ると、よく止めていたマサイチも25日からは参加するようになる。野球人口の底辺が広がっていった。女子の参加は見られなかった。専任ワーカーが審判をして、長時間ゲームを楽しめる時も少しづつ多くなってきたが、マサタツが下手で、横暴なため長続きしない時もある。

25日、今まで休んでいた人も、一度顔を合せ、二期期の生活がスムーズに始められるように「スイカ割り」を行った。全般的には、皆んな楽しめたが、マサタツは、午前中、「オレやらないからね。野球をやるんだ」と言ったが、始まると1番にやり、何回もやる。ケンジ、シンジ、ナオト、ヤスヨリ、ヒデミツはやらないとつっぱり、自転車を乗り回していた。ワーカーが何回か誘い、ケンジが「やろうか」と言うと、さっと皆んなもやった。

4日、ユリ、ミワコ、ヒデヨ、クミコとワーカー（非）でやっている「だるまさんがころんだ」に、カヨミ、ミチヨも加わり、更にワーカーの誘いにヒロト、ナオト

も加わって楽しく遊んだ。クミヨは鬼になると、泣きそうになって下を向き、鬼ができない。すると、ユリが積極的に鬼になってあげた。5日、動物ごっこをしていたマサヨシ、マサイチ、エイキ、ユウタにスベリ台で遊んでいたユリ、ミワコ、ミチヨ、マサエ、クミヨの5人も加わり、更にカズトも加わった。マサイチはポニー、犬はミチヨ、兎はマサエという具合だった。4日、5日のように別々に遊んでいたサブグループ同志が結びついて大きい集団としての遊びも見られるようになる。5日にはお母さんごっこを、カヨミ、マサヨ、ミサでしたり、6日にはいろいろ遊びをミチヨ、クミヨ、マサエ、ユリ、ミワコでしたり、1学期には余り見られない組合せでの遊びが見られる。

夏休み後半は、26日の車ごっこは、ユリを中心に、ヒトエ、クミヨ、タカコ、カヨミ、アツコ、更にミサも加わった大きい集団の遊びが見られた。しかし、28日、アツコ、ユリ、クミヨ、リカで家族ごっこをしていて、アツコ、ユリでクミヨを取り合ってケンカになり、ユリが泣く。友人の多くなったクミヨの取り合いのケンカが時々あった。クミヨがおとなしいせいもあるが、ワーカーは、アツコ、ユリに「しゃべらないと言っても、あなたたちの言い方がこわくて、どう話せばいいかわかんないんじゃない」と言う。

外部との関係

8月25日 スイカ割り

ワーカーの意図・動き

トモテルは仲良しのヒロトの休みが続くと「もう帰ってこないかもしれない」と心配し、つまらなそうにしている。夏休みに入ってしばらくは、いつもの仲良しが続いて休むことで遊ぶ仲間がいなくなる。そのため、ワーカーが、4月初期の時のように、積極的に遊びに加わる。8月7日、ワーカーはユリ、カヨミ、マサヨ、ヒデヨ、クミヨと一緒に「花いちもんめ」「いろいろ遊び」をやった。カヨミは、やり方が判らず、ユリに「えー、ちがうよー」と言われ、泣き出す。長い間

泣いてすねていると、ユリがワーカー(非)に「先生が悪い」と責め、その他の子も調子を合せ出したので、ワーカーは怒って止めた。一見、理由がないとワーカー(非)も思っていたが、実は、この時期まだ3年生が未熟で、自分の力でまとめられず、先生の手を借りたいのに、先生が楽しく遊べるようにしてくれなかったという気持をよく表しているものである。

マサタツは、11日、エイキの首をしめる。マサヨシに「メンコをくれるといたのに、くれない」といって、上にのっかり、とちめていた。テツシにつばをはきかける。夏休みは、10時から30分位、多くの子が、TVの子ども番組を見ている日が多いが、後で来て一番いい席に強引に入りこんだり、ワーカーに見えないように回りの子をつねったりする。特に、8月26日、母が痔の手術のため入院すると、ますます落ち着かず、不安定で、つねったり、首をぎゅっとつかんだり、テツシの自転車をけったり、怒りっぽい。反面、ベタベタ甘えることもあった。父親の体罰による恐怖感、母親の無知と、反面甘やかしのため未熟で、我がままなパーソナリティで乱暴な行動が多い。ワーカーは、個人的にピンポンの相手、話し相手などをし、受容的態度を示すと共に、がまんを身につけるようインチキなどには厳しくのぞんで、彼の自律を目ざした。

考察

夏休み、初期は仲良しの欠席などで、1人っぽっちになり、遊べない子がいるが、今年は欠席者も少なく、その意味での援助は余り必要ではなかった。キャンプ・ファイヤーという集団として一つの楽しい経験を経ているので、意外な組合せも見られるようになる。

シンジが田舎に行って長期間欠席であったり、ケンジの欠席も多かったことは、マサタツ、タカオらがリーダーシップを取る良い機会ともなった。7月31日の野球は、マサタツが誘い、ヒデミツ、シンジ、トモテル、ヒロト、アキカズ、テツシ、アツオ、マサヨシ、ヤスヨリ、ユウタが参加した。1年生も参加して沢山のメンバーで遊べた。

第4期 成熟期(9月~12月)

集団の主な動き

〈9月〉

夏休み休んでいたメンバーも出席して、活気づく。夏休み以前の仲良しに、夏休み中に友人になった関係が加わり、友人の輪は大きく広がっている。

1日から、早速13人ものメンバーでのリレーが行われ、2、3、4、5日と続けられ、11日まで時々行われる。人数も13~18人という1学期には全く見られなかった大きな集りとなる。2日のメンバーは、マサタツ、シンジ、ケンジ、ヤスヨリ、ヒデミツ、カズト、ユウタ、マサイチ、マサヨシ、テツシ、女子は、ミサ、ミエ、ユミ、ミホ、アツコ、ミワコ、ユリ、シズと男女、学年も混じり合った構成である。ミチヨ、サトル、トモユキ、アツオも加わる日もあり、5日には、ヒロト、ヒロユキ、アキトシも始めて加わる。11日にはマサエ、クミヨも加わった。18日は、ヒロト、シズ、ユウタ、ミホ、マサヨシという1、2年のリレーには、サトルが始めて多人数の遊びのリーダーシップをとる。その日、始めてワーカー(非)にボール投げしようと手を引っぱり、専任ワーカーにも「先先、野球やろう」と誘い、自分から、近づいてきた。(サトルは、57年度3年としてリーダーとなる)

野球が再び、活発になる。前庭で、ビニールバットを使ってのバッティング、2組に分かれての野球、キャッチボール(この頃になると投げることに、興味を持ち、好んで練習するようになる)は、ほぼ毎日行われるようになる。ワーカーが、加わらなくてもできるようになるし、沢山のメンバーが加わる時もある。24日は、シンジ、ヒデミツ、サトル、マサイチ、マサヨシ、テツシ、それに、卒園児の関(4年)でやった。1日にも関の参加で8人でやっている。関の参加は、雰囲気良くしていた。シンジ、ケンジ、マサタツ、ヒデミツ以外にも、この頃からサトル、マサヨシ、マサイチ、テツシがよく野球をやるようになる。

木のバットを使っての、オヤツ後の野球も行われた

(4回)。10日には、マサタツ、シンジ、ヒデミツ、カズト、ヒロユキ、マサヨシ、ヒデト、テツシ、マサイチ、アツオ、ミチヨ、ユリ、ミワコ、ミエに、野球が始めてのジュンヤも加わり、今までの最高の16人で行われた。ケンジは見ていた。

10月1日に、足立区のブロック別スポーツ大会に参加するため、プログラムのメインであるドッジボールの対抗試合にそなえて、16日より、毎日、オヤツ後全員で練習をすることにする。16日~18日は、疲れるからイヤだ、あたると痛いからイヤと2~3人のメンバーが練習に参加しなかった。その後、毎日、全員で活発に練習する日が多かった。21日は、シンジがオヤツの時誘い、リーダーシップをとる。しかし、24日、マサタツが、「みどりの全員でドッジボールをやる」と誘うと、シンジは反発して参加しない。ケンジも、何も言わずシンジに同調してふてくされていた。鉄棒の所で見ていて、ワーカー(非)に「弱い方にはいってやろうかな」と言いながら入る。29日には、シンジ、ケンジ、カズト、ヒデミツ、サトルは屋根に上ったり、プロレスをしたりして練習をしなかった。シンジ、ケンジに他の子は調子を合わせていた。

スポーツ以外の遊びも活発である。8日の家族ごっこは、カヨミ(姉)、ヒトエ(姉)、アツコ(赤ちゃん)、ヒデオ(赤ちゃん)、マサイチ(兄)で、そこにワーカーがアツオを入れた。9日の家ごっこは、アツコ、ユリ、タカコ、ヒロコ、ヒトエの5人で、1日中遊んだ。同じ日、オヤツ後、いろいろ遊びをした。ミワコ、ミサ、ミチヨ、マサエ、クミヨ、ユミ、ミホとワーカー(非)であった。マサエとクミヨは、お豆で、ミサが積極的に2人を助ける。ユミの参加は珍しい。10日のいろいろ遊びは、ミチヨ、ヒトエ、ヒデオと珍しい組合せであった。ヒトエ、ヒデオは前日は入らず、ずっと見ていた。18日のお母さんごっこは、ヒトエ、ヒロコ、タカコ、マサイチ、ヒデオで長時間一緒だった。同じ日、アキトシ、ジュンヤ、エイキで始めた家に、ユウタ、マサヨシ、タカオ、シズ、リカが加わった。

以上のように、遊び仲間の数が5～6人、更にそれ以上というように大きくなってきているし、同じ遊びが長時間続けられるようになる。メンバー構成も、1、2期のサブグループが2つ一緒になったり、サブグループに夏休みにできた友人が加わり、男女も混じって、多様な組合せになってくる。9日の遊びではヒトエが、18日の遊びでもヒトエが泣くなど、まだ、遊びの中で、誰かが泣くということは、多いが、ワーカーの援助により、また仲直りして再び遊びが、続けられる場合が多い。

5日、ヒロコ、ヒトエで始めた店に、カヨミ、ヒデオが加わり、マサタツも客として参加した。

26日、マサタツ、タカオのくじ屋、アキトシのくじ屋、アツコ、ヒトエ、タカコ、シズの店屋ができる。タカオの参加で、絵、折紙、割ばし鉄砲を、賞品に作り、バラエティーに富み、「いらっしゃい」「いらっしゃい」と上手に呼び込みをする。アキトシは、始めての女の子と遊び、喜々としていた。

<10月>

1日スポーツ大会は、雨天のため中止となった。全体的に、大人数のスポーツは低迷で、オヤツ後、3年生が誘ってやるリレーが、2日に、木のバットでの野球が6日、10日に行われただけであった。(1日に向けてのドッチの練習、3日のO小学校の運動会に向けての連日の練習に疲れたものと思われる)しかし、6日は、マサタツが誘い、ヒデミツ、アキカズ、トモテル、ヒロト、テツシで始めたところに、シンジ、ヤスヨリ、アツオ、マサヨシ、ユウタが加わった。アキカズの野球参加は始めてである。前庭での少人数の野球は、ワーカーを混じえよく行われた。ワーカーの誘いに、ジュンヤも、ついに19日始めてワーカーと2人で始める。そこに、ヒロト、マサヨシ、テツシも加わった。

3日、原っぱに虫採りに連れて行ったが、シンジが戻ると、マサタツは残りの6人を誘い、凍り鬼をする。上手くリーダーシップをとり、良い雰囲気を作った。

室内遊びも活発である。毛布、ゴザ、机を使っただけの家作りは、ほぼ毎日、誰かがやっていた。男ではエイキ、女ではミワコ、ユリがよくやった。先月末1回だった店屋、くじ屋ごっこが盛んなる。同じ日に、同時に2～4軒ができる。ヒトエ、ヒロコもよくやったが、ヒデオが中心になり花屋をよくやり楽しんだ。マサタツは、回数は少ないが店屋ごっこでは、リーダーシップをとれる。ワーカーは、客としてどの店にも積極的に参加した。

9月に続き、増々、男女の混じった遊びも多くなる。13日の泥警は、たった7分しか続かなかったが、マサタツ、ヒロト、テツシ、ヒロユキにユリ、ミワコ、ヒロコも加わった。22日、雨の中、シンジ、ミエ、ユミは傘も持たず出て行き、ずぶぬれになり、しかし楽しそうに戻ってきた。以前、シンジは、ミエ、ユミを帰りに待ちぶせし、髪をひっぱったりしてよくいじめた。ケンジとは仲が良いのを嫉妬しているのだろうと思っていたのは正しい判断であった。

裁縫指導は、毎土曜日に行われたが、毎週沢山の子が熱心に参加した。3日は、ミワコ、ミエと男子テツシ、ヒデミツ、シンジもやった。ミワコ、ユミ、ミエは特に好んだ。その後の年と比べても一番活発に行われた年であった。

仲よし同志の関係は、更に深められた。ヒロト、ユウタ、またはヒロトとトモテル、エイキとアキトシと、ジュンヤ組、タカコとヒトエ、エイキとヒロユキ、ミエとユミ、ユリとミワコらなどである。

<11月>

寒くなったため、全般的にスポーツは下火となる。木のバットでの野球は10日のみで、ビニールバットの野球もたまに行われる位である。レスリングが盛んになる。マサタツが好んでやり、トモテル、ユウタ、ヒデオ、エイキ、ヒロト、アツオ、テツシ、マサヨシ、シンジらが日によって参加した。特に1年生が喜んでやる。危険なため、ワーカーが必ず見ていて、楽しいゲーム展開にする。見学実習生にも参加してもらい楽しんだ。

肌をふれ合い、もみ合い親しさを深めていった。

18日、ヤスシ、ヤスヨリ、テツシ、ユウタで始めたガンダムごっこにヒデオ、アキトシ、ジュンヤ、カズト、ヒロトが加わった。ヤスシがリーダーシップを取り、入りたい人を拒まず入れ開放的であった。20日の高鬼は、西沢、ヒロコ、カズト、アツコ、ヤスヨリにより始められたものであったがケンジ、ヒデオ、タカコも加わる。この頃の遊びは、一見、無秩序な組合せである。メンバー各々の仲間意識が高まり、誰と遊ぶというのではなく、何をして遊ぶのか遊びの中味で選択をするようになる。20日、砂場でマサタツとアツコが相撲をするのをワーカーが見ていた。そこに、ミワコと温かいヒロコとヒデオも加わってやった。ワーカーの力量が、意外なきっかけを作り、関係を豊かにし、1年にとっては初めての体験となる。

20日に、アツシがビックリ屋を考案した。ゴザをひっぱると、上から雑誌が落ちてきてお客をビックリさせるのである。何日間か続いた遊びであった。

タカオは、目立たないが、ビー玉のゲームを考案し、テツシと始め、ヒデミツ、ユウタがやり、リーダーシップを取り始めた。

〈12月〉

4日、高野公園に遊びに行き開放感を味わい、次の日から、集中的にクリスマス会に向けての練習に取り組む。例年通り、劇、その他の参加者を募集し、合奏「ジングルベル」は全員参加とする。19日の会に向けて、合奏の個人指導による練習、劇の脚本作りから練習、大、小の道具作り、全員でのクリスマスソングの練習が、連日、活動の中心となる。

勿論、これと並行して、自由遊びも行われる。11月下旬から始められたガンダムごっこ（画用紙の巻いたものに手を入れて、戦う）が、やはり連日、男子メンバーの中心的な遊びとなる。メンバーは、その日より異なり、2人の時から多い時は13人もが参加した。男子全員がこの遊びをやり、23日にはミワコ、アツコも加わった。7日を例にとると、サトル、アキカズ、

タカオ、ヤスヨリ、ヒロユキ、アツオ、テツシ、アキトシが、下校後間もなく始め、オヤツ後には、アキトシ、ユウタ、ヤスシ、マサヨシ、テツシ、タウオ、サトル、マサイチ、エイキのメンバーであった。校庭では、7日に鬼ごっこ男子5人、23日にはなす、きゅうりにワーカーも入っていたが、タカオ、シンジ、ケンジ、ヒデミツに女子ミワコ、ミエも加わった。2階での家ごっこも男女共に盛んで、毎日誰かが家を作っていた。3～5人位で遊んでいた。17日の店屋は、ヒデオ、ヒロコで始め、カヨミ、タカコ、アツコが次々に加わっていった。

4～5人での中当て、ドッジボールもよく行われたが、野球は殆んど行われなかった。

外部との関係

9月19日 父母会

26日 エイキの担任と立話 エイキについて意見交換

10月6日 紙工場の人訪問 畑をあらしたことを謝る

7日 〃 原っぱ使用について話合う

10月14日 E先生と立話 マサヨシは学校でぶったり、けったりする

11月7日 E先生と立話 マサヨシは今日学校で良い子だった。鼻水を女の子につけようとして注意をひく

11月14日 父母会

12月21日 N小ミサの担任見学に来訪

ワーカーの意図・動き

9月は、かなり、子ども同志の関係も広げられ、深められ、自分たちで遊べるようになってきていたが、ワーカーは、必要に応じ積極的に遊びに加わった。29日、ワーカー（非）は野球にいつも加わらないヒデオ、アキトシを誘い、そこにカヨミ、ミホも加えてやった。先生となら、新しいことをトライしてみようと思うからである。マサヨシと一緒にコマ回しをする。各メン

パーとキャッチボールをする。話し相手をするなどの個別的な接触も継続して行く。

・28日、ワーカーも入って、1～2年生と野球をしていて、ワーカーがちょっと抜けると、止めになってしまった。ヒデミツ、テツシ各々がずるいことをして、お互いに自分を主張し、けんかになっただらいい。1～2年生の野球では、まだワーカーの参加が重要である。

9日、竹馬をやっていたマサタツとシンジは、ワーカーに何度も「先生見てて」と言う。ワーカーは、励ましたり、ほめたりする。シンジもワーカーに、甘えたい気持ちを素直に表現できるようになり、ワーカーとの信頼関係を深める良いチャンスと受け止めた。21日には、ワーカーのひざにのって来た。

10月は、見学実習（社会福祉原理論の受講者、毎回8～10人参加）が始まり、12日間来訪した。本当は遊びたいのに、その気持ちを素直に出し近づけないため学生にボールをぶつけるシンジ、この人ならだませるだろうとインチキを強引に通そうとしたり、注意すると乱暴で挑みかかるマサヨシ、女子をめぐる学生との取り合いなどのため、学生と円滑に遊べるようワーカーは絶えず心を配る。

考察

9月10日、前日、ワーカーがヒデオに割ばし鉄砲を教えたのが、きっかけで、ヒロト、ユウタがワーカーに教えてほしいと言う。その場にみるみるうちに、その他13人の子が集まってきて作る。その後、戦争ごっこに発展し、8人が楽しんだ。3年下校前のことで、ヒデミツがリーダーシップをとった。そこへシンジが入ると、抜ける子が3人いて、その遊びは終りになった。1人の子が始めたことが、一瞬にして多くのメンバーの参加となり、その一部の子でのそのまま、それを使った遊びに発展したのは、グループ内の親密度の深まりをよく表している。しかし、シンジの参加でダメになり、シンジの日頃の3年としての成長の未熟さと、側にいたワーカー（非）の援助不足を汲み取ることができる。

11日、おやつの時、ケンジ、マサタツたちが「野球やるもん」「ドッチボールやるもん」と聞く。みんなの手を挙げるのを見て、結局ドッチボールをやることになった。誰か1人がリーダーシップを取ろうとするのではなく、3年が協同して誘い、メンバーの意向を見て民主的にドッチボールとしたのは注目すべきことである。しかし、実際に行われたのは、リレーであったが、誘い方の雰囲気から、何と18人の1～3年男女が参加したのであった。（シンジは、塾のためのいなかった）

ケンジは、12月9日、シンジとは別に、タカオと一緒にガンダムごっこのリーダーシップをとる。マサタツは、同月26日、ユウタ、カズト、ヒデミツと得意の（小柄で素早しっこくて、余り高度の技術を必要としない）盗塁のリーダーシップをとり、プレハブでもヤスシと協力して、ユウタ、テツシ、ヒデミツとゲームセンターごっこのリーダーシップをとった。タカオ、ヤスヨリも目立たないが、各々の分野でリーダーシップを取り始める。同月23日、タカオはワーカーも加わりヤスヨリと一緒に中あてをする事になり、自分からヒロユキを誘い、「お豆でいいよ」と加える。普段遊ばない、ヤスシが来るとまた誘った。

シンジは、10月3日、リレーを誘い、今まで加わったことのないヒデオ、マサヨも加わった。しかし、14日、自分が帰って来るとすでに楽しそうに遊びが始まっていると、女の子のくじ屋、店屋に行き、「ナニ、これ」「ボロイ」「ヘッコイ」などと言い、野球をしている子の邪魔をし、野球に入ろうとしたテツシに「こっちにこい」「マサヨシは、マサタツの仲間だろ、テツシはオレについている」と言う。21日、マサタツにけられ泣いたマサヨシは、シンジに言いつけに行くなど、陰湿な関係に発展する可能性をはらんでいた。

11月には、シンジ、ヒデミツ、マサヨシの3人で行動をする日が多かった。学生とレスリングをしたり、鉄棒をするだけでなく、一緒に電車の絵を描く、本を見るなど、文化的な遊びも加わるようになり、集団への安定感を感じとることができる。12月に入ると3人

はこの関係に、固着しなくなる。

この時期、店屋、クジ屋などでも明らかなように、遊びの中味が複雑に豊かになり、メンバー間の交流も多様になってきているのが伺える。

男女の遊びの交流も9月中頃より頻繁に見られるようになる。店屋ごっこは勿論のこと、17日運梯をしていたマサエ、チヨミ、ヒロコ、ヒトエに、カズト、サトルが加わり、ドッチボールをする。21日にはシンジ、ヒデミツ、ワーカーの野球にワーカーのすすめで、ミワコ、アツコが加わる。その後、シンジ、アツコ、ヒデミツ、ミワコで盗塁をした。また、28日の野球は、ワーカーも加わっていたこともあるが、ミサ、ナホコが1年男子と一緒にやった。(9月)

10月28日、見学実習の学生2人とナホコ、ミサ、タカコ、マサエでドッチボールをした。上手なナホコは、下手なミサをかばい、相手のチームが弱いことを見て、弱いボールを投げてあげるなどの気使いができるようになる。

11月21日、アキトシとマサヨシがけんかをした。興奮しやすい2人を、興奮しやすいテツシが仲裁に入り止めさせたのも、お互いの成長が伺われる。12月7日には、家を作り、動物ごっこをヒロユキ、エイキ、マサヨシ、ヒロトでして、エイキがヒロトの頭をぶって泣かすと、マサヨシが「お前あやまれよ、頭をつけてあやまれ」と言う場面があった。どちらもいつもあやまる側であったのが、冷静に仲裁し、自分たちで解決できる場面も見られるようになってきた。マサヨシは、この遊び仲間でも判るように、仲間に自然に受け入れられるようになってきた。2年女子の成長もめざましく、特にユリは、12月17日、突然泣き出したヒトエに、ワーカーが理由を聞いてみると、ヒトエの肩をやさしくだき、おやつの際に座り、いろいろと話しかけた。ユリのこのような態度がよく見られるようになる。3年ユミも、同じ日、劇の小道具の銀紙をエイジが切ったとミサ、ナホコ、ミワコが責め立てて大騒ぎをしているのを黙って見ていたが、一言「もうい

いじゃん」と言い、その場の雰囲気のを和らげる。目立たないが良い役割をするようになる。

10月、11月と2階での家作りが活発である。本年は、どの時期を見ても、ほぼ毎日行われているのが特色である。多分、このことは、本年が在籍児が多く、出席率も高いため、限られたスペースの中で自分の遊び場所を確保するための方法であったのではなからうかと推察できる。

12月のガンダムごっこに象徴されるように、その時加わりたいものが加わり一つの集団を形成し、大きい仲間集団で遊べるようになり、もめごともなく長い時間同じ遊びが続き、同じ遊びが毎日行われる。

ままごと、家ごっこ、高鬼などの小集団の遊びも3～5人位のことが多く、仲間と遊ぶ楽しさが充分判ってくる。組合せも、仲よし同志だけでなく、誰でもが友人となり、遊びにより仲間を選ぶようになったり、その時、遊ぶことになった仲間と、何をするか相談して遊びを決めるようになる。12月7日のフルーツ・バスケットはナホコ、ミチヨ、ヒトエであったし、28日のプレハブでのままごとは、カヨミ、ヒロコ、ヒデオ、タカコ、ミサと多彩であった。16日、2階で家を作り遊んでいたミチヨ、マサエ、クミヨ、アツコ、リカに、余り結びつきのないカヨミをワーカーが入れてあげるように頼むと、容易に受け入れられた。

9月、10月、11月、12月と月を経るに連れ、遊びの種類も豊富になり、交友関係も広がっていった。本年は、10月のスポーツ大会と言う唯一の外部に対し一丸となってまとまるチャンスを雨天のため失い、そのマイナスは大きかったが、クリスマス会を経ることにより、メンバーの帰属意識と結束力はますます高まっていった。

第5期 安定期(1月～3月)

グループの主な動き

〈1月〉

寒いため、戸外での遊びは、どれも自分が動き回っ

て自らの身体を暖める動的な遊びが主になる。大なわ、かくれんぼ、ジャングルジムでのフルーツ・バスケット、アスレチックごっこ、高鬼、盗塁、警泥などである。どの遊びも5、6人の数で行われる。男子の遊びが、野球、プロレス、戦争ごっこといった攻撃的なものはほとんど見られず、かくれんぼ、フルーツバスケットに象徴されるように平和なものに変ってきている。13日の大なわは、ワーカーがお持ちとして参加していたが、ヒトエ、マサイチ、カズト、ヒロコでやっているところにシンジ、ヒデミツが加わった。13日カヨミら女子4人でシャボン玉をしているところに、6人の1、2年男子が加わったり、25日にはたまたま現われた犬でヤスヨリら6人が遊んでいると、たちまちその回りに他の4人の子も寄ってきたり、おもしろいことがあると自然に人が集まり、どの子はイヤと言うことが全く見られない。

17日、ミニ自転車で遊んでいたシンジ、タカオ、ヒデミツ、ヒロトにテツシを誘い、アキトシも加わってガンダムごっこになった。その後、基地作り、鉄砲作りを特にシンジが熱心にやり、戦争ごっこ、プロレスにと続く。更に、人間ピラミッド、オヤツ後は、かくれんぼにと変化していった。土曜日という解放感、参加人数の少なさ、遊び時間も長かったこともあるが、多少メンバーの出入りはあるが、その日参加したほぼ全員の男子メンバーで、次々に遊びを変化させていった。勿論、いつも暖かい目で視野に入れていたワーカーの存在があってのことである。マサタツ、エイキ、ヒロユキは、別の遊びをしていたが、それをゆるす弾力性もあった。

28日、久しぶりに野球を8人でした。そこへシンジが入れてと来たが、ワーカーがもう一人誰か誘ってくるように言うと、普段は一緒にやらないヤスシを誘ってくるなど、仲間意識の広がりを感じさせるものである。

その他の遊びも4、5人で行われることが多く、19日のシンジ、ヒデミツ、マサヨシ、テツシのフルーツ

バスケットにミチヨが一人に加わったり、女の遊びに、マサタツが一人に加わったり、男女の交流もごく自然である。

19日、母親が死亡した1年マユコが、0小学校長に頼まれ、入会する。髪はボサボサ、洋服も汚れ、目をギョロッとさせ、暗い表情で、オヤツ時の自己紹介もできず、ワーカーが紹介した。男子は、暗いよ、同じクラスのマサイチは、学校で声聞いたことないよ、マサタツは、じっと見て「いじめてやる!」という反応であった。しかし、3学期という寛容的な時期が幸いして、早速、ヒトエ、ヒロコ、マサイチと一緒に絵を描くことになる。彼女は、鉛筆を持っていたが、描こうとしなかった。その後も、同メンバーとプレハブでままごとをするなど、上々の受入れであった。その後も、同じクラスのヒトエ、マサイチがいたことも幸いして、遊び仲間に入れてもらい、気持もほぐれていく。

<2月>

ますます寒さは厳しく、そのため室内、屋外遊び両方、活気にみちる。室内では、パン屋ごっこ、くじ屋、タイル屋、ぬり絵、弓矢屋など活発に行われる。店屋の種類も、発想が豊かになり、売うものもきれいに描かれ手の込んだものとなっている。24日弓矢屋は、アツオ、マサイチ、ヒロユキが開き、ユリ、アツコが客になるなど、どの店も男女の交流は勿論のこと、9、10日と続いたヒデオ、ヒロコのくじ屋はカヨミ、ミサ、マサヨの客の他、友人という形でタカコ、ヒトエ、ミワコが加わるなど、店屋と家族ごっこの複合したものであった。

一方、球を追いかけて走り回るサッカーが、8日から続けて盛んに行われる。シンジに誘われ、専任ワーカーと一緒にやり、フェアで楽しいゲーム展開になり、その後のサッカーばやりの端緒を作った。その時のメンバーは、シンジ、ヒデミツ、ヒロト、テツシ、マサヨシであった。16日のサッカーは、ケンジ、ユウタ、ヒロト組とマサタツ、ヒデミツ、マサヨシ組で行われ、

45分も続いた。同じ組で、オヤツ後も何と1時間も続けられた。

3日、マユミ、マサエ、クミヨとワーカーで始めたドッチボールに、次々と男女7人が加わった。12日、カズトのさか立ちをワーカーが手伝っていると、マサヨシ、マサイチ、ヒデミツ、シンジも加わった。このように、おもしろそうなのがあると自然に人が集まり、どの子も参加することができる。

24日、雨後みぞれであった。シンジの依頼でO小学校の体育館を借りた。男女19人の参加で、30分ドッチボールをし、その後、部屋に戻り、マサヨシ、マサイチ、テツシ、ヒロト、ヒデミツ、ケンジ、シンジ、ミワコ、ミエでかくれんぼをした。20日も、卒園児たみ子を中心に、シンジ、テツシ、ヒデミツ、ユミ、ナホコで楽しく馬とびをした。シンジを中心として男女の交流が頻繁に行われる。

26日の工作は塩川ボランティアによるマクラメの犬作りだった。最初、男の子はためらったが、結局、シンジ、タカオ、マサヨシ以外は全員参加だった。

マユコは、3日エイキ、タカコと家ごっこをしたり、クミヨ、マサエに誘われ校庭で遊んだり順調に受け入れられている。3日、マユコの入会を知らなかった、マサヨシは「バカー、こじき」と言っていたが、8日には、ワーカー、マユコ、マサイチ、マサヨシで野球をやった。

<3月>

寒さが緩み、子どもたちは外へくり出す。外遊びが活発になり、遊びが次々にくり広げられるという感じで展開が目まぐるしい。逆に、同じ遊びが長時間続けられるのと両面である。2月末から行われ始めた、悪漢(泥警)が、19日までほぼ毎日行われた。8~10人位のメンバーでやることが多い。いつもやるメンバーは、シンジ、ヒデミツ、タカオ、ユウタ、ヒロト、マサヨシ、マサイチで、それにテツシ、ヒデト、ヤスシ、サトル、カズト、トモテル、ケンジが日によって加わった。マサタツは余り加わらない。ドッチボールも盛

んになり、5日、10人、9日、13人、15日16人と多人数で行われることが多い。5日、オヤツの時、シンジ、ケンジともいなかったが、マサタツがドッチボールを誘った。実際は、ジャングルジムでアスレチックごっこになった。タカオ、ヤスヨリ、ヒデミツ、ヤスシの6人でやっているところに、塾から帰ったシンジとマサヨシ、ヒロト、ユウタが近づき、悪漢をするようになった。スムーズな遊びの移行であった。15日のドッチボールには、余り加わらないヒロユキ、ジュンヤ、アキトシも入った。

暖かさが増し、20日からまた野球が活発になる。25日は、春休みに入り、時間がたっぷりあったことにも基因するが、非常勤ワーカーが審判をし、7回の裏まで2時間15分続いた。組分けも公平で、ケンジ、ユウタ、マサイチ、テツシと友人1人を加えた組とシンジ、マサタツ、アツオ、ヒロト、マサヨシと友人1人を加えた組で、10対11の好試合であった。

女子の間では、外でのいろいろ遊びが盛んに行われる。5日のいろいろ遊びは、ユリ、カヨミ、ヒデヨ、ヒトエで始めたが、ミエとミサが後から入る。やっているうちに、ミエがリーダーシップをとる。ニコニコし、下級生にやさしくする。片足とびの、ヒトエが転ぶと「あっ大丈夫」とやさしく声をかける。10日のいろいろ遊びでは、ユミ、ナホコが、ヒトエ、タカコを誘う。ヒトエはワーカーに「3年生と遊んでとても楽しかった」と話す。17日もユミは、マサエ、クミヨを遊んであげた。

外部との関係

- 1月16日 O小学校校長訪問 父子家庭マユコを入れてほしい
- 1月23日 父母会
- 3月6日 父母会
- 3月21日 父母会共催バスハイク 交通博物館

ワーカーの意図・動き

引き続き、マサヨシと個人的にボール投げをすることも多いが、短時間で満足し、他におもしろそうなこ

とがあると、そこに近づき仲間に入れてもらったり、逆にワーカーと2人の所へ、他のメンバーが来ても入れてあげるようになる。シンジに対しては、「先生来て！」と困ったことがあると、ワーカーを呼ぶまでに信頼関係が高まってきたこの時期、更にそれを高め、一層の成長に向けて、ワーカーは、25日積極的にジャングルジムでの鬼ごっこなどに加わって遊んだ。

2月16日、オヤツを当番とワーカーが寄りに行くと、ユミ、ミエがかくれた。ユミ、ミエ、ナホコは、呼ばれてもワーカー（非）をチラリと見ただけで無視することも多い。5時30分過ぎてもなかなか帰らない。3年男子は屋根に登ることも多い。これらの3年生の行動は、3学期特有のものである。3月には退会をしなくてはいけないため、不安定な気持で、乱暴になる、逆に甘えるなどの行動として出るものである。この時期、父母会にて家での父母の協力、理解を要請し、ワーカーも3年生に対し、4年生になっても遊びに来てもいいことを話すなど、きめ細かい配慮をする。2月10日、ケンジの持って来たタバコを、シンジ、ヒデミツで吸ったのも、不安定な気持を表わすものと受け止めた。

3月10日、1日中シンジと行動を共にしていたヒロトは、後盾があると思ったのか、勢いを得て、5時で帰るように言ったワーカー（非）に「メガネザル」「フーン」「アッソウ」「よかったね」と馬鹿にした態度をし、マサヨシの宿題のまちがいを見つけて盛んにからかう。一時的な発言であるにせよ、二人の結びつきが、今後、グループの良い方向に生かされるよう配慮する。

考察

<1月>

シンジ、ケンジ、マサタツは、協力してリーダーシップを取る日もあったり、11日のように、2階でテツシ、シンジと組み、ヒデミツ、マサヨシと組んで戦いごっこをしている時、マサタツ、ケンジはワーカーとなわとびを競い合うなど、勢力争いをせず、別々に好きなことをする弾力性が出てくる。スポーツ一辺倒で

あったケンジも、13日「鬼ごっこしよう」と可愛い遊びを誘うなど、いい役割をするようになる。17日、シンジは、ヒロト、アキトシとプロレス、マサタツは、アキトシ、エイキを連れて塀歩きと別々の分野でリーダーシップをとっていた。まさに、我々が目指していたものが、実現しつつあった。しかし、シンジは鬼ごっこなどで、つかまりそうになるとタイムをするなど、まだ、民主的でないところを残している。

28日、タカコ、ヒデオ、ヒロコ、ヒトエは一緒にいて、ヒロコがオルガンばかり弾いていたと仲間はずれにされる。ワーカーの援助で、すぐ仲直りでき高鬼をして遊んだ。ヒロコのはずされる数も減り、ヒロコも自ら「オルガンばかりひいてごめんね」とあやまれるよう成長し、仲直りがすぐできる程、1年生の成長も評価できよう。11日には、余り大きい子と遊ばない、ヒトエに「ミサちゃんやさしいから、自分から入れてと言ってごらん」と言う、「あそぼ」と言い入れてもらう。ワーカーの助言を、容易に受け入れるようになる。

<2月>

8日のシンジらのサッカーメンバーにヒロトが加わっているのは、注目すべきことである。ここ3週間位前から、シンジに追従してはいるが、新しい傾向である。その後も、一緒に遊ぶことが多い。しかし、20日には、シンジ、ヒデミツ、ヒロト、そこにテツシも加わり絵を描くなど、明らかに、絵の上手いヒロトのいい影響が伺われる。

8日、ヤスヨリ、カズト、アキトシ、ヒデオ、マサイチ、ユウタのジャングルジムを使っでの高鬼での、ヤスヨリのリーダーシップは、我々も目を見はる成長ぶりであった。

24日のドッジボールには、シンジが「ドッジボールやるんだけど体育館借りてくれる？」という頼み方であった。ワーカーに対する信頼と尊敬の感じらせる言い方であった。シンジが遊びを誘うことが多くなる。

一方、マサタツも、カヨミ、マサヨを誘い、カズト

も加えて、シーソーをしたり、フルーツバスケットをして、いばらず、女の子とも、自然に遊べるようになる。タカオもコウヤと紙ヒコーキを作る、ユウタ、カズトに絵を描いてあげるなど目立たないリーダーシップぶりである。

1日、1階で宿題をしているミサ、ミチヨと同じテーブルで、ユリ、ミワコは絵をかきお互いにおしゃべりもしている。そこへマサエ、クミヨも来て見ている。この様な、特に同じことをしているのではないが、何気なく一緒にいるというのは、3学期によく見られる光景で、グループの親密度の高まりと受け取ることができる。

2月18日、ユリとヒトエでぬり絵屋をして、家ごうこに変わる。ヒトエが赤チャン役になり、ユリが本を読んであげる。ヒトエの赤チャン役は始めてである。幼稚園の時からいつも人の上に立ち、自分でも5月20日に「私はいつも人をひっぱっていくほうだから」と言っているように、命令したりする行動パターンが固着し、行きすぎる時もあり、自らも余裕のない性格であった。赤チャン役になり、大きい子にやさしくしてもらい豊かな経験をするのである。人からのやさしさは、人に返すことができるのである。

外見も性格も特異なマユコの受け入れが、スムーズにいったのは、グループの雰囲気寛容であるといった成長を具体的な形で、把握ることのできる出来事であった。1学期には、グループと全く異なる友人を排除しようとする傾向が大である。

26日のマクラメの犬作りは、すごい人気であった。犬を見本通りでなく、飾りなど創意工夫する子、犬の家を作る子、更にそれで遊ぶ子と、一つの手芸から展開していった。塩川氏も、他のクラブでは教えた通りにしかなかった、ここの子は、違うと言われたように、創造的人格の発展をめざした方針が、この時期豊かに花開いたことを証明する出来ごとと受けとめられる。

25日、午前中はワーカーと8人の子どもでメチあて、

午後はワーカーとやはり8人でドッチボール、1時45分からは、9人で野球、オヤツ後は、14人でリレーと言うように、大きい集団での遊びが次々に繰り返され、3学期最後の充実した代表的な日であった。どの遊びも、遊びの途中で抜ける者がいなかった。(3月)

3. 57年度のグループ・プロセス

〈年間プログラム〉

- 4月7日 新入会見歓迎会
- 9日 工作 折紙でバクバク河童
- 16日 工作 紙で折る箱
- 23日 工作 紙の羽を動かすカモメ
- 24日 裁縫 象の縫いぐるみ
- 28日 小学校体育館でドッチボール
- 30日 工作 (紙皿で作るフリスビー)
- 5月7日 工作 紙皿のU E O
- 8、15、22、29日 習字
岩瀬ボランティア指導
- 14日 体育館でドッチボール
工作 クッション
- 20日 体育館でドッチボール
- 21日 工作 変り絵カード
- 22日 裁縫
- 26日 高野公園に行く
- 28日 工作 空き缶の飛び出す人形
- 6月4日 工作 恐竜のたまご
- 5日 父母共催のおやつ作り
(カレー、サラダ、ゼリー)
父母参加のドッチボール
- 11日 工作 恐竜のたまご
- 12、19日 習字
- 12日 裁縫
- 18日 工作 恐竜のたまご
- 21日 工作 恐竜のたまご
四面変り絵カード
- 26日 荒川土手にザリガニつり

7月2日 工作 葉書のバス
 3日、10日 習字
 3日 裁縫
 7日 七夕まつり
 9日 工作 風車
 10日 裁縫
 24日 父母会の模擬店とキャンプファイヤーの集い
 29、31日 裁縫
 30日 工作 四面変り絵
 8月3日 裁縫 ぬいぐるみ
 体育館でドッジボール
 5日 本木東児童館に遊びに行く
 7、24、28日 習字
 7、9、10、11、18、19日 共同製作
 看板にペンキで描いた壁画
 9日 裁縫 ぬいぐるみ
 19日 同上 ぬいぐるみ
 17日 父母会共催すいか割り
 26日 体育館でドッジボール
 27日 同上
 工作 カード作り
 28日 裁縫
 30日 同上
 9月3日 共同製作
 4日 裁縫
 4、18日 習字
 10日 工作 紙紐のコースター
 11日 本木東児童館の仲良し緑日に参加
 17日 工作 毛糸の芋虫 塩川ボランティア指導
 24日 工作 軍手の犬
 10月1日 足立区ブロック別スポーツ大会
 2、9、16日 習字
 8日 工作 折紙の蓋つき小箱
 15日 工作 紙コップのふくろう
 22日 工作 どんぐりごま
 23日 父母会共催のおやつ作り 手巻き寿司 豚汁

28日 工作 シュートキャンディ
 11月2日 工作 牛乳パックの六角箱 鉛筆立て 塩川ボランティア指導
 5日 工作 シュートキャンディ
 6、13、27日 習字
 19日 工作 万華鏡
 20日 裁縫
 26日 工作 万華鏡
 12月4、11日 習字
 4日 裁縫
 18日 クリスマス会、父母会主催会食会
 22日 工作 ペーパークラフトのクリスマスツリー、壁掛け 塩川ボランティア指導
 1月10日 裁縫
 12日 同上
 14日 工作 ぐにゃぐにゃ凧
 21日 工作 板返し
 28日 工作 紙皿を組み合わせた変り絵皿
 29日 習字
 2月2日 体育館でドッジボール
 4日 工作 紙の貯金箱 塩川ボランティア指導
 9日 高野公園に遊びに行く
 24日 体育館でドッジボール
 26日 父母会共催のおやつ作り いなり寿司 シチュー
 3月2日 体育館でドッジボール
 3日 ひな祭り
 4日 工作 プラスチック板のペンダント
 5、12、26日 習字
 10日 体育館でドッジボール
 12日 裁縫
 20日 父母会共催のバスハイク 武蔵丘陵森林公園
 25日 お別れ会
 26日 裁縫

第1期 準備・開始期（4月初旬～5月中旬）
集団の主な動き

〈4月〉

1年生にとって初日である入学式には、1年の参加はノブキ1人であったが、物怖じせず他の子どももやさしく迎えた。同じ1年のアキト、タケトシは学校の記念撮影が済まないのにMクラブに来てしまい、母親が探しに来た一幕があった。受け入れ側の3年ミチヨ、2年マサエ、クミヨ、ヒロコの子が1年生歓迎のポスター作りを熱心にやり、2年男子中特に消極的なアキトシとトモテルが空き箱工作、折紙の作品を1年への贈物として自発的に作成した。

8日から1年生も全員14名が出揃ったが、顔見知りも多く遊具などさっさと持ち出して活発に遊ぶ。アキト、ジュンジ、タケトシ（以下男3人組）は早速コマに興味を示し、競い合ってワーカーに紐を巻かせようとした。9日には、3年のマサヨ、カヨミが1年のキヨ、ミチエ、アサコ、ジュンジ、アキトを高鬼、盗塁は3年カズト、サトル、ヒデミツ、2年ヒロト、マサイチ、ユウタ、ヒデト、1年アキト、4年ヤスヨリの遊びが2時間半も続いたが、このように学年、性別を越えた遊びが次々と展開していった。2週目に入ると、1年アサコ、セイイチ、マサシが「木工!」と叫び釘打ちを始めるが、これは2年マサイチのやっている姿を見たからである。3年サトルが2年マサヨシ、マサイチ、1年タケトシ、アキトを集めリレー、次に悪漢ごっこをやるがサトルはヒデミツ、ヒロト、ヒデトと組み、相手側は運動の下手な2年生エイキ、ヒロユキとユウタ、アキトシ、ジュンヤで後者が圧倒的不利であった。

1年女子のキヨ、ミチエ、テルコ（以下女子3人組）とアサコは一緒にいる時が多いが、3人組対アサコで激しい喧嘩を時々する。突きとばしたり大声でまくし立て怒鳴り合い、睨み合う。この女3人組に3年のカヨミが近づき、プレハブで毎日遊ぶようになるが、アサコは徐々に離れて1人になりワーカーと遊びたがり、手を繋いだりする。

13日のおやつ後ヒロユキとジュンヤが外出、1軒位

離れた東武ストアに行き5時40分まで戻らずお迎えの父母が自転車を探し回る事件が起きた。しかし、中旬には1年生の殆んど全員、2年生7人と多人数がシャボン玉をやったり、盗塁、三度当では卒園児ヤスヨリやタカオが誘いサトル、ヒデミツ、アキカズ、カズト、ヒロト、マサヨシ、ヒデト、ユウタ、ユキ、ミワコ、アキト、タケトシと遊ぶ。サトルもおやつ時威張ずに誘えたり、カズトも今まで余りやらなかった野球を1年生とやり頑張ってリーダーとして振舞う。一方混乱も多く19日（月）を例にあげると、小学校警備員からトイレのガラスが割れた、用務員からは校舎のダスターシュートに入った、ドブに投石した子がいると注意された。前2つは男3人組、後はジュンヤであった。

中旬からずっと1年が野球しているところ2、3年生が入るというパターンが男子の主流の動きであった。ただ、野球の守備の時などやたらと投石が多い。1年の男3人組と2年のテツシが著しく、連日ワーカーが居合せないと投げてしまう。女子では、例えば22日、前日の工作で作ったポストを、ヒデヨがセイイチ、アイコに教え交流が出てきた。しかし、24日の記録にカヨミと女3人組は派閥と表現しているように密接な関係になる。この女子3人組も卒園児のノリコが来るとアサコ、アイコ、ユリ、ミワコと楽しくゴム段をするのだった。27日には、女3人組がミチヨ、マサエ、クミヨが動物や食べ物の絵をクレオンできれいに描き切り抜くのをうっとり眺める姿もあった。

男子は少人数の時に、よくボールの壁当てをしているが、27日には2階の屋根を越える試みがカズト、ジュンジたちでされたが、これはずっと続く遊びの一つとなる。

〈5月初旬～中旬〉

相変わらず男子は、野球が盛んに行われる。4月は前庭でビニールバットでやっていて、それも継続されているが、木製バット使用で校庭でやりたいとの希望が出て、7、8、10、12、15に実施。野球、ドッジボールに入らない1年のヒロヤ、ケンイチ、ノブキはN小、

OK保育園出身でサブグループを作っていて互いに寄り掛かっていて、おしゃべり、遊びを見ている時も多く、ケンイチ姉のカヨミと共に高鬼、ままごとなどをする。

8日には、ヒロヤ、ジュンジ、アサコ、キヨという珍しい組合せ、実習生中島を中心に遊ぶ。野球も、常勤ワーカーが審判役をしていると長く続き、10日には気温が30度もあったが2時10分から4時まで5回表裏できた。卒園児のケンジ、3年ヒデミツ、サトル、2年マサヨシ、トモテル、ヒロト、ヒデト、テツシ、マサイチ、ユウタ、アツオ、1年マサシとミホ、ユリ、ケンジの友人と15人の参加であった。ヤスヨリは、10日には消極的なケンイチをドッジボールに誘ったり、遊びの中心になって生々動き、4月に続きリーダーシップをとる。男子3人組は、大きな遊びにも入るが3人だけで遊ぶ時も多い。4日にはプレハブ裏でマサツグと一緒に1日中穴掘りに熱中していた。

全般的には、男女混り合った遊びが盛んで、14日、カヨミをリーダーとして、ケンイチ、ヒロヤ、マサヨと女子3人組、アサコと多人数でお母さんごっこをした。

3年のサトルがヒロトを待っていたのが3日、翌日は2人だけで長時間キャッチボールをしていた。ところが、11日には後から下校したサトル、ヒデミツを不利になるからいやだと、ヒロトが拒否したのである。ヒロトは17日には1年生数人を相手にキャッチボールで、リーダー役を演じる。

女子3人組のテルコ、キヨが、「カヨミさんいやだ」とワーカーに口走り校庭に行ってしまったが、翌18日には女3人組とカヨミ4人一緒になり卒園児のヤスヨリ、タカオとアキトシ、ヒデト、マサイチ他3人とドッジボールをした。

外部との関係

4月4日 入会児父母オリエンテーション

19日 O小学校警備員来訪 窓ガラスが割れた。
Mクラブの子ではないか。O小学校用務員
来訪 ダスターシュートに入って遊んで困

る。O小学校用務員来訪 ドブに石を投げ
ていた。

24日 父母会

26日 O小学校K教諭立話 3人(アキト、ジュ
ンジ、タケトシ)は落ち着かない。

5月1日 K教諭来訪 休み時間にジュンジがプール
に入った。3人は級で大変だ。

7日 K教諭立話 3人が禁止されている屋上に
登った。校長も3人のことを知っている。

15日 K教諭来訪 この頃マサシがよくない。3
人は責任のなすり合いをする。アキトは蛍
光灯を割った。マサツグはよい。キヨは授
業中しゃべり立ち歩く。

ワーカーの意図・動き

<4月>

入学式の日にワーカーが、明日から1年生が来るから
歓迎の飾りを作ってほしいと呼び掛ける。1年生のため
もあるが、迎えるメンバーの心の準備をも狙ったも
のである。呼び掛けに応じたのが2年生主体であるこ
とに、自分達が先輩になる誇りと喜びが感じとられた。

2日目、早くもアキト、ジュンジ、タケトシは興奮
し易さ、落ち着きのなさに情緒的に問題をもっているよ
うに見えた。ギャアギャア引きつったように笑う。ブ
ロックで遊んでいて突然ブロックが入った箱を持ち上
げ自分の頭にブロックの雨を降らすタケトシ、タケト
シとけんかして何時までもメソメソ泣き止まないジュ
ンジ、泥の中に入りズボンご汚したのに大きい子に落
されたと母に嘘をついたアキト。ワーカーは、この3
人には特に気を配ることにした。ワーカーは、敢えて
集中力と忍耐を要するこま回しをすすめるが、紐巻き
が出来ないので巻いて上げることにした。3人とも強
い興味を示し競い合ってワーカーに殺倒してきた。ワ
ーカーは、連日1人当たり数十回巻いてあげた。まず、
回す面白さを知り、巻く意欲をもたせようとの試みで
あった。

卒園児のヤスヨリ、タカオ、3年のサトルのリーダー

ーシップが目立ち、活発な遊びが展開したので、ワーカーが準備していたハンカチ落とし、椅子とりなどのプログラムは提案しなかった。

双子のアイコ、セイイチは、アイコがセイイチは馬鹿だと悪口をワーカーにくどくど言いに来たり、2人で言葉尻をとらえてなじり合う。帰る時間になってもアイコだけワーカーにべったりくっついている日も多い。ワーカーは、アイコの言葉に丁寧に耳を傾ける一方、よい関係づくりを摸索する。

2年ヒロユキは、素直で明るい温和な性格で1年時キャンプファイヤーに盆踊りをする積極性を持ち、特に問題がなかっただけに、13日の東武ストア行き、24日の「先生、僕、今度海に行ったら蟹持ってきてあげるね」と突然話しかけてくるなどの言動は、2、3年生のワーカーに対する警鐘と受けとめた。例年のことであるが、更に1年生に関心が偏らないよう気を配ることとした。

カヨミと女子3人組は、プレハブで連日遊び、戸を開けておくという約束を破って閉める時が多く、カヨミの怒声が聞えるのでその都度開けるように注意する。ワーカー（非）が20日見にくくと吠えたてたと記録される程、反抗的で凄まじい。26日に、ワーカーは約束を守らないので貸さないという。取りあえず3人組がいじめられないようにとの配慮であった。

〈5月〉

5月8日から原則として土曜日毎に岩瀬ボランティアによる習字の時間を設けた。前年度の岩瀬恭子ワーカー（非）の母堂で、子どもに教えるのは初めての方なので、必ず常勤ワーカーが交替で視野に入れることにした。

引続きカヨミと女子3人組に気を配るが、監視ではなく他のメンバーとの交流をはかる方針。10日のお母さんごっこにアサコ、アイコを入れるという具合である。

考察

卒園児ヤスヨリ、タカオは、3年生時代には多人数

のリーダーシップをとらなかったが、この時期に来て発揮した。威張らないようワーカーも声を掛けたり気を配ったが、彼らにとってよい体験になったであろう。

セイイチとアイコは、保育園時代にアイコは保母に何も言うことはないと評価され、セイイチはバカとレッテルを貼られていた。5才の時母を亡くし、父、兄2人の家族。この背景を考え、十分受容的態度で接していかなければならないと思う。アイコの多弁、押し殺したような陰気な声、地に足が着いていない様なセイイチには、先ず受容し長期的展望に立った処遇が必要であろう。

男子3人組、カヨミと女子3人組も同様である。女子3人組自体の問題として、キヨは直ぐ泣く、テルコはワーカーに対し返事をせず、そっぽを向く、ミチコの気性の激しさ。例えば、「テルコ、早く手伝えよ。パキヤロー」と巻き舌である。

遊びのグループ構成は、男子メンバーの組み合わせは第2、3期を思わせるが、卒園児の参加を配慮すると形だけで心の結びつきは、やはり第1期と考えられる。3年のサトルはリーダーとして動き出すが、遊びの組分けを自分本位するなど弱点が見られた。サトルは、1年になった当時、父親が手に負えない子だと言っていた。Mクラブでは積極的なワーカーへの反抗は余りなかったが、食事やおやつの時でも「ウンコ、ウンコ」と言い続けて注意されても直ぐ口に出てしまう。2年になっても折に触れてウンコを話題にし、マサヨシの靴がなくて探していたら建物裏にあったウンコの上にサトルがのせておいたということもあった。アキカズなどと2、3人で遊ぶことが多く野球も殆んどやらなかった子である。3年になったからといって、直ぐにリーダーシップをとるには重荷だと考えられる。

第2期 上昇発展期（5月下旬～7月24日）

集団の主な動き

〈5月下旬〉

中旬までの野球熱もややさめ、木製バットでワーカー

ーが審判をする野球は31日だけであったが、ビニールバットでは少人数で時々やっていた。5月にしては夏を想わせる陽差しも影響していたようで、26日のKY公園行きは22人とヤスヨリが参加したが、みんなゆでだこの様になって帰ってきた。24日には、カズト、エイキ、ノブキは水遊びに大はしゃぎをし、ヒロコ、タカコも加わっている。共に遊ぶうちに親しさも増したか、21日アキトが徐々に力を見せてきたヒロトに「こまの紐巻いて」と言い、「えっ、出来ないの」と言いながら巻いて上げる。2年女子のミチヨがアキト、ジュンジにこまの紐巻きを教えるなど2年生が上級生らしい振舞いを見せた。

男3人組は、24、25日とワーカーにこまの紐巻きをねだり、1時間位つき合う。女子3人組は、ミチエが裁縫をやっているキヨを竹の棒でたたき、アキト、タケトシとのしり合う、キヨが学校でタケトシにけられたと泣いて帰ってくるというようにトラブルが多い。久し振りの31日の野球ではヤスヨリ、シンジ、2、3年男子6人、ユリ、ミワコと女子常連2人が入った。遂に、おやつの時マサヨシが「ドッチ、やるもん」と大声を出した。やっと誘うことができたのである。

〈6月〉

1日は3年のヒデミツ、カズトが休みであったが、おやつの時マサヨシとテツシが競い合って「ドッチボールやる人？」と全員に声を掛ける。8人位応じて挙手。翌日、3年のヒデミツが、おやつの時に初めて誘ったのである。いつも工作をするのは10人から15人とあったところであるが、怪じゅうの玉子作りは新聞紙を薄めた糊でゴム風船に貼る作業に惹かれてか35人参加。3人のワーカーは糊だらけになって指導する。

同4日、N大学のY教授、O助手見学。自己紹介の時も割合静かで、テツシ、ヒトエは「ハイ、ハイ」と挙手をして質問する活気があった。5日のおやつ作りも全員参加した。おやつ作りの後の遊びは、子どもたちは全くいつもと異なり入り混って遊ぶ。

女子3人組とカヨミの4人は遊びの雰囲気刺々し

た時が多い。2日には、そのメンバーにマサヨ、ヒデヨ、セイイチが加わって学校ごっこをしていて、キヨが抜けて校庭でアサコと遊んだことからミチヨとアサコが睨み合いつかみ合いのけんかになる。テルコはミチヨに加勢、大騒ぎになる。

7日は、おやつ作りが影響したのか、いつもの月曜日より落ち着いた雰囲気であった。8日には男子3人組が別々に遊ぶ。遊び仲間の組合せに変化が見え始め、9日の戦争ごっこは、本読みや鉛筆で細かな絵を描くのが好きな3年のアキカズと3人組のタケトシが、エイキ、アキトシ、ジュンヤ、ノブキの仲良しグループとカズトに加わる多彩な顔ぶれとなった。14日には、ヒトヨ、タカコとマサエ、クミヨが一緒になって高鬼をした。女の子は絵描き、高鬼などが好きだが、遊びも多様化して、12日にはヒロコ、ヒトエ、タカコがビニールバットの野球に興じ、22日にもやる。

6月も木製バットの野球は、8、9、30の3日だけで、ビニールバットでやるとか、ドッチボール、家ごっこ、砂場あそびなどをする。

21日には、ヒロユキ、エイキに、テツシ、ノブキが外の流し場で水遊びをするが、これは3校のメンバーの集りであった。23日にはタケトシがマサトシ、エイキ、カズトを誘い裏戸口で見つけた蟻の大群に水を掛け、退治するんだと大騒ぎ。エイキ、トモテルは、先に帰って古机に毛布、ゴザを掛けて家作りをしている1年のアキト、ジュンジ、マサツグに対し、「まあ、頑張りな」と声をかける余裕も見られた。

3年のカズトは、21、22日とヤンチャな男子3人組の相手をしてプロレスもしたが、10日にヒロユキ、エイキ、ノブキを連れて裏の団地に行く、アキカズ、ミチヨとふざけっこからマサエ、クミヨを加えて泥警、女子3人組とふざけるなど、一風変わったリーダーシップをとるのが目立つ。一方、サトルは2年のヒロトと密着してのリーダーシップをとり、24、28日にはユウタに学校で好きな女の子の名前をしつこく言い、ユウタが涙ぐんでしまったり、何かを威張り散す様子が見

られるようになった。

しかし、全般的に遊びの伝播力は強くなってきて、23日は降雨だったとはいえ、絵の具使用のペインティングが2、3人から14人へ瞬く間に広がった。25日には、ヒロト、マサヨシ、マサシが野球盤をやっているのをじっと見つめていた男子3人組、彼等がやめるとぱっと飛びついていった。

〈7月初旬～中旬〉

木製バットの野球が人気復活し6、8、9、10、12、13、14、15、16、21日に行なわれ、勿論ワーカー1人が必ずついて審判役で暑い中を立ちつくした。野球をやるメンバーに変化はないが、暑さもあって7、8人と少い場合が多かった。2日、ビニールバットの野球にマサシたちがテツシを入れれないと言ったことから掴み合いの大げんか。理由はテツシが石を投げるからいやだということであった。ビニールバット野球を8日ヒロト、マサヨシ、ユウタ、サトルのやるのをじっと見ていたヒデミツは10日にも2年だけがやっているのを今度はサトルと見ていた。

男子3人組は、学校では3日に折紙をとる。14日プール投石と事件を起すが、Mクラブではワーカー(非)にコマ紐巻きもしてもらったり、ついでに接触してくる。紙ヒコーキにこって沢山作って飛ばし、ワーカーに「ねえ、見てて」と関心を惹く。家づくりもよくやる。

ゴム段は女の子、虫採りは男女とも前庭やすぐ裏の空き地でやるが、ゲームウォッチを自分から持ってきて貸し合って興じる。初め男の子だけだったが、21日にはミワコ、ユリも入れてもらった。七夕の飾り作り、短冊書き、続いてキャンプの歌の練習を5、8、9、12、13、14、16、17日とやり、14日から掲示により役割を募った。劇の準備は、それ以前から徐々に始っていたが、この頃より本格的に取組んでいく。

24日のキャンプファイヤー1週間前、ワーカーも劇に出演する子の大、小の道具作りの指導、練習に多忙を極めていた。その日、アキトは学校の非常階段上か

ら投石、体育館裏でジュンジと投石、ヒデミツとゲームをしていたテツシが怒りヒデミツに鉄を投げるというトラブルが起きた。キャンプファイヤー当日自転車から落ちて鼻の下を切り、傷口を縫ってあるのに「僕、やるよ」と必死に母親とワーカーに訴えたアツオの熱意に象徴されるように、熱のこもった楽しい会であった。

外部との関係

5月22日 父母会

6月14日 K教諭来訪 3人は2組のサムライと有名。今日も全校朝礼に集らず校長に叱られた。1組のMクラブの女の子(ミチエ、テルコ)は悪くて男の子を泣かすそうだ。

15日 K教諭来訪 5時間目があるのに帰ったと呼びに来る。アキトが大将で手を上げて当てられないと油粘土やボールをそこら中に投げる。

7月1日 K教諭、セイイチにマサツグを呼ばせて朝顔の植え替えを手伝わせる。

2日 K教諭来訪 3人が教材棚の七夕用色紙を持っていったらしい。

3日 父母会

5日 K教諭来訪 3人は勉強はちゃんと出来る。1、2時間目もよい。(3人の絵を見て)いい絵を描いている。3人にはMクラブのような所がいい。

15日 K教諭来訪 マサシが学級文庫の本20冊程に傘の絵を描いた。3人はプールに石を投げ入れた。

ワーカーの意図・動き

〈5月〉

全体的にみて、遊びの輪は広がってきたが、25日アキカズにセイイチ、アイコと遊ぶようにすすめる。同日アキト、アサコ、31日アキト、ヒデミツ、アサコ、セイイチを相手にプロレスごっこ、24、25日男子3人組のコマ紐巻き、ヒロト、ミチヨと3人で中当て等、

時に応じての個別的接触も行う。けんかの仲裁も多く、22日裁縫をしているキヨをミチエが竹でたたく。25日キヨが学校でタケトシにけられたと泣いて帰る。24日ミチエ対アキト、タケトシの掴み合いのけんかというような具合である。

メンバー間の交流が活発になり始める初期はトラブルが多発し勝ちなので、遊びの雰囲気気に気を配る。

〈6月〉

習字の岩瀬ボランティアは乗り物の都合で遅くなり、おやつ時間におくれ込みそうになるので、見える前に用具を出させ墨をすらせることにした。結果は、「先生、まだ？」と騒ぎ立てる子どもの気持も落ち着き、時間的にもボランティア、ワーカー双方にとって好都合であった。12日にはボランティアの真似をして、「先生、お紙下さい」と子どもたちが口々に言い、柔らかい雰囲気が漂うようになった。もっともワーカーは笑いをこらえるのに一苦労であったのだが。

2日にはサトルが久し振りにワーカー（非）にキャッチボールを誘いにきたり、例えば15日、ヒロユキ、アキトシ、マサヨシ、ヒロトとピンポン、25日にはテツシがキャッチボールというようにワーカーと遊びたがるメンバーの相手をするのも多忙であったが、出来るだけ受け入れるようにした。このような時期、特に問題のないメンバーは後回しにされ勝ちで、ミワコ、ユリの2人はMクラブを抜け出してアイスを買食い。いじけている様子もあるので、ワーカーからピンポンを誘う。

30日、シンジが来るが非常勤ワーカー2人は凄く緊張したという。勝手な事をしないようにずっと彼の動きを視野に入れるようにした。

〈7月〉

5日からキャンプの歌の練習を始め、子どもの心をキャンプファイヤーに向きさせる。6つの劇グループが出来たので、ワーカーが話し合って担当したがそれぞれが6人以下であったので劇作り、練習共にまとまり易いが、木製バット使用の野球と並行して指導する

ことは可成り困難であった。野球、劇以外のメンバーを1人で担当するワーカーは、20数人を1人で見るので広い行動範囲を必要とした。

考察

〈5月〉

3年男子4人のうち、アキカズ、カズトは体力が乏しく消極的であり、サトルは威張るだけ、ヒデミツは甲高い声で体力もあるのにいじけた態度。その間隙をぬって2年男子がリーダーシップをとるようになってきた。ミチヨは妹マサヨとクミヨのサブグループに属し、その安定した立場からリーダーシップを他のメンバーにも及ぼす。ミワコ、ユリは、26日に3人のワーカーの胸にさわりにくるが、新しいグループにおいて馴染めていない。28日に、ヒロコが掃除の椅子上げ12でいいのに13こやる。翌日タカコも13こあげて「13こやったよ」とワーカーの関心を惹くなど、ヒロユキと形こそ違え2、3年生への対応にも十分気をつけなければならない。

また、よく来る卒園児の中でシンジは威張るのが気になり、ワーカーも彼が入っている遊びから目を放さないよう努力していたのだが、31日サトルがいじけて野球に入らなかった。要注意である。同日、1年のケンイチがおやつ当番の「頂きます」が言えないで泣いていると、テツシが「早く言えよ」、間髪を入れずミチヨが「そんな大きな声出したら言えなくなっちゃうでしょう」というやりとりで、メンバー間の繋りが出てきたと感じさせられた。

〈6月〉

5日のおやつ作り後の変化は、先に述べた通りだが、8日に来た中島実習生はもめ事が少なくなったと評している。とはいうものの、掴み合い、ぶたれて泣く、野球の時のマサヨシは負けてくると自チームの子をのしり、なじるので、そのため遊びが中断することが目立った。彼の言動は、今後とも気を配らないと文句を言われた子が野球をやらなくなってしまった。

2年生のリーダーシップがますます目立ってきた。

ヒロユキも得意な仕事をジュンジ、マサツグに積極的に教えたり、10日にはヒロコと店屋ごっこで初めて遊んだが、これは今後の2人にとってプラスになる。

2年のマサイチは、ドッチボール、野球など誘うことはないが、10日女の子とままごと、11日砂場でエイキ、サッカーをヒデト、バッティングをアサコと1人であるメンバーと遊び、他にトモテル、セイイチ、アイコとも遊ぶ等目立たないところでよく動いている。

〈7月上、中旬〉

キャンプファイヤーの準備が始まると、ワーカーも子どもと共に遊んだり、話相手をする機会が減少してしまい、一方6月までと異なりワーカー側の要求(歌、劇など)も多くなる。ワーカーと子どもとの間に緊張関係が生じる。17日のトラブルは、その辺りの間隙について現れたといえよう。木製バットの野球は危険防止も兼ねてワーカーがつきっきりになるが、キャンプファイヤーの準備がおろそかになっても、ワーカーが常に希望を受け入れていた事は正解であった。もし、やらせなかったらトラブルはもっと多発したであろう。

14日、いつも校門の辺りで5～7才の子を連れてうろろろしている中学生Y君、校庭に出て行ったミワコに「ミワコ! 催眠術かけてやるから来いよ」と言う。ワーカーがいるので、それだけで済んだが、ワーカーが交替で全体を把握するような体制は常に必要なことを確認した。

また、3年男子のリーダー振りだが、ヒデミツはキャンプファイヤーの火の使いをやると記名していたのに2日前に自分で消してしまい。ワーカーも付きそうことなど話し力づけたが頑として応ぜず、ワーカーの呼び掛けに応じたサトルがやったが、2人の力関係のバランスをとる機会を失ってしまった。

第3期 再編成期(7月25日～8月)

集団の主な動き

〈7月下旬〉

24日のキャンプファイヤーを終えると、さすがに子

どもたちもワーカーも、和やかな顔付きになる。4人から6人の小グループで、ゴム人形、中当て、こま回し、水遊びなどしていた。しかし、27日にはワーカーが入るとヒデミツ、サトル、アキカズ、トモテル、マサシ、ジュンジ、アキトがドッチボールをしたり、ミワコ、ミチヨ、アキカズ、アツオの珍しい組み合わせで、ゴム段、中当てをした。余り親しくなかったジュンジとケンイチが段ボールで舟を作り、とてもいい感じで遊べた。28日の野球は、サトル、ヒデミツ、マサイチ、ユウタに、ジュンヤ、エイキ、セイイチというこれも今までなかった顔ぶれであった。31日のエイキ、セイイチ、アサコの掴まえっこもふざけ合いながら楽しそうであった。暑いのに28、29日と木のバットで野球をやり28日にカヨミ、ケンイチ、ヒロヤ、セイイチ、アイコが見物したが、カヨミが点つけをかって出た。

〈8月〉

この野球熱振りは8月になっても衰えず、木製バットで行った日は、2、4、9、10、11、18、19、21、23、24、25、26、27、28、30、31と17日間に及んだ。2日2時間30分、4日1時間10分というように、長時間続く場合が多かった。夏休みのためゲームウォッチ持参の子が常に2、3人いて、特に男子の間で大流行し、14日のピーク時には男子14人やらなかったのは3人だけという状況であった。よくやるのは、カズト、テツオ、ヒロト、サトル、トモテル、エイキ、マサヨシたち。

先月は28日に1回やっただけのビニールプール遊びは夏場独特のプログラムで、この月は2、4、9、10、11、18、24、25、31日に行った。男子たちが沢山水着になって遊んだのが、この年の特徴であった。女子と一緒に入るのをいやがらず、男女合わせて10人前後の参加であった。男子は、野球の他に盗塁ごっこ、虫採りなどを合間に入れたりしていた。

4日のおやつ終り間際、マサヨシが「野球やるもん」と叫び、ヒトエが女子3人組とアサコとままごとをしリーダーシップをとった。24日の野球では、サトルが

チーム分けが気に入らず、やる気をなくしてわざと下手にやって、マサヨシとテツシに「もう誘われてもやらない」と言われる。

お店屋さんごっこでメンバーの交流が活発になってくる。25日にミワコ、ミチヨが午前中から食べ物を描いて切り抜くなど準備をし午後に店を開く。この2人にマサエ、クミヨが入ってくじ屋になる。側で絵の上手なヒロコ、ヒトエ、タカコが塗り絵を作って売る。そこに来たヒデミツ、ユウタは店の前に座り込み夢中になって買う。26日には、同じ4人の店屋の客に、昨日の2人に加え、テツオ、アツオ、マサヨシとふえていった。

外部との関係

8月17日 卒園児ヤスヨリ投石。隣の算盤塾より窓ガラス割れたと抗議される。

23日 上記につきヤスヨリ母に連絡つく。ヤスヨリ母謝りに行く。

ワーカーの意図・動き

夏休み中も続けられた習字、ビニールプール遊び、児童館行き、共同製作、すいか割り、平時より回数をふやした裁縫と、プログラムに変化を持たせた。共同製作は90cm×270cmの、ブリキ製看板にペンキで絵を描き、壁画として外壁に取り付けるという構想であった。絵描きが好きで上手な子が多いので思いついたが、得意でない子は易しいものを描く。色塗りをするなど出来るだけ全員がタッチするようにすすめた。

子どもの出席人数も常時より少いので、子どもとの関係を親密にするよい機会と考えて接した。例えば、お店屋さんごっこでもワーカーが率先して客になり、メンバーの交流のきっかけをつくと共に会話を多く交すなどである。

アキトシとジュンジはこま紐を巻けるようになってくるが、今度は「見てて、見てて」としっこく言うが受けいれる。8月30日アキトの言うのを数えたら30回を越えた程である。

考察

〈7月下旬〉

遊び仲間の交流が柔軟になって、今まで余り遊ばなかったメンバー同志でも親しく打ち触れた感じがする。学校が休みに入り、キャンプファイヤーも終わった解放感が殊更親しさを増すように思われた。

30日にサトルがヒデミツの持っているバレーボールをとりあげ、ヒデミツが取り返そうとすると「うるせえ、ぶっとばすぞ」と凄む。その場は、ワーカーが公平な解決をしても、元々あった力の差が火の使いのことから、助長されてきたのではないかと。サトルは、同日野球の試合中自分のチームに「負けろ、負けろ」とこそこそ言い、テツシが「俺、やめる」と言って去ってしまった。サトルのリーダー振りには注意を払わなければならない。

〈8月〉

例年と同様のメンバーの交流がみられた。しかし、カヨミがいない時に女子3人組とアサコはリーダーシップをとるのに、カヨミが来ると離れたり、26日の記録にあるようにサトルがいないと女子とも遊べやかない感じであること、2年生の実力者ヒロトがサトルと一緒にヒデミツに対し凄く攻撃的になることは問題である。

一方、男子がやっている野球をカヨミとアサコが見物したり、ミワコがマサエと見物しながら点つけをするなど、野球には入らないが参加しているものと解釈できよう。

母親のいないアイコは、ままごと、お母さんごっこを嫌ってやらなかったのに、23日カヨミたちとお母さんごっこをした。やっとこだわりがなくなったのであろう。

第4期 成熟期（9月～12月）

集団の主な動き

〈9月〉

1日の野球は、18人で多彩なメンバーであった。3年のカズト、ヒデミツ、ミワコ、ミチヨ、2年のユウ

タ、ヒロシ、マサヨシ、テツシ、マサイチ、アツオ、マサイチ、1年のマサツグ、男子3人組、マサシに加えてウタ弟、卒園児T子である。見物人はカヨミ、ケンイチ、ヒロヤ、アサコ、キヨと多人数が集り、女子が入ったことが雰囲気を柔かくしていた。人形の家づくりをしているミワコ、ミチヨ、マサエ、クミコにテツシ、プレハブではヒトエ、マサイチ、エイキが遊び、虫採りをヒロコとヒロユキがする。このように、夏休みに引続き男子と女子が仲良く遊ぶ姿が多く見られるようになる。もっとも、エイキ、ヒロユキは余り運動をやらないし、マサイチも野球を毎日のようにやるタイプではない。この男子2人とヒロコ、ヒトエ、タカコなど2年女子も本を見たり絵描きをやることが多い。

木製バットの野球は7、8、9、13、14、17、20、21日であったが、ビニールバットでは連日行われていた。4日はヒデミツ、マサシ、ジュンジ、マサツグ、アキト、卒園児M子、T子、ミワコ、ミチヨがやり、ミチヨとミワコ、ミワコは1人でその後も時々入るようになった。14日にはユリも入った。

降雨のため体育館でやったドッチボール、10日にはいつも運動をやる男子にミワコ、ミチヨ、ユリ、さらに両親が運動するよう願っていたヒロコが参加した。また、カヨミが来ると逃げていたヒトエが、2日にはカヨミ、アサコ、女子3人組と色々遊びをした。ヒトエはヒロコと離れる時もふえている。室内では野球の盛んなことを反映して男子たちに野球盤が流行した。

20日に行われた野球は、試合運びもよく緊張感に満ち、14対12の好試合で負けた男子たちも不平を言わなかった。その次の日、10月1日のスポーツ大会に備えてドッチボールの練習をしようとワーカーが呼びかけた。昨日から練習についての掲示はしてあったのだが、ヒデミツたちは「えっ」、「あしたからがいいよ」と口々に不平を洩らす。ワーカーは譲らず校庭に出ると、ヒデミツ、サトル、ヒデト、マサヨシ、アツオ、マサシの6人がベースを並べ始める。しかし、ワーカーが大

会まで10日位しかないし、ドッチボールをしてから野球をすればよいと言うと、重い足取りで集まって来た。

ドッチボールの練習は20~30分、おやつ直後にやるので、野球もその時間を避けて行うことになったが木のバットではやろうとしなかった。ドッチボールもやり始めると文句を言わないでやる。メンバーの交流の1例として、25日のお手紙屋さんを紹介すると、店屋は、ヒトエ、ミチヨ、タカコ、ミワコで始まり、カヨミ、キヨが入れてもうい、客はテツシ、ジュンジ、セイイチ、アイコ等であった。

紙を丸めて刀をつくり、マサイチ、カズト、マサヨシ、ヒロユキが刀を振り回して大暴れをするが、ヒロユキがやるのが珍らしい。ヒロト、テツシたちが家ごっこを発展させてトンネルごっこをするなど遊びに工夫がみられる。

<10月>

1日のスポーツ大会は41名が参加し、ドッチボールはK Y保育室に勝ち、K S保育室に負けた。花笠音頭をやる前、男子特にヒロトは手首に花をつけるのにぐずぐずしているが、サトルがさっさとつけるのを見て従う。先月のドッチボール練習の反動からか、男子たちの室内遊びが多い。2日から男子3人組が紙ヒコーキを折りとはすのにこり出し数日間続けたり、野球盤も相変わらず盛んであった。女子にはゴム段が流行、6日に例をとるとミワコ、ミチヨ、ユリ、クミヨとマサエ、ヒロコ、タカコとヒトエ、カヨミと女子3人組とそれぞれ12人がやっている。

店屋ごっこも先月に続いて盛んで、8日には9軒、14人参加のくじ屋、ゲーム屋などが乱立した。それも全員男子であった。14日にはいろはに金平糖をやったメンバーはカズト、キヨ、テルコとアイコと今までなかった組合せ、22日にはアツオ、マサシ、マサイチ、タケトシ、アキトの野球にミチヨはとも角アサコまで入った。23日の野球はもっと多彩なメンバーで、男子10人の中にミワコ、カヨミ、ミチヨ、女子3人組が入った。前庭や校庭で野球は盛んに行われたが木のバツ

トでは14、15、22日だけであった。

29日にマサイチ、アツオが始めた割し箸鉄砲作りはマサシ、サトル、次いでエイキ、ユウタ、テツシと広まる。それを見て男子3人組がワーカーに教えてと言いに来る。翌日にはトモテル、カヨミ、ケンイチ、ヒロヤも作りたがるという拵がりを見せた。30日のいろはに金平糖は、マサヨ、カヨミ、キヨ、ヒデミツ、マサツグ、エイキ、ヒロユキ、テツシ、ヒデミツ、アキト、ヒロヤに卒園児T子を加えた12人、この種の遊びの人数としては実に多数であった。ただし、笑顔を見せて言葉かけを続けたワーカーが側にいたこともつけ加えたい。

〈11月〉

寒くなってきたためか木製バットの野球の希望が聞かれなくなった。前庭で小人数でやったり、常時動き回る盗塁ごっこに人気移った。6日には、エイキ、トモテルとミチヨ、マサエ、テルコ、キヨ、ヒロコとアサコが壘上でふざけ合いプロレスごっこに発展しカズも後から入りきあきあ大騒ぎとなる。カヨミは、タカコ、アサコ、ヒトエとプレハブでままごと、テルコとキヨはヒロコが男の子たちと高鬼をし、各サブグループが分れてつくった仲間遊ぶ。

先日に続き迷路を描いて客にやらせてくれるゲーム屋が、ヒロトを中心に行われる。11日のメンバーはヒロト、サトル、ユウタ、マサシで始めるがアキカズも入れる。13日はヒロトに、マサヨシ、トモテル、アキト、ジュンジ、殆んどこれらのメンバーと遊ばなかったノブキも加わった。

活発に遊ぶ反面、結構喧嘩も多く15日の例だと、テツオとエイキの掴み合い、エイキがテツオの腕に噛みつく、アキトとタケトシがもみ合う、タケトシとマサヨシと取っ組み合いアツオとアキカズと5回であった。

迷路屋はますます盛んになり連日だれかやっている。迷路も平面に描いたのを見るのではなく、細い紙に巻いたものを引張り出していくものになり、難しく長いものを競い合って作る。27日、細い板を鋸でカット

した剣作りが始まった。テツシ、マサヨシ、タケトシ、ユウタがやっている、ヒロト、アキト、カズトが来て参加、ワーカーも斜めのカットなど難しい点を手伝ったり教えたりする。翌日には、マサイチとヒロユキも作り始める。

〈12月〉

1日、昨日からの木の剣作りの続きをやるのはヒロユキ、2本目がユウタとセイイチ、初めてなのはヒロヤとケンイチ、サトルとヒデミツもやる気を出した。クリスマス会に向けて合奏のパートの希望と劇などの希望を記入する募集をする。11月末にビデオたちやミチヨたちは既に打合せを始めていたが今日から本格的になる。劇ではビデオ中心のヒロコ、タカコ、テルコとアイコたち、ミワコ、ミチヨ、クミコ、マサエたち、カズトが脚本を引き受けたユウタ、マサイチ、ヒロユキ、ヒデト、ケンイチ、ヒロヤグループが早速始めた。

月初めから全員参加の合奏や劇の練習が中心的な活動となり18日まで続く。パート別に個人指導をしてきた合奏を13日に初めて合わす。

合奏、劇を並行して準備するので子どもたちも多忙である。小道具作り、バック描き、お面作り、脚本作り等である。一方、遊びも盛んで8日、ヒロトがブラレールを繋いでミニカーを走らせて遊び始めた。ヒデミツ、ユウタ、アキカズ、サトル、テツオ、サトシが次々と寄って来て2人組になって競争をした。また、校庭では高鬼、ダルマさん転んだよをカヨミ、ミチエ、テルコ、アサコ、ケンイチ、ヒロヤ、マサイチ、タケトシ、アキト、友人という組合せで遊んだ。

クリスマス会、マサツグと3人組の合奏でタケトシが泣いて動かない波乱含めの導入で子ども、母親とも私語が多く、劇などの出来栄も両極があった。20日には、ほっとした雰囲気、野球、フットベース、中当てなどを楽しんでいた。しかし、同日ミワコたち5人の劇の真似、24日のカズトたちの修行僧ごっこクリスマス会の余波が続く。21日、2階で大きな段ボール箱で家を作り始めたアツオ、マサシとマサイチは、

この家にグリーンハウスと書いた。アツオは「だって、緑の家でしょ」とワーカーに得意気に説明した。次の日には、ノブキも加わり続きをやった。

外部との関係

- 9月2日 隣りの算盤塾の先生来訪、アキトが窓ガラスに投石した。
- 2日 タケトシ、重ねた机が落下して頭部を切りM病院に連れて行く。
- 10日 本日より、13、27日、10月4、7、14、18、21、25、28日、11月1、11、18日の13日間、本学社会福祉学科1年次学生が見学実習。
- 10日 マユコ宅火事 都営住宅の居住部分(室内)を焼失。
- 18日 父母会
- 10月6日 O小学校F教諭立話 K教諭を引継いだ。マサシは周りの子に手を出す。アキトたちは授業中歩き回る。タケトシは注意しても知らん顔しており、休み時間にスカートめくりをしたり丸めた紙で頭をたたいたりする。
- 27日 O小学校E教諭立話 温和しいクミヨがドッヂで最後まで残り当ると泣き出す根性に驚いた。
- 11月2日 O小学校給食室のカーテンをアキトとタケトシがゆすって落す。謝りに行く。
- 20日 父母会
- 24日 O小学校用務員来訪 ダスターシュートに火つけた跡があるがMクラブの子ではないか。

ワーカーの意図・動き

<9月>

夏休中女子の野球見物、点つけが自然に行われるようになってきたので、ワーカーは「やってみない」と折にふれ声を掛けてきた。ためらうミワコとミチヨに、とも角やってみてごらんなさいと強引にすすめたのがきっかけとなった。男子メンバーも、「えっ?、いい

よ」という感じで仲間に入れた。メンバーの交流範囲は広がるし、試合中の雰囲気もよくなった。他の女子にもすすめるが、ユリを入れるにとどまった。

多人数の遊びが多いが、相変ずキャッチボールの相手や、トランプを教えるなど1〜2人との係わりも多い。ドッチボールの練習は野球好きのメンバーが多く、初め抵抗があったがワーカーは妥協はせず、説明する態度をとり納得させることができた。

<10月>

見学実習生が8日間来訪した。子どもが学生と遊ぶようにワーカーは一步退いた形となったが、学生と子どものトラブルについて見落しのないよう心掛けた。子どもの話し相手、中当て、工作を教えるなどの個別的係わりも引続き多い。

カヨミはワーカーの見てないところで女子3人組にビンタをしたり暴力を振り自分勝手に振舞うので、ワーカーは気をつけていた。3人組とアサコ以外とも遊べるようになってきた22日、キヨ母の話をきいて早急に解決しないと大問題になると直感した。そこで、常勤ワーカーが連日カヨミにアプローチすることにした。苛めないよう監視するのではなく、カヨミが楽しいやさしい気持ちになれるよう手助けをし、見守るという接し方をする方針をとった。

キャッチボールを誘ったり、おやつの時にも出来るだけ側に腰かけて会話を盛り上げたり、来る時に気をつけていて待っていた態度を示すなどである。集中的なアプローチによるカヨミの変容には著しいものがあった。

<11月>

カヨミの交友範囲を広げるため、例えば、9日にはカヨミ、女子3人組、アサコの学校ごっこにミワコも一緒に入るように橋渡しの役をし、24日ヒトエとアサコ、キヨが遊んでいるところに来たカヨミとミチエが睨み合っている間に入って一緒に遊ぶようすすめる。カヨミもワーカーに対し素直になっているのでダルマさん転んだよを5人で始めた。

プロレスごっこは危険なのでワーカーが1人必ずみるよう気を付け、女子もワーカーが見ていると安心して入った。その他、要求の多いアサコとバトミントン、男の子とキャッチボールなどの相手をする。

〈12月〉

全体の合奏、歌は全ワーカーで担当、個別の劇グループは分担した。非常勤ワーカーは分担したことに熱中し勝ちなので、専任ワーカーは全体を担当する日ではなくても常時より意識的に広範囲のメンバーに係わるようにした。

考察

〈9月〉

2日タケトシが頭部に裂傷を負った時、周りの子が「大丈夫？」と寄ってくる。ミワコはタオルを取ってきて卒園児T子と共に床を拭く。興奮して大声で騒いでいる子どもたちにワーカーが「怪我をしているから静かにしてあげなさい」というと、すかさず3年のアキカズ、カズトが「静かにしろ」と言う。ワーカーも含めての仲間意識が着実に育っていることを如実に物語る事柄であると思う。

野球は、審判役としてついているワーカーの対処の仕方により展開も異なる。21日は野球をよく知っているワーカーが担当し、両チームに公平に声を掛け技術も教え、「さ、チェンジ、チェンジ」と手招きするなど活気づけたことも、好試合の大きな要素といえる。楽しい前日の試合の余韻が残っている21日、ドッジボール練習に反抗しながらも「アシタから」、「今日だけ野球やらして」と訴え、条件つきでやる意志を見せたところに注目したい。

22日の野球、ヒロト、マサイチ、ユウタ、マサヨシ、アキト、マサシの6人でやっている時にヒデミツが入りたいというのでワーカー（非）は誰か1人誘ってくるように言う。アツオと組んで入ろうとしたらマサシが抜け、マサシの代りにアツオが入った。同ワーカーは、ヒデミツの方が先に入りたがっていたというが、ヒロトに気を使っているようで、他の子は何も言わな

い。ヒデミツは自分では「入れて」と言わずあきらめた様子で審判のようなことをやる。同ワーカーは「自分で言わなければ分らない、ヒデミツ君が言わないと先生も頼んであげられない」と言う。ヒロトが妥協して入れる。サトルと一緒にできなかったこともあるかもしれないが、ヒロトが物事を筋道を立てて考え判断する力をもっていることを示す。ただ威張るだけでないリーダーとしての萌芽がある。女子が野球に入ったことも一大変化と言えよう。ヒロコがドッジボールに入ったことはワーカーの働きかけが実を結んだものである。全般的に遊びの質が向上してきたのが目につく。

〈10月〉

スポーツ大会の疲れは、女子よりもドッジボールに全力を出した男子に目立つようだ。練習、対抗試合の過程でメンバー間の親密度と帰属意識が高まったようで、遊びの密度が高まり交流は一層広く行われるようになっていく。女子の野球への参加も特徴的だが、見物している女子に「女の子がやってもいいんだよ。やってごらん」、男子に「下手でもおこらないよね」などの言葉かけも彼等の意識革命に効果があったと思う。

カヨミはMクラブに2年生から入り休みがちだったのでワーカーに対する信頼関係が成立しにくかったこと、学校では女の友人は1人もいない、母親の帰宅が午後9時頃になる。弟ケンイチが入ったので心強くなったこと等のため歯止めのかかない行動に出たと思う。女子3人組は家庭教育で力に服従する行動パターンを身につけており、その相互作用の結果であったともいえよう。

ヒロトの変容が著しい。6日にユウタ、アキカズ、マサシとクッションぶつけをしたが、子どもらしく遊びに興じたのはこれが2度目と記録され、7日には一緒に野球をしている実習生をかばい、ルールを教えるなどである。

〈11月〉

カヨミは、9日学校ごっこに入れたミワコを先生にした。今まではいつも先生役をして威張っていたが、同

じ3年とはいえミワコを受け入れたこと、ワーカーに素直になってきたことに注目したい。

ヒロトは迷路屋の中心人物で、13日と15日のメンバーを比較すると判るように広範囲の子がヒロトの方に近ずいていく。自分から誘うというのではない。入りたがる子は全部入れている。新しい型のリーダーとして育ててきている。ただ、口癖のようにバカを連発し他のメンバーを見下すような態度が問題である。

〈12月〉

カズトとヒデオが各々のグループで劇作りに抜群の力を見せ、リーダーシップをとったが多様な活動がリーダーを育てることに着目したい。また、女3人組のテルコとミチエの2人がミワコ、ミチヨたちの劇に入り、ミカヨと別行動をしたことも、サブグループがゆさぶられていると解釈できよう。もっとも、テルコとミチヨにワーカーのサポートがあったことは言うまでもない。

第5期 安定期（1月～3月）

集団の主な動き

〈1月〉

子どもたちが自然に様々な交流をもつが、例えば10日、サトル、ヒデミツ、カズト、マサイチ、ユウタにエイイチが加わってゲームをし、さらにテツシ、ジュンジ、マサヨシが加わるとか、12日古タイヤの山でカズト、エイイチとヒロユキ、男子3人組とマサツグの2グループが歩いたり跳んだりしているうちに学校のゴミ捨て場から拾ったモップの柄を使い、全員入り乱れてチャンバラに興じる等である。また、男子3人組のうちジュンジは夏頃から1人離れて他のメンバーと遊ぶ時が多いが、12日にはアイコ、女子3人組のキヨと体育館の階段跳びをする。17日には、女子に近づかないヒロトが、ワーカーも一緒だったとはいえ、マサイチ、ヒトエ、タカコと共にコマ回しをした。中旬はコマ回しが大流行で多くのメンバーが1階に入れ代り立ち代り集ってコマ回しに興ずる日が続いた。

筋消しと称するゴムの小さな人形を家から持ってくるアキトシに、ジュンヤ、エイキ、ユウタが寄って来たり、ゲームウォッチにテツオ、ヒロト、ユウタ、ジュンヤが集るとか、おやつ後のテレビに10人前後の男子とアイコがかじりつくなど冬ごもりのな面が見られた。しかし、11、12日の木のバットの野球以外にも6～7人の野球や盗塁、サッカー、高鬼、プロレスごっこなど動き回る遊びも盛んに行なわれた。

26日に始まったレストランごっこは、プレハブ建物をお店にして、近くの草を使用。27日のメンバーは、マサエとクミヨ、ミチエとテルコと4人だけ、翌日はマサエとクミヨ、ミワコ、ミチヨ、ヒトエ、タカコ、マサイチ、お客としてテツシ、カヨミ、ミチエ、キヨ、アサコ、ケンイチと発展した。女子3人組も分れて他のメンバーと交流をもつようになり、25日にはカヨミの誘いにはっきり断わることができた。

〈2月〉

男子メンバーは室内でのゲームウォッチやドラキュラゲーム大流行だが、先月と同様にゲーム屋、プロレスごっこもよく行われる。

2日の2階の様子を紹介してみると、ゲーム屋はヒロト、トモテル、ユウタ、テツシに3年アキカズ、サトルとヒデミツ、1つ目の店ではマサヨシ、テルコ、キヨが折紙の作品作り、途中から入ったトモテルがうちわ作り、もう1つの店はカヨミ、ミチエ、アサコが折紙を売っている。その横ではミワコ、ミチヨにヒデオ、ヒロコが加わってくじ屋をしているという盛況振りて店同志で交流もみられる。

5日には、大なわをしているカヨミ、ヒロコ、アイコにアキト、ジュンジが入り、ヒロトたちのゲームウォッチにミチヨ、マサエが入れてもらう。

寒いといっても外遊びも活発で、男子は泥警をよくやり、7日には珍しくマサイチがリーダーシップをとる。また、16日には女子が初めての泥警をやるが、そのメンバーもミチヨ、ミワコ、クミヨ、マサエと、テルコ、ミチエと、タカコ、ヒトエの組み合わせであった。

女子たちは、ヒロト、トモテル、マサヨシ、ヒデオ、アツオ、3人組の泥警を見ていて3年生が言い出したものであった。9日には近くのK公園に行くが21人が参加し、カズト、エイイチ、ヒロユキが女子と一緒に高鬼をして非常に楽しそうにはしゃぐのだった。

17日には、積雪のためヒデミツ、ヒロト、マサシ、ヒトエ、ヒロコにワーカー2人も加わって雪合戦。雪だるまをアツオ、ジュンジが作り始め、ヒロユキ、セイイチ、カズト、ユウタ、トモテル、マサツグも参加した。

アキトシ、ジュンヤとエイイチ、ヒロユキたちはゴム人形とかプラモデルを自宅から持って来て遊ぶことも多い。25日、子どもたちの中からドッジをやるかとの声が出てきて久し振りにやるが、エイイチとヒロユキ、ケンイチ、アサコ、キヨ、ミチエを含む19人の参加、カヨミ、テルコ、ヒロコ、ヒデオは入らなかったが面白そうに見ていた。

<3月>

トランプやゲームもよくやるが、室内にいても3日のアキトとタケトシのピンポン、5日のヒロト、マサヨシ、テツシ、ジュンジ、アキト、ヒロト兄、10、11日とヒロヤ、ケンイチ、マサツグ、16日エイキ、テツシ、カズト、ノブキ、マサヨシ、のプロレスごっこというように広範囲のメンバーが活発に動く、ゲームや迷路づくりをやる時が多いヒロト、今までやらなかったノブトがプロレスごっこに入ったのが目につく。キヨ、テルコ、アイコ、ヒロユキもなわとびの競争を元気よくやる。

外遊びも、校庭の鉄棒、砂場遊び、ドッジボール、前庭での野球、盗塁が引続き行われていて、例えば10日ドッジボールはマサル、ヒデミツ、アキカズ、ミワコ、ミチヨ、カズトの3年生、テツシ、ヒロユキ、マサヨシ、トモテルの2年生、男子3人組とアサコが参加している。

カヨミ、ケンイチ、ミチエ、アサコのやった4日の家ごっこに、マサヨシとマサイチが入れってもらった

り、5日にはタカコ、ヒトエ、アイコとカズト、ジュンジがおしゃべりをしながら校庭を歩く、テツシがヒロヤ、ケンイチに宿題やトランプをお兄さんらしく教える姿に落ち着きを感じられる。

20日に行われた森林公園へのバスハイクを父母と共に楽しんだ後は、一変して活気に満ちた慌しさがよみがえってきた。お別れ会の準備である。25日のお別れ会は、塩川ボランティアも迎えて陽気に始まった。自主的な子どものグループ作りと出し物を紹介したい。初めの言葉をサトル、紙芝居、笛をミワコとミチヨ、歌をヒロコとアイコ、劇をアツオ、マサシ、マサイチ、エイイチ、カズト、男3人組、ヒデオ、ヒロコ、マサツグの11人、もう1つの劇をアツシたち4人、手品をテツシとミワコ兄がやった。自由参加のなぞなぞの出題者は、アキトシ、トモテル、ノブキを含む8人であった。

外部との関係

1月22日 父母会

3月7日 父母会

ワーカーの意図・動き

<1月>

メンバー同志が関係を深めて落ち着いて遊べるようになって、1年男子と盗塁をやったり、ツイスターをやる、ヒデミツ、テツシ、マサイチとサッカーというように一緒に遊ぶ時も多い。ただし、ワーカーが入らないと遊び仲間が作れないからではなく、子どもとワーカーの親密な関係を保持する意味合いが強い。

マサヨシは級の友人2人に校庭で誘われるとMクラブに来ないでスーパーなどに行ってしまう。17日より専任ワーカーは、マサヨシに対し集中的に働きかけMクラブにおける安定をはかることとした。たとえば、18日にはこま回しの競争をしてタイムを計る。19日にアサコが「マサヨシ君、遊びたくないのに遊ぼうっていうんだよ」とワーカーに訴えた時、少しだけ遊んだらどうかしら」と言い、マサシを含め3人でふざけっこになるなどである。

〈2月〉

ブレスごっこに入ったり、レフェリー役が多かった。この時期になってもレスリングごっこは首4の字やキックなど危険な技が何時でるか分からないので目を離せない。遊びに参加しながら、危険防止に気を配る。ヒデミツ、アキカズとキャッチボール、テツシ、マサヨシ、エイイチとレスリングを、アザコにはキャッチボール、バトミントン、折紙と、ワーカーと個別的に遊びたがる子の相手も多い。

〈3月〉

ブレスごっこが多く、ワーカーは気を配る。ワーカーと一緒に遊ぶことは少くなるが、ブランコや砂遊び、鉄棒などしているメンバーに積極的に話しかける。お別れ会の出し物はワーカー側から募集したが、出し物についての指導は積極的にはやらない。キャプファイヤー、クリスマス会の経験を試みてほしいと考えるからである。

考察

1月10日には、テツシがレスリングの相手を求めるのに勝ったら8回、負けたら3回ゲームウォッチをやらしてあげると言い、カズトとヒデミツが応じたが、無理矢理に誘わなかった点にも円滑な遊びの展開の一端をみられよう。女子の名前のとりかえごっこは、これまでの体験からメンバー同志が心が通い合った時期に行われる象徴的な現象である。

グリーンハウスも、アツシが中心となりこわれるまで使用、12日みんなを面白がらせる“ひょうきん屋”というユニークな遊びをしているが、独創性と継続性が顕著になってきたといえよう。継続性といえば、26、27、28日のレストランごっこはメンバーの係わり方の変化も実に多彩であり仲間意識の拡がりも如実に示されている。

第1期には強引に威張り、ヒロトを片腕にしてヒデミツに対して意地の悪い言動をしていたサトルも他のメンバーへの影響力が低下してきている。12日の野球は、サトルとヒデミツが同じチームになりたがり、ア

キカズ、マサヨシ、アキトに3点あげるという条件を提案して納得させているが、大いに評価できる変容振りであろう。

2月には男子と女子と一緒に大なわをしたり、女子だけで泥警をやってみることに注目したい。店屋や、高鬼は以前から男子と女子共通の遊びであったが、その境界を越えた遊びの選択に実に強い仲間意識を感じさせられる。

カヨミも8日には、女3人組に遊びを押しつけるのではなく、何をやりたいか意見をきいていた。温和なカズトが、サッカーのネットに足を入れワーカーに叱られて、ワーカーの口真似をしているタケトシに、「おい、もう止めとけよ」とたしなめお兄さんらしい態度をみせた。2人の成長を感じる。しかし、4日にユウタが「俺のこと殺すとかいうゲームを作ったんだよ」と泣き声でワーカーに訴えている。これはヒロトとサトルがゲームを作りながら言ったのである。ヒロトとサトルの組み合わせは、まだこのような意地悪を生み出す。

3月には、メンバーの交流が1番易しいスポーツ、次いで店屋ごっこを経て、家ごっこ、おしゃべりに変っている。2年生のテツオのやさしいお兄さん振りや、お別れ会の劇作りに熱中したアツオのリーダー振りに、多様なリーダーの台頭が感じられた。

4. 58年度のグループ・プロセス

〈年間のプログラム〉

- | | |
|-------|------------------------|
| 4月11日 | 体育館ドッチボール(0小学校施設借用、下略) |
| 12日 | 体育館ドッチボール |
| 15日 | 工作 厚紙のヒコーキ 体育館ドッチボール |
| 19日 | 体育館ドッチボール |
| 22日 | 工作 牛乳パックのカバ他 体育館ドッチボール |
| 28日 | 原っぱに虫とり 体育館ドッチボール |
| 5月6日 | 工作 パラシュート作り 体育館ドッチボール |
| 7日 | 池に虫採りなど |
| 13日 | 工作 プンブンごま |

16日	体育館ドッチボール	7日	工作 紙ずもう
17日	体育館ドッチボール	14日	工作 毛糸の芋虫
20日	工作 紙ひもコースター	15日	裁縫
27日	工作 紙ひもコースター色つけ	19日	体育館ドッチボール
28日	荒川土手ザリガニつり小遠足	22日	父母会共催おやつ作り 混ぜ御飯他
6月3日	工作 マリオネット	28日	工作 ダイヤ凧
10日	工作 くるくる回る飛行機	29日	裁縫
13日	体育館ドッチボール	11月4日	工作 ダイヤ凧
16日	体育館ドッチボール	24日	クリスマス会の合奏他練習開始
17日	工作 恐竜の玉子	26日	裁縫
18日	父母会共催のおやつ作り カレーライス、フルーツサラダ	12月17日	クリスマス会、父母会主催会食会
20日	体育館ドッチボール	22日	工作 消しゴムのスタンプ
24日	工作 恐竜の玉子色つけ	1月13日	工作 マクラメの犬
27日	社会福祉原理論 第1回見学実習(以後 11月10日まで計12回)	14日	工作 マクラメの犬
7月1日	工作 恐竜の玉子	18日	工作 マラカス作り
5日	体育館ドッチボール	21日	裁縫
7日	七夕祭り	24日	工作 マラカス作り
8日	体育館ドッチボール、キャンプファイヤー練習開始	31日	体育館ドッチボール
23日	模擬店 キャンプ・ファイヤーの集い	2月3日	工作 ぐにゃぐにゃ凧
27日	プール遊び開始	8日	工作 竹笛
8月4日	夏休みの共同製作開始	17日	体育館ドッチボール
26日	父母会共催すいか割り	18日	父母会共催おやつ作り おはぎ
27日	裁縫	23日	体育館ドッチボール
9月3日	裁縫	2月24日	工作 ブラバン
8日	体育館ドッチボール	25日	工作 ブラバン
10日	裁縫	3月2日	工作 ブラバン
16日	体育館ドッチボール	9日	工作 変り絵カード
20日	体育館ドッチボール	17日	工作 万華鏡
21日	体育館ドッチボール	19日	工作 万華鏡 お別れ寄せ書き
22日	体育館ドッチボール	24日	裁縫
24日	裁縫	27日	お別れ会
29日	体育館ドッチボール	4月1日	父母会共催バス・ハイク 船の科学館
10月1日	ブロック別スポーツ大会に参加		

第1期 準備、開始期（4月～5月半ば）

集団の主な動き

〈4月〉

1年生男6名、女4名を迎える。本年は今までになく、1年生の入会が10名と少なく、3年生が18名という大勢の集団構成のため、落ち着いた新学期である。4月当初在籍は男27名、女16名計43名である。

1年生マチコは特に目立つ存在。身心ともに発達が遅れているために、一人特異な存在である。一日目、クラブに来ないのでワーカーが探しに行くと、カバンをしょって自分の家でもない方に行ってしまった。言語の発達が極端に遅れているため、ワーカーの手のかかることが多い。自分の知っている単語をしゃべり続け、こちらの質問には何を尋ねても「うん」と答え、意味を解していない。集団の中では「こいつ何?」「ばかじゃないの」といった反応も多く見られ、その都度ワーカーが未熟児で産まれたことを話し、子どもたちの中に受け入れられるようにする。一人でリカチャン人形で遊ぶことが多かった。

この時期、午前中は1年生だけの時間のため、男子メンバーはもっぱら野球、女子はプレハブのままごと遊びが主である。どの男子メンバーも、今まで保育園の狭い園庭で、野球ができなかったのが、毎年のことながら夢中になる。野球といっても前庭でビニールバットを使い順番に打つもので、打撃の技術の向上を楽しむものである。打たない子は投手か守りをやる。〇小学校1年の男子メンバーは4名で、午前中雨天でない限り毎日野球をし、1年同志の交流を深めていく。

午後も前庭で2チームに分かれての野球が活発で3年生が中心となり、2年生も加わりその中に1年のショウイチ、ヒロジ、ヨシキを入れる。または、1年生で始めていた野球に下校した2、3年生や次々とする日もある。（1年ショウイチが特に皆んなに可愛がられている）3年が、1年に打ち方など、手を取り教えているほほえましい光景もよく見られた。野球では身体も大きく、能力もあるヒトがリーダーシップをと

るが、オヤツの時、実際誘ったりするのは積極的で明るい性格のマサイチである。開始後2日目、すでに1～3年混じって13名もの数で自主的に野球が行われる。乱暴、粗野、虚言、不潔などで、1～2年の時も、集団の中で問題行動の多かったマサヨシも、仲間を受け入れられ好んで野球を行う。1年生にテニスボールの壁当てを得意になって見せたり、ブランコ、バッティングなどで1、2年生のリーダーシップをとり、遊べる時もあった。しかし、野球の時、同じチームになった1年に、ガミガミ言うなど、明らかに他の3年生とは違いがある。木のバットでの野球の時ワーカー（非）の審判の不備に対し、大声でわめいて文句を言うなど、全体の雰囲気大きく左右する。ワーカー（非）が止めるのもきかず、浄化槽の金網に登り、有刺鉄線で顔を切る大ケガなど、トラブルが絶えない。一方、ワーカーと遊ぶことを好み、ワーカー相手に、キャッチボールをすることも多いし、ワーカーに、絵をかいてもらうことも多い。

オヤツ後、校庭において、木のバットでの、ワーカーが審判をしながら指導する野球が、子どもたちの自主的な意志で行われる（8日間）。オヤツの時、3年生が皆んなに声をかけて誘う。1年生も参加し、同チームになった上級生に、教えられながらルール、技術を覚える。10～12名位でやることが多く、野球としてのゲームが楽しめた。

一方、第1期は、少人数のサブグループに分かれての遊びが、活発に行われる。1年生は、2、3年生のサブグループの中に、1人2人と入れてもらい、順調な受け入れである。女子は、プレハブで1年生も混じえて、ままとをしたり、学校ごっこをしたりである。

1年生はこの時期、保育園が同じ仲間またはクラスが同じになった子と遊ぶことも多いが、本年は男女とも人数が少ないためそのような様子が見られないで男女とも各々まとまって遊ぶことも多い。

2週目には、2階で3年生を中心にした店屋、ゲー

ム屋ごっこが行われる。(例年夏休み～3学期によく行われる)。15日、3年生の店が3軒(色鉛筆屋、サイン屋、ゲーム屋)でき、マサイチは踊りで店を宣伝するなど、遊びを豊かに盛り上げる。1年生は、ワーカーの援助を得て、紙でお金を作って客となって参加。これも3年生が多いため、早い時期に手のこんだ遊びが始められ、1～3年までの異年齢が加わって、しかも男女が混じっての遊びが展開される。

前庭で、ドッチボールを行う時もあったが、雨天の時は、O小学校の体育館を借り、ドッチボールを沢山の人数が参加してやる(6回)。組分けも公平に行われ、一学期にはめずらしい15～20名位の多人数の参加である。

野球ではヒロト、ゲーム屋、ドッチボールではマサイチがリーダーシップをとっている。しかし、1、2人のリーダーを中心にしたピラミッド型の集団とはならず、サブグループの中では、アスレチックごっこはヒロユキ、メンコはテツシ、中あてはアツオ、虫採りはエイキなど遊びに応じて、各々3年生がリーダーシップを発揮している。本年は、特に特定の子がいばったり、力で頂点に立とうとするメンバーがいかったためずらしい年である。また3年生同志が仲が良いのも特色である。3年だけでバッティングをしたり、丸太わたりをしたり、一緒にくじ屋をやったり、虫採りをしたり、探検ごっこをしたりである。全く1年生と遊んだり、リーダーシップをとろうとしない3年生もこの時期には見られる。3年生男女が早い時期より仲良く遊べたのもこの年の特色である。

2年生もよく1年生の面倒を見るのもこの年の傾向である。ドッチボール、お母さんごっこ、靴とばし、プロレス、虫採りなど3、4人が4、5人の小グループでの遊びのリーダーをしている。2年生男子3人組とマサシが、同じクラスでとても仲が良い。ミチエ、キヨ、テルコが、マチコを可愛がりよく遊んであげる。

例年のごとくこの時期2階では、机、ゴザ、毛布を使つての家ごっこ、基地ごっこなどの遊びが多く見ら

れる。毛布、ゴザで囲った中に入り、遊びとしては閉鎖的なものである。

また、身体を直接ぶつけて、お互いの親しみを増すプロレスも、時々行われた。ワーカーは審判をして、その遊びが、子どもたちの攻撃性をうまく遊びに転化できるよう気を配る。

4月から5月にかけては、季節柄、虫採りも子ども(男女とも)の好きな遊びの一つである。1年生にとっては、今までの狭い保育園の園庭でした遊んでいなかったもので、全く新しい体験で、目を輝かせて夢中になる。私達も自然と接し、虫を収集することは、この時期に大切な体験であると考えている。28日には近所の原っぱに虫採りに連れていく(19人参加)。

プレハブでは、女子メンバーが毎日ままごと遊びをした。

4月はルールを知らずボールを取り合ったり、ルール違反をしたり、ボールがあたって痛いと泣いたりもめごと多い時である。

外部との関係

4月4日 1年生父母オリエンテーション

7日 マチコが、クラブに来られなかったため、担任と話し合い、しばらく、担任が送ってくることになった。

18日 アサコが、学校で作文に嘘を書く。男の子にさわるなどのため、担任が相談に来訪

23日 父母会

ワーカーの意図・動き

1年生を迎え、1年生がクラブ生活になじめるよう配慮する。午前中は1年生だけで、その時、一緒に遊ぶことを通してワーカーとの信頼関係を深めるよう努めた。昼食を一緒にとりながら、同じテーブルの子と個人的な関係も深める。4月の1カ月で、1年生はワーカーへの信頼関係を深め、集団の中で安定感を得る。また1年生が2、3年生の中に、上手く受け入れられる配慮をする。例えば、ワーカーが中あて、高鬼など

の遊びと一緒に加わったり、ワーカーと一緒に、大きい子の店屋の客になるよう誘うなどの動きをする。一方、2、3年が上手くリーダーシップをとれるよう、側面から援助する働きかけを多くする。特に3年生のリーダーシップのあり方が、その集団の質を決定づけるため、ワーカーにとってこの時期一番神経を使うことである。3年生は最上級となり、どうしていいかとまどい、いばったりして集団の頂点に立とうとするため、例年ながら気を配った。

集団の成長への働きかけとともに、個々人の創造的人格へ向けての成長への働きかけをきめ細かく行う。特に、情緒的問題を持ち攻撃的な3年マサヨシに対し多く働きかける。乱暴、暴言のため、グループにスムーズに受け入れられない時も多く、ワーカーがキャッチボールの相手をし、ワーカーに受け入れられることにより、落ちついて遊べるようにした。マサヨシは母子家庭であるが、母親ともよく連絡をとった。本年は身心ともに発達が遅れていて、ただ知っている言葉をしゃべり続け、集団生活に馴じめなく、幼児的で手のかかる1年のマチコ、父とは離婚した後、母は蒸発し、祖母に育てられている学校でも友人が出来なく、クラブでも虚言、意図悪、乱暴などで絶えずトラブルを起こす2年のアサコ、また、父子家庭のため1年生の1月から入会した、学校では一言もしゃべらず、クラブでもわずかししかしゃべらず、不潔などのために友人のすくない3年マユコなど、家庭の問題、貧困から来る問題を持つ子、母子家庭の子も多く、各々のケアも多かった。

また、この時期、2年生は急に1年生が出現したことにより、ワーカーを取られてしまったような不安定な気持を抱く。午前中1年生だけの所を学校の休み時間に2年テルコ、ミチエが見に来たり、アサコはおぶさったり抱きついたりする頻度が高くなる。それらの行動に受容的な態度で接する。

5月に入り、1年生の学校給食も始まり、保育時間も平常となりワーカーにとっても一息といった時期で

もあるが、1年生の子どもたちも本当の自分を出し始める時期で、乱暴などの問題が表明化するため、きめ細かいケアが続いて必要である。

この時期は、1年と2、3年と一緒に遊べるよう、ハンカチ落としなどの集団遊びをワーカー側で用意するが、本年はその必要はなかった。しかし、ワーカーが遊びに加わり、1年生も混じえて遊んだり、自主的なビニールバットの野球も、民主的に遊べるよう側で目を離さず見ているなど、絶えずグループの中にいる動きである。

考察

前年度の3年生の卒園により、新1年生を迎えてグループは再編成された訳だが、メンバーの入れ変りが、例年になく少なかった全くめずらしい年である。そのため、新学期の騒然とした感じは少なく、前年度の3学期の充実した活気がそのまま引き続き、その中に1年生を暖かく迎え入れるという感じである。例年だと、上級生下校後も保育園が同じだった仲間と遊ぶとか、同じクラスになった子と遊ぶなど1年同志で遊ぶのが特色の時期であるが、本年はグループ全体の受容的雰囲気を感じ、早くから大きい子の仲間に入り遊ぶ。全般的にみて、2、3年が1年を興味深く迎えた。

この時期、物や場所の取り合い、自己中心的な言動などで、けんかなどのトラブルの多いのも特色であるが、本年はもめごともない。

3年生が多く、男女とも多彩で、有能なため、この時期から遊びの種類も多く内容も高く、運動、創作、店屋など各分野で、各々が能力を発揮する兆しが見られ、この1年間の文化的にも高度な生活の萌芽が感じられる。

1年生は乱暴、仮病などの問題行動を表わす時期であるが、少人数のため充分にきめ細かく対応できたので、順調に早くから集団にとけこめた。

本年は、非常勤ワーカー2人（毎日交代）が3年目という恵まれた年で、重要な好条件となった。問題の多いこの地域で、攻撃的な子どもに対し不適切な対応

をすることによって、トラブル（大騒ぎとなりワーカーに乱暴、攻撃をする）を起こすことも事実だからである。

第2期 発展期（5月～7月23日まで）

集団の主な動き

〈5月〉

5月には学校生活、クラブの生活にも慣れほっと一息という感じで、クラブに来るのがいやになる1年生が、例年わずかだが見られるが、今年は1年生が少く目が充分に行き届いたため、全員この時期をのり越えられた。

スポーツの好季節を迎え、4月に引き続き前庭でのビニールバットの野球は、ほぼ毎日行われた。19日のメンバーは、ヒロト、マサヨシ、マサイチ、アツオ、ユウタ、ヒロヤ、マサシ、タケトシ、ヒロジ、ショウイチであった。テツシ、ヨシキ、トモテル、ヒデオ、ケンイチがやる時もある。木のバットを使っての野球も、雨の日以外はほぼ毎日（5月12日間）、活発に行われる。特に18日から、土、日曜日を除く25日までは連日行われた。メンバーは、ビニールバットの野球と同じである。3年生が多く、参加人数も10～12名位と多いため、この時期すでに、野球の試合として十分ゲームを、楽しむことができる。1～3年生が混じり、味方の1年生に、3年生が手を取って教える場面も多く見られる。組分けも一番上手な3年生ヒロトとマサイチが、とりじゃんけんをし、取っていく公平なやり方で、ゲーム差の余りない好試合となるが多かった。

体育館のドッジボールは、6、16、17日に行われ、16日には16名の参加で、野球のメンバー以外に、マサツグ、ジュンジ、アサコが加わっていた。

野球のバッティング、ドッジボールのボール投げなど盛んに少人数で個々の技能の向上に向けての練習も多く見られる。

また空箱を使っての工作、絵かき、折紙などの創作活動にも落着いて取り組める時期で熱中して行う。

サブグループの遊びも活発である。3年生同志の交友関係（同性だけでなく、男女も混じって）が一段と深められ、ヒロトとユウタ、ヒロコとヒトエ、マサエとクミヨ、ヒロユキとエイキのように各々が親友と呼べる関係を持ち、その関係を深めていく。しかし、それも閉鎖的なものでなく、その関係を核としての広がりをたえず持っている。2、4日3年生ヒロユキ、ヒロコ、タカコ、ヒトエでプレハブを使って始めた医者ごっこに1、2年の女子5人が患者として加わった。13日には3年男女マサイチ、ユウタ、アツオ、ヒトエに1、2年の女子アサコ、カズコも加えて6人で学校ごっこをし、引き続き下旬には今まで女子と全く遊ばない2年男子アキト、タケトシのレストランに、客としてミチエ、キヨ、キミ、マチコが、加わるなど学年を混じえ、男女入り混じった遊びがこの時期にすでに見られるのが、今年の特徴である。3年生各々が各局面でリーダーシップをとっている。3年生が1人加わっている時も、複数でリーダーシップをとるなどいろいろな時がある。1年生も特定のサブグループの中の位置を確立しつつある。2年生男子3人組も1年生を混じえて遊ぶなどいい役割を果している。

プレハブは、ままごと、お母さんごっこ、医者ごっこ男女ともに使われた。

マチコも2年ミチエがよく面倒を見て、可愛がり、いつも仲間に入れてもらえるようになる。マチコが泣くと「どうしたの？」とやさしく言い、マチコはミチエに抱きつくことが多くなる。（しかし余りに人形のように愛玩物化することが、後にますますエスカレートしていった）

19日ワーカーのすすめで、「Mクラブしんぶん」を作ろうとマサイチが言い出す。ワーカーは援助をすることにする。早速ヒロト、ユウタを加え、女子メンバーヒロコ、ヒトエも自分たちで誘う。連載マンガ担当にタカコや、取材担当者アツオ、マサシも加え総勢8名で出発する。ワーカーは内容、書き方を指導する。内容もクラブの様子、1年生の紹介、クイズ、マンガと

多彩なものとなる。自分たちで作る曜日も決め2号、3号と継続して順調に発刊された。単発に終らなかったのは3年生の有能なメンバーが多かったためである（この新聞作りは次の3年生にも継続するよう言い残して卒業していったが、次年の3年は能力不足のため、その兆しは見られ作る試みはされたが発刊に至らなかった。また、それ以前、以後にも全く行われない）。発刊は不定期となるが3月にお別れ号を出すまで、継続されたことは本年が文化的にも高度であったことを示している。

28日荒川土手へザリガニつりを主とした小遠足をする。河川敷の開発が進んだため全くつれない。後半は土手をダンボールに乗って滑りおろる遊びを楽しむ。共通の楽しい体験が集団の結束力を深めるものである。

後半、2、3年生を中心にコマ回しが盛んに行われるようになる。

<6月>

引き続き戸外でのスポーツ遊びが活発である。4月、5月と野球練習、オヤツ後の木のバットでの試合が盛んに行われてきた中で、中旬（17日）になると、自然に3年生の呼びかけで野球チームが2つでき（アンダーズ、ロビンス）、各々チームの練習が行われたり、そのチームのメンバーを中心に遊ぶことが多い。しかし、当初懸念したように両チームの勢力争いにはならず、時に応じて両チームメンバーの自由な交流が見られ、いい形の両グループの存在となる。アンダーズはマサイチがリーダーで1年ヨシキ、ショウイチ、ヒロジが加わっておりアツオ、マサシ、アキト、タクトシ、マサツグの10人のチーム、ロビンスは2、3年生のみ6人ユウタ、テツシ、マサヨシ、ヒロヤ、ケンイチのチームでヒロトがリーダーである。話し合いで時々試合を行い、その時はワーカーが審判をした。21日の試合には女子ヒトエ、ヒロコらが熱烈に応援した。1年生がいるためアンダーズは、全く不利で33対3と完敗したが、勝敗に殆んど固執しないのは不思議な位であった。マサイチは下級生をととても可愛がっている。

22日には3年アツオを中心にマサシ、ジュンジがサッカーチームを作った。まず布地でのゼッケン作りをする。しかしこのチームは自然に消滅してしまった。

オヤツ後は、試合も含め木のバットでの野球は、1、15、18、21日の4回で、ドッチボールが3、7、8、9、14日校庭で13、16、20日は体育館で、多人数の参加で活発に行われる。15名前後で行われることが多く野球、好きのメンバーが主であるが、ヒロコ、タカコ、ヒトエ、アイコが加わる時もあった。

特に1年の時殆ど運動をしなかったトモテル、セイイチ、マサツグの参加もめずらしいことだった。勝敗にこだわらずゲームを楽しんで行う。

5月下旬に2、3年生ヒロト、ユウタ、マサヨシ、アキトラを中心に盛んになっていたコマ回しに、1年生ショウイチ、ヒロマサ、コウゾウが興味を示す。ワーカーは、回す技術を身につけさせるため、根気よくひもを回してあげ、何回も繰り返して練習をするように励ます。1年も回せるようになり1年同志でコマ回しを楽しむ時が多くなる。

新聞作りは、3、4、5、6号がこの月に発刊される。号を追って内容も充実して新聞らしい体裁をもつようになる。ヒロコ、ヒトエは学校で内容を話し合ってきたらしく、クラブに来てすぐとりかかるほどの乗りようである。

3日には定例の工作指導で教えた紙テープで作ったマリオネットを使い、3年マサイチを中心にミチエ、マチコ、ヒロジ、ユウタで人形劇を上演し、客を集めて見せた。このように遊びの内容も高度で豊かである。

3年生同志で遊ぶことの多かった3年生女子ヒロコ、ヒトエが中頃よりリーダーシップをとるようになる。

18日、例年のごとく1学期のおやつ作りでカレーライス、フルーツサラダを作る。父母会共催の下に行うもので母親16名の参加を得る。3つの班に分かれ、30分づつ野菜、肉などを切る。参加の母親がどの班の子にも手を供えて切るのを教える。この行事は、子どもたちが生きた教材にじかに触れて学び、生活の技術も

身につけることを目的としている。父母の参加は、集団の成長を側面から援助する重要な役割を果たしている。荒川土手の小遠足、おやつ作りの行事を通して1年生は集団への所属感を一層深める。

27日より本学社会福祉学科1年次学生が社会福祉原理論の一環として見学実習に訪れる。一日、子どもたちと一緒に遊ぶことを通じて学ぶものである。1回に8～10名位の参加である。2、3年生は例年のことで慣れていて、自分たちから近づいていくが、1年生には学生と遊んでみるようすすめる。三々五々学生と子どもたちが一緒に楽しく遊ぶ。学生の感想は1、女の子は独占欲強く一対一で遊びたがる。1、男の子はうるせえなーと攻撃的、1、マサイチのリーダーシップは自分の思い通りにしていたなど、まだ個人もグループも未熟であることをよく表している。

〈7月初旬～23日まで〉

例年のごとく七夕祭りのため、飾りを作ったり、短冊に一人一枚はおねがいを書く、

ブラレールをつなぎゴムのミニカーをはじいて遊ぶヒロトが作り出したカーレースは、人気のある遊びとなる。6日はヒロト、ユウタ、テツシ、ヒロヤ、ケンイチ、アツオ、マサシ、ヒロジ、ショウイチでやった。この遊びはメンバーを変え、ずっと変わらず3学期まで人気がある。これをきっかけにヒロトが皆んなの中で、その力、人格も含め一目置かれる存在となる。オヤツの時もストーブ前の指定席ができ、男子メンバーはその隣りにきそって座りたがる。

マサヨシもレース、くじ屋などで仲間に入れてもらったり、ゲーム屋ではリーダーシップをとるなどグループに受け入れられるようになってくる。ゲーム屋もこの時期盛んに行われる。

8日よりキャンプ、ファイヤーの行事に向けて歌、劇などの練習、準備を開始する。今年は始めて出しものの劇を限定し、4つとする。ワーカー4人（一日の担当は3人）が一つずつ受け持つ。子どもたちに脚本

作りをすすめ、子どもたちも積極的に取り組む。この時期、まだ子どもだけの自主的な練習ができるほどに3年生の力が育っていないため、練習にはワーカーが必ず参加をする。

劇をやるのをいやがる男子が新聞をテーマにした社会派の劇をしたのは、日頃の新聞作りが基礎になったものと考えられる。ヒロトラ8人である。

ヒトエ、ヒロコ、エイキ、ヒロユキの劇は日頃の仲良しグループのためまとまりやすかった。タカコを中心とするミチエ、キヨ、テルコラの「うさぎの学校」はタカコがヒトエ、ヒロコの仲間に入れなかったことを意識して、いじけて、おざなりに練習をし、全く3年生としての役割をしなかった。ワーカーがグループをまとめるのに多大の努力をする。しかし、この劇が二学期に入り、続きをクリスマス会にやろうと時々思い出しては話し合われるほど強い交友関係の基礎となり、そまで全く自信のなかったタカコの3年生としての自信を持つきっかけとなる。そのメンバーにしたわれ、2月にはタカコの誕生会に自宅に招くほどの親密さを増す。アツオ、ヒロマサ、コウゾウらの「ジャングル野郎」は、1～3年男子の雑多なメンバー構成のためまとめるのに大変だった。

23日模擬店とキャンプ、ファイヤーの集いを行う。火の使いは例年3年が行う。希望者複数のため選挙で決め、本年はヒロトが選ばれた。

外部との関係

5月21日 父母会

6月9日 担任訪問 キミが足が痛いと授業中に言うのでMクラブで預って下さい。

6月27日 N先生来訪 クラブを休み友人と遊んでいたカズコを連れてくる。

7月9日 父母会

ワーカーの意図・動き

1年カズコは5月半ばより頭が痛い、指が痛いと身体的苦痛を訴えることが多くなる。学校生活にも同クラスのキミと共に適応できず、授業中に身体の痛み(カ

ズコは頭、キミは足)を訴え保健室通いをし、特にカズコは学校を早退しクラブも欠席することが多くなる。母の帰りが遅いため、クラブからの帰りクラブの1年生の家に上ったまま帰らなかったり、遅くまで外をウロウロしているなど1年の母親2人で文句を言いに来た。この問題のためカズコ、キヨとも学校、家庭との連絡を密にとった。

マサヨシは前期に続き、変わらず家庭、学校の問題をひきづり、情緒的に問題を持ち、クラブに来てすぐは仲間と遊べないことも多くワーカーが相手をしキャッチボールをすることが多い。

ヒロトはカーレースなどで人気を得、リーダーとしてメンバーより尊敬されるが、困りの状況に無頓着だったり、すぐ人に「バカ」という態度をとり弱い者を排除しようとする態度が見られ、力の支配にならないよう気を配る。

5月半ばより集団は活気に加え豊さもそなえてくる。5月下旬～6月上旬は新聞作りをする日も多くワーカーもそれを援助する。1年生にはコマの技術を身につけ、上級生に混じって競技できるように一人づつに根気よく1日に何10回とひもを巻いてやり援助する。

7月に入りキャンプ、ファイヤーに向けて総力をあげる。キャンプ、ソングの練習を、おやつ後全員でするプログラムを組み、一つの行事に向けて集団を結集させて行く。

考察

1期の殆んどスポーツ一歩りだった生活からスポーツと平行して、新聞作り、劇ごっこと文化的な活動も芽ばえ、それにキャンプファイヤーの劇作りが加わり豊かな内容となってくる。スポーツも、ただいつも二チームに分かれて楽しんでいるだけでなくチーム作りをし仲間との緊密な関係をも深めるようになった。店屋ごっこも早い時期から行われ、遊びの内容も手がこんでいて、遊びのメンバーも男女学年を越えていり混じり、沢山のメンバーで遊ぶなど全般的に3年生が多いという理由のため例年の2学期を思わせる感じで

ある。そのため、例年5月中旬位からが、発展期と捉えられるが、本年は5月初旬よりを発展期と位置づけた。

第3期 再編成の時期 (キャンプ・ファイヤー以後の小学校の夏休み期間)

集団の主な動き

<7月下旬>

夏休みに入ると田舎に行ったり、海・山へ行ったり、母親の仕事が休みで家にいるなどのため出席者は減少する。今までできていた遊びのグループはくずれ

る。今年度、新たに購入した大きいプラスチック水槽でのプール遊びが、毎日午後のプログラムに加わる。

暑いため室内遊びも結構活発で、例年夏休みらし遊びである店屋(ゲーム屋)が、今年は1、2期に引き続いて行われる。夏休みのため今までの遊び仲間たちがうメンバーヒドト、ジュンジも加わって行われる。1年生も始めて客でなくゲーム屋をやるようになる。

下火になっていた野球は、キャンプ、ファイヤーの翌週明けアンダーズは解散し、新しいメンバーを募り、今まで全く運動をしなかった3年ヒロユキがキャッチャーを引き受け入り、2、3年女子メンバーヒロコ、ミチエ、テルコら5名も加わる。名前もビッキーズと変え、新たなメンバーで毎日練習を始める。木のバットでの野球は、7月は、28、29日のみであった。

<8月>

プール遊びはほぼ毎日楽しく行われる。8月に入り、夏休みの共同製作として大きな看板(畳2枚分位)の絵に全員で取り組む。毎日少しづつなるべく多くの子の参加を呼びかける。ヒロコ、ヒトエ、ヒロユキ、タカコが、熱心にやった。

野球は参加メンバーも少ない。暑い、両チームのヒロト、マサイチの欠席などのため低迷。たまにやる時も、今までのチームにこだわらずその日に参加したメンバーの有志でやるという形。後半2人のリーダーが

再び参加をして少し活発に練習する。22日、30日マサイチは女子メンバーも加え練習する。30日に2チームの試合がメンバーはそろわなかったが行われ、始めていつも敗けているマサイチチームが3対2で勝ち、下手なヒロユキをよくがんばったということで胸上げして喜ぶ。

1、2期に見られたオヤツ後の野球、ドッジボールなど多人数でのダイナミックな遊びはこの時期は全くみられなくなる。

一方、店屋、ゲーム屋などの遊びの内容も多彩に活発に行われる。多くのメンバーが店屋をやり、店屋に男女が混じったり、1年生タケオが始めて店屋をやったりする。2日には、2年のマサツグが始めて店屋のリーダーシップをとったり、いつも小グループの遊びでも我まま、暴言などでなかなか仲良く遊べないマサヨシも店屋ではリーダーシップを発揮し、安定して遊べていた。しかし、5日「今日はマサヨシがいなくて静かだった」と記述があるように、いるといないとでは大違いなほど全体の雰囲気も左右することもまた事実であった。

リーダーシップをとることが多いヒロト、マサイチが欠席するなどして、他の3年生アツオ、トモテルがリーダーシップをとるようになる。

ヒロコはいつもヒトエと一緒に下級生と遊んでいたが、ヒトエがいなくても中心となって遊べるようになってきた。

3年生タカコはキャンプファイヤーの劇以後、そのメンバーからしたわれ、がぜん積極的にリーダーシップをとるようになってくる。ミチエ、マチコの関係は固着し、一緒にいるキヨとの関係も円滑でなかったのが、タカコという新たなリーダーの出現は新しい関係作りに幸いした。タカコの出現でミチエは、キヨが他のメンバーと遊ぶことをゆるす柔軟性が出てくる。

新たな交友関係が次々と生まれる。クミヨとアイコ、カズコとマユコ、カズコとアサコ、ヒロコとキミ、トモテルとタケオ、マサツグとケンジまたはヒロマサな

どである。時によりその2つが結びつくこともあった。

しかし、アキトは久しぶりに参加をし遊び仲間がいなかったため女の子の遊びの邪魔をしたり、もめごとも時時ある。

26日、父母会共催のすいか割りをする。夏休み中お休みしていた子も久しぶりに顔を合わせ、2学期からスムーズに参加できることをねらっている。30名の参加であった。

外部との関係

8月26日 父母会共催すいか割り

29日 校長来訪 クラブ前の木の毛虫退治について打合わせ

ワーカーの意図・動き

夏休みに入って当初は、今までの仲良しが欠席するなどのため遊べない子が出てくる。本年は、そういう子が比格的少なく、スムーズに新しい仲間作りができたが、それでもワーカーがトランプを一緒にしたり、ボール投げ、ピンポンをしたりと新しい友人関係作りをした。特にカズコは遊べないと「せんせいあたまがいたい」と訴えてくるので、トランプを一緒にやり、そこへ他のメンバーも集ってくるのが4～5回あった。

8月に入っても、トランプの相手、絵本を読む、折紙、プロレス、工作指導など個別的なかかわりも多く必要とされた。マサヨシに対してはゲーム屋に客としてワーカーだけという位長時間かかわったり、ボール投げの相手、大好きな電車の本と一緒に読むなど特別のケアを多く行った。

夏休み中、中心的なプログラムであるビニールプール遊びは、小さい所に男女一緒に入るのもめ事が多いが、ワーカーの言葉がけなどが雰囲気を作る重要な役割となる。

考察

グループ再編成の時期であり、今までと異った交友関係も沢山生まれた。キャンプファイヤーという集団としてまとまって一つのことを達成した経験を経て、

交友関係に広がりを見せ、いつものサブグループに新たなメンバーを加えて遊ぶようにもなった。ままごと、2日の花屋は、アツオ、タカコ、ミチヨ、キヨというように男女の豊かな交流が生まれている。

後半再び1、2期の仲良しが参加することで、夏休みにできた交友関係を加えることで更に大きなサブグループとして遊ぶ兆しも見られた。

特に最終日31日、テルコ、キヨ、ミチエ、マチコ、マサエ、アサコとジュンジ、タケトシが一緒になり、リレーや走り巾とびをしたことは、夏休み中の交友関係の結実と考えられ、夏休み最後にふさわしく、次の成熟期の兆しを充分に感じる事ができた。

第4期 成熟期（9月～12月）

集団の主な動き

<9月>

2学期が始まり、夏休み期間休んでいた子どもたちも出席し再び活気を取り戻す。暑さも和らぎ再び戸外での動きが活発になる。前庭での野球も、ほぼ毎日行われるようになる。チームにこだわらず、その時やりたい子でプレーを楽しむという形である。2、3年生中心で少人数となるが、それは興味、遊びの種類が広がったものと考えられる。9日には2チームの試合を行う。マサイチチームの女子テルコ、キヨ、ミチエも加わっての試合は始めてであった。ヒロトチームは全スタッフ6名、マサイチチームは9名そろったため、マサイチは、かんとくとして参加する。木のバットでの野球は、この日だけであった。

少人数でのバレーボールを使ってのボール投げも盛んに行われる。

10月1日、都民の日は足立区ブロック別恒例のスポーツ大会である。メインはドッジボールの試合であるため、この月後半、連日オヤツ後30分位は全員で練習することとする。校庭にコートを描き、ワーカーが審判をして練習をする。この月は雨天が多く16日から5回体育館を借りての練習であった。練習をいやがる子

もいなく、力を合わせる熱気があった。

2学期は夏休みに新たに交友関係が今までの仲良し同志にさらに加わったり、2つのサブグループが一緒になったり交友が広がる。遊びは1、2期の2～3人の単位から4～5人の規模で遊ぶことが多くなる。タイヤ飛び、高鬼、天下ボール、二人三脚などが行われ、男女、学年も混じってのグループ構成である。

8日には、5回目の見学実習で10名の学生が参加した。いつもの仲良しサブグループに学生が1～3名加わって遊ぶ。本年はグループ全体の雰囲気も良く、ワーカー体制も充実しているため、特に一人の子どもが一人の学生を独占するということが少なく、いつもサブグループに学生が1人または複数で参加して遊ぶのが特色である。

再び、虫採りもさかんに行われる。

<10月>

1日のスポーツ大会のドッジボールの試合は、力を合わせ日頃の結束力を示し、圧勝した。

男子メンバーは野球もやる一方、壁野球をよくやるようになる。2チームに分かれ非常階段下の斜めになったコンクリートに黄色の硬式テニスボールをあて野球のようなルールでやるもの。ここのところ、野球は4、5人という少人数でやる事が多かったが、月後半1年生男子も壁野球に興味を示し、参加するようになり8～10名の多人数での遊びが再び活発に行われる。オヤツ後の木のバットを使って2チームに分かれての野球は、この月6、7、27、31日と4回行われただけだった。

12、13、14日、アンダーズとロビンズの試合を行う。12日は0対7、14日は1対1の引き分けになりアンダーズは大喜びする。翌15日アンダーズは解散することになり、新たにサッカー、ラグビーチームを作る。メンバーは5名そろろう。

5日のままごとは、マユコ、マサエ、クミヨ、カズコであったし、同じ時、校庭でのつなぎ鬼はエイキ、セイイチ、アイコ、マサツグ、タケオ、ヒロマサと多

彩な組合せが見られるようになる。25日のゴム段は、タカコ、ヒロコ、マユコ、キミ、カズコであった。

遊びの種類も豊富になり、内容も高度なものとなる。前記のつなぎ鬼、15日には、ジュンジ、タケトシ、テツシの人間が動いてボールをあてるインペーダーゲーム、29日のヒロユキ、エイキ、ヒロコ、タカコ、セイイチ、アイコの原始人ごっこなどである。いつも、ままごと、お母さんごっこ、学校ごっこしかなかったミチエたち4人グループも、13日、焼いも屋になって皆んなの中を回って売るとか、15日、お母さんごっこでも、マチコは弁当を持ってMクラブに行く役割だったり、4人のみの形から外に開かれた遊びの形へと変わってきた。遊び仲間もいつもの仲良しがバラバラになって、他のメンバーと遊ぶなど柔軟性が出てくる。25日には、タカコ、ヒロコ、テルコがままごと、ヒトエ、マサエ、クミヨは登り棒で、ミチエ、キヨ、アサコはお母さんごっこと言った具合である。レストランごっこも手が込んできて、紫色の実をつぶしたブドウジュース、レンガをけずったスープ、コーヒーと工夫がされるようになる。

〈11月～12月〉

野球、壁野球も引き続き行われるが、サッカーもよくやるようになる。特に12月に盛んになる。それは、野球よりもたえず自らの身体を動かして続け暖かくなるスポーツであるためである。サッカーチームを作ろうという動きが、アツオ、ユウタで話し合われる。12月にはオヤツの後6～7人のメンバーが2組に分かれてゲームをする日も多い。

11月1日解散したはずなのに2チームの野球の試合を行った。木のバットの野球は、この日と4日、12月に行われなかった。

11月下旬からは、大きい行事の一つであるクリスマス会に向けて準備、練習を開始する。本年始めて劇を3つと制限し、どのメンバーも劇が合奏どちらかに参加することにする。ただし、3年生は両方やりたい場合は両方に出てよい。合奏曲は「びっくりシンフォニ

ー」、難解なピアノを全くピアノを習ったことのないヒロトがやる決心をしワーカーの指導に従い熱心に練習を続けた。一方大だいこにも人気が集まり4人の3年男子が希望したので、選考テストをし、一番リズム感のよいトモテルに決まった。トモテルは運動など大きい集団に入って遊ぶことがなく少なく、消極的で友人も少なかったが、これは自信をつける良いチャンスであった。劇をやることを希望した3つのグループは各々脚本作りに取りかかる。装置、小道具作り、練習にと子どもにとってもワーカーにとっても大忙しとなる。劇の練習の中で、1、2年生がふざけたりすると3年生が「ちゃんとやれよ」と言ったりする場面も多い。会が近づくとつれ合奏の合同練習の時に3年の中から「もう一回」「もう一回」と熱心に練習を繰り返す声が上がってくる。マサヨシは鉄琴をやることになったがわめいたり、めちゃくちゃたいたりする。しかし、個人的にワーカーと練習をくり返しやり遂げられた。劇のお面作りができないマチコに3年が輪郭を描き、2年生が続きをやって上げるなどの協力の姿もみられる。

店屋、くじ屋も時々行われた。14日は〇小学校は創立記念日のため学校はお休みで、参加者はいつもより少なかったが、アキト、マサツグ、ヒロマサで始めたおみこしゲームにその日いた男子メンバー全員、お金を作って客となって参加した。その日、エイキの持ってきたゲームを男子メンバー全員に貸した。12月28日、2年生男子3人組とマサツグのゲーム屋に、1～3年生の7人の客マサシ、テツシ、アツオ、ケンイチ、セイイチ、アイコ、タケオが参加した。このように学校の休みの時くじ屋等は活発に行われるようだ。一方、ヒトエ、ヒロコ、タカコの3人は絵が上手で絵本作りをよくした。自分たちでストーリー、絵を考え楽しい絵本を沢山作った。

2学期いっぱい、2、3年生の誰からも可愛がられていた1年のショウイチが、引越しのためクラブを退会することになった。皆んなとても残念がり、ヒロ

ユキとマサシはその少し前工作で教えた消しゴムのハンコを自主的に作ってプレゼントした。

マサヨシは、野球などの遊びに、殆んどスムーズに入れてもらえるようになってはきたが、他人のエラーには口汚なくわめいたり、ののしったりすることには変りなかった。11月28日、ヒロト、ヒロヤ、ケンイチたち6人と壁野球をやっていた時、2年ケンイチがエラーすると泣く泣く泣かせる。皆んながマサヨシに口々に「自分だってエラーするくせに」と文句を言う。ゲームはそれで止めになり、他の5人は校庭へ歩き出し、「マサヨシついてくるなよ」と言う。しばらくしてマサヨシは、2年アキトと壁野球を始めると、5人は側で「アキトがんばれ！アキトがんばれ！」と声援する。勿論ワーカーは適切な対処をした。このことはマサヨシの余りの横暴さに日頃の皆んなの怒りが爆発したもので、2学期らしい現象である。

ワーカーの意図・動き

第3期までに比べ、ワーカーの集団への援助は質、量ともに異なったものである。殆んど子どもだけで仲良く遊べるためワーカーは側面からサポートするに留まる。仲良く遊んでいるのを支持し、受容し支援する笑顔を送るか、おもしろそうな遊びだなという興味を示す態度をすることが多くなる。しかし、遊べずにいる子に、店屋のお客になることをすすめたり、あの遊びに入れてと言ってごらんという働きかけは、量こそ減ったが変わらず続ける。

個別的ケアを、マサヨシ、アサコに引き続き行ったのは、勿論のこと、どの子どもとの個別的関係は、どの時期も変わらず大切にしている。一日に一回は、どの子ども言葉を交すなどである。

11月中ばからクリスマス会に向けて全力投球する。

外部との関係

9月19日 父母会

22日 警備員と立話 マサヨシが無断で学校に入るが多いため注意を依頼

11月19日 父母会

10月より今まで保護者負担金は1,000円であったが、3,300円に値上げとなる。多分、それも理由の一つである退会者が一人あった。

考察

9月には新鮮な活気を取り戻し、夏休み前のメンバーの結びつきと、夏休み中に出来た新しい交友関係の相乗作用で結びつきがダイナミックになる。スポーツ大会には、クラブが一つとなり他クラブと対抗する初めての機会であり、集団の結束力を更に高めるものである。その流れの上に12月のクリスマス会があり、グループの力が豊かに開花したと言えよう。

10月11日、オヤツの時、なかなか静かにならないと、アツオが「しずかにしろ」と言う。日によって、テツシやマサヨシが言うこともあった。3年生らしい行動が見られるようになる。12月12日、劇の練習でも、ふざけたりして練習をしないと、テツシは「ちゃんとやれよ」と言う。

11月14日は、参加者も17名と少なかったこともあるが、アキトらの遊びに男子全員がかかわったり、エイキが男子全員にゲームをやらせたり、2学期らしい集団の発展を感じさせるものである。

10月1日より、非常勤ワーカーは一人入れ替ったが、全般的に好意的に受け入れ、反抗などのトラブルも全くなかったのも、グループの良い雰囲気を表すものである。

第5期 安定期（1月～3月）

集団の主な動き

<1月>

2学期いっぱい退会者が出たため、新たに1年生コウイチ、カナコが入会する。どちらも姉ミチヨ、タカコが3年生として在籍していること、グループ全体の雰囲気がいいことなどで受入れはスムーズにいく。カナコは1月の後半にはグループに解け込み高鬼などの遊びにも参加するようになった。

いつもリーダーシップをとっているマサイチ、ヒロト

が欠席の時は、今まで少人数でしか遊んでいなかったトモテルがリーダーシップをとる。

6日には、ヒロマサ、コウゾウ、タケオ、ジュンジと靴あてをしたり、9日にはコウゾウと2人で泥警を始め、タケオ、セイイチ、アイコ、ノブキ、ヒロマサが加わった。

10日、いろいろ遊びをしていたミチエ、テルコ、キヨ、マチコと、鉄棒で遊んでいたアサコ、キミ、カズコが一緒になって遊んだ。13日は、タカコ、ヒロコ、キミ、カズコ、マユコでリレーをした。女子も大きいグループで遊ぶようになる。

本格的寒さの季節を迎え、野球は殆んど行われなくなり、もっぱらサッカーが盛んになる。お正月明けから2～4人でいろいろなメンバーがサッカーを楽しむ。シュート練習の時もある。オヤツの後5～9人位のメンバーが2チームに分かれて試合をする時もあった。30日は、アツシ、マサシ、マサイチ、アキトの組とヒロト、テツシ、ヒロヤ、マサヨシ組に分かれ始めて試合らしい試合が行われた。

1～3月にかけて雪の非常に多い年だった。19日は一日中降り続き、積雪22cm、その積雪の上に更に21日も一日中降り続ける。最高気温ですら氷点下。しかし、子どもたちは大喜び。この雪は3日ほど解けずであり、毎日雪がすばらし教材、遊具としての役割を果たすことになる。21日エイキ、ヒロトの雪合戦、ヒロユキ、エイキ、ヒロマサ、アサコの雪だるま作り、ヒロコ、タカコ、カズコはすべて遊ぶなど大いに楽しんだ。23日、雪投げをしていた、マサイチ、ヒロト、ユウタ、ジュンジ、マサシ、タケトシ、ヨシキは、泥警をして遊んだ。

<2月>

店屋ごっこは、3日のマサトシの電車の絵(絵の中で彼が描ける唯一のもの)を売る店、7日、ヒロコ、タカコが得意な絵を沢山描いて売るぬり絵屋など遊びが高度化して来る。この時期になりマサヨシは店屋ごっこでは落ち着いて遊べる日が多くなって来る。

7日の人間ピラミッドは、エイキ、ヒロユキ、ノブキ、コウイチ、セイイチ、カズコであった。

今年は何の時期もプロレスごっこをよくやる年であったが、特に2月は10人ものメンバーでやる時もあった(10日、テツシ、ヒロヤ、ヒロユキ、アキト、コウイチ、エイキ、ケンイチ、マサシ、タケオ、マサヨシ)。肌をふれ合うこの様な遊びが活発なのはそれだけ相互の親しみの深さを表し更に親しみを増していったと言える。個々には攻撃性を持った子、抑圧された感情を持った子が多く各々の要求をレスリングというスポーツの中へ昇華するという役割も果たしていたので、遊びの一つとして上手くゲーム展開させるよう必ず、ワーカーが見ている、「スゴいね」「ちょっと危ないよ」など声をかけ、時には割って入ったり、審判をした。

サッカーもよく行われた。

1月31日の大雪が解けずにある所に17日積雪20cmの大雪、更に26日に6度目の積雪、この月は前庭には絶えず雪があり、20日にヒロコ、ヒロユキ、タカコ、アイコ、カナコで作ったかまくらはそのまま残り遊びに使われ、14日はマサイチ、アツオ、ユウタ、マサシ、ヨシキ、ジュンジ、ヒロユキが山を作ってスキークラブと言って板で滑ったり、3日は、アツオ、ユウタ、マサイチ、マサシが雪の上でサッカーをしたり雪と共にある生活だった。

8日、2年アキトが学校の渡り廊下の屋根に乗り教頭にしかられ、校庭を使ってはいけないと言われる。母を同伴し謝罪に行き、以後校庭は4時以後ワーカーがついて使用することになる。

<3月>

中旬頃までは雪の日が多い。寒さのため、再び2階のたたみ敷でミニカーのレース遊びが活発になる。14日は、アキト、マサツグ、タケトシ、マサシ、テツシ、ヒロジ、ジュンジ、トモテルでやった。19日は、アキト、ジュンジ、マサシ、ヒロジとタケオ、コウゾウ、ヨシキ、コウイチの2組であった。

14日テレビの劇面を見ながらテーマソングに合わせ

て歌う。3学期らしい雰囲気である。

しばらく中断していた新聞作りも、しめくりとして「おわかれ号」を出すことになり、3年生1人ずつのお別れの言葉、下級生1人ずつの送る言葉を載せた全員参加のものが出来上った。ワーカーも積極的に協力した。27日のお別れ会に向けて積極的に出しものの練習をした。ヒロコ、タカコは昨年にならって、お別れ会に下級生全員に配るきれいなカードをせっせと作った。

後半寒さもゆるみ、またスポーツが活発となり、沢山の人数で活気にみちサッカーが長時間続けて行われた。

3年生はすすんで片づけをしたり、もめごとの仲裁をしたり、下級生に注意をしたりとリーダーとしていい役割ができるまでに成長する。

外部との関係

- 1月23日 マサヨシのひろった犬の持ち主が、とり
に来る
- 28日 父母会
- 2月8日 O小学校教頭にアキトが渡り廊下の屋根
に乗ったと注意される
- 13日 O小学校教頭にアキト母同伴で謝罪に行
く
- 3月10日 父母会

ワーカーの意図・動き

2学期、後半より、3年生は少しづつ3月で卒園することを意識して、情緒的に不安定になる。下級生の面倒をよくみたり、ワーカーの態度に同調したりという良い面と共に、急に乱暴をしたり、極端に甘えてみたりである。それらの感情を受容し、前向きな方向に向ける。

考察

大きなグループで遊ぶことも多く、遊びの内容も豊かに活気に満ちていた。3年生を中心に最後のクラブでの集団生活を思いきり楽しもうという盛り上がり、意欲が見られる。1月休館明け、途中で帰った子がいて、

後4人であった。テツシが「少ししかいないのでさびしい」と言った。仲間といると楽しいことを良く表している発言であった。

他人に無関心であることの多かったヒロコも、2月7日には自分からマサイチにサッカーの試合をやるうと言ひ。同じチームのメンバーがまだ来ていないと「テツシ来るかな、ヒロコ来る?」「ケンイチ来ないんじゃない。やめたの?」と関心を寄せるまで成長した。

3月24日、トモテルが外に落ちていた紙を「先生落ちていた」と2度持ってきたり、テツシが水をこぼした子に「ふいとけよ」と言ったり、3年生らしい言動であると共に集団、個人共に成長をしたことが伺えることである。

Ⅳ. 3年間のグループ・プロセス

「小論」において、学童保育は「日常生活集団であること、加えて、年度が移行してもメンバーが部分的に入れ替わるだけで、残りのメンバーは新年度のメンバーとして留まっているという特性を見逃してはならない」とし、「この二つの特性に着目してグループの成長過程を考える場合、1年の周期を単位とした学童保育創設時から解消までの長い年数を一つの成長過程として捉えることが可能になるのである」と論じた。厳密には、この論旨にはそえないが複数年度をプロセスとして考え得るとの意味において、3年間を通ししてのグループ・プロセスを吟味したい。もっとも、各年度毎に具体的な記述をしてあるので、ここでは3年間の変化を示す指標を設定して、比較してみようと思う。

ただし、その前に是非強調しておきたいのは、見逃し勝ちな事柄の中に存在する変化、伝承である。具体例をあげると、56年5月に卒園児のヨウコ、ノリコ、ユキオが遊びに来て、ぬり絵作りをした。この3人は前年度に沢山の魅力的な絵を描いているだけあって非常に楽しい絵を描き、ぬり絵屋を始めた。熱烈な客に

なって買いまくったヒトエ、タカコは早速次の日に同じような絵を描いてぬり絵屋を始めた。また、57年3月のお別れ会で、ミワコが折紙で作ったペンダントを卒園児の首にかけて上げた。次いで、4月に男の子たちが新しく入った1年生に、空き箱、折紙の作品をプレゼントして上げた等である。

(1) グループ・メンバーの構成 4月現在

	1年男	1年女	2年男	2年女	3年男	3年女	計
56年度	12人	8人	5人	7人	7人	4人	43人
57年度	9	5	12	8	4	6	44人
58年度	6	9	4	5	12	7	43人

(2) 特殊なプログラム

週1回の工作指導は1～3年生が4時限の金曜日に行われるが、56、57年度は原則として塩川ボランティアが月1回、他の日にはワーカーが担当し、58年度はワーカーだけが指導に当たった。裁縫は毎週土曜日とし、クッション、袋など直線縫いの物から、単純な象などの縫いぐるみ、人形と難しい作品に進んだ。個人差があるので、5～8人程度を個別指導する。習字は、57年度だけ岩瀬ボランティアの協力を得て毎週土曜日に行った。

(3) 遊びの特徴

56年度はドッチボールが、盛んであったが、野球に参加するメンバーが増加、特に2年女子もよくやるようになったのが印象的、ただし、野球ではワーカーのジャッジや仲間のプレーに文句をつけ、険悪な雰囲気になる場合も多かった。12月の電子ピアノ購入をきっかけにヒロト、ユウタたち男子が弾くようになった。オルガン同様自由に使用できるようにしてあったが、男子メンバーにはオルガンより歯切れのよい音色が気に入ったようである。男子中心にプロレスごっこもよくやったが、ワーカーが入ることが多かった。また、3学期頃からはゲームウォッチが流行し出した。3年生が少なく、攻撃的な型のメンバーが多いので運動が多く、全般的には文化的活動が質量ともに乏しかった。

ただし、3年のエミとユミは抜群であった。

57年度は、益々野球が盛んになり多人数の木のバット以外にも連日のように行なわれた。試合中にケチをつけたり、ふてくされていい加減なプレーをすることもあるが、専任ワーカーが審判の時には長時間続けられる。ドッチボールも結構盛んだが、野球の方が上回ってきたといえる。また、只の壁当てボールが1年男子により屋根越え競争、窓当て競争へと発展した。年度後半からプロレスごっこが盛んになり、店屋、ゲーム屋が大流行し、その準備として様々な作品が生れる。男子と女子の交流も56年同様行なわれるが、夏頃からヒロユキ、マサイチのように、スポーツを一緒にするだけではなく、もっと会話のある豊かな友人関係が成立してきた。

58年度になるとドッチボールは、余り行なわれなくなり、冬以外は野球が毎日のように行われる。グループの扱い、バッティング、スローイング全て技術が上達し、ルールも解るようになったので面白い試合運びになり、試合中のトラブルも少なくなった。4月から試合形式で行なうことができた。春先に参加しなかった女子も徐々に入るようになる。

女子は元より男子メンバーの殆どが電子ピアノを弾くようになった。プロレスごっこは相変わらずよく行われた。57年度から盛んになった迷路描きの殆どが巻きゲームと称する物に発展する。これはゲームウォッチをヒントにして考えられたようである。男子にゲーム屋、くじ屋、女子も様々な店屋を考え、店屋同志の交流も活発であった。絵描きも、ヒロト、アツシ、ヒトエ、タカコ、ヒロコを筆頭に非常に細かく丹念な作品が見られ、廃物利用の工作にも手の込んだものが作られる。行事の際の劇作りも、年度を追って進歩をし文化的活動の質が非常に向上した。中でも、ヒロトを中心とした新聞作りは、特に素晴らしい活動と評価できよう。

(4) リーダー

56年度は、シンジがヒデミツと組み粗暴な言動でメ

ンバーを支配しようとし、マサタツは自分1人で同様の試みをした。シンジ、マサタツは自己中心的な御都合主義のリーダー振りであった。コウヤは引越し、ケンジ、ヤスヨリ、タカオ、ヤスシはワーカーが支持しても消極的で、後半になってやっと1、2年生少数にリーダーシップをとれるようになった。シンジ、ケンジはスポーツにしか興味を示さず、マサタツは特に上手ではないが絵描き、店屋、ドッチボール、得意な虫採りと広範囲にリードした。3年男子が協力し合ってリーダーシップをとることが殆んどできなかった。3年女子は仲がよく、自分たちだけで満足している様子で、ミサとユミが後半になって1年生を可愛がって遊んであげるようになった。

57年度は、サトルがヒロトと組んでヒアミツをけん制してリーダーシップをとる。ナオト、アキカズは温和しい。カズトは男女を問わず少数にリーダーシップを発揮、威張らず適当にふざけるので楽しく柔かい雰囲気作りで特長を見せた。同様な存在としてヒロユキもあげられよう。マサイチも小人数相手のリーダーとしてやさしさを発揮し、アツオの劇好き、テツシ、マサヨシも大声でおやつ時に誘える心臓振りというように、2年生も力を出してくる。ミチヨは面倒見のよさを見せる。

58年度には、前年度の2年生が引き続きリーダーシップを発展させ、自分の得意な場面で活躍する。しかし、影響力の強いリーダーとして、ヒロト、マサイチが浮上してくる。野球チーム作りに表れるが、マサイチは下手だが気性の激しくない子を集め、ヒロトは積極的に集めず残った子でチームを作る。しかし、2人の勢力争いにはならず、2つのグループは相互に流動的で弾力性に富んでいた。女子は、同レベルで仲良く、僅かにヒトエがリードしているようであった。女3人組の中ではミチエが力を伸ばし、マチコの面倒をよくみた。

(5) サブグループ

56年度は、緊密なサブグループが少なく、サブグル

ープも2人ずつが多かった。また、サブグループ間の関係も稀薄だったり対立的であった。57年度は、サブグループが増加し、サブグループ間の関係も親しさを増した。一方で、男子3人組、カヨミと女子3人組というトラブルの多いサブグループも目立つ。58年度になると、サブグループ同志が仲良く交流し、個人としても他のサブグループと相互に混り合うことが、前年度に増して多くなった。

V. グループ・プロセスよりみた諸問題

(1) ワーカーの役割

この報告は、「小論」において引用したシュワルツの「……ワーカーとしての機能はグループ過程が万能薬でないからこそ生まれてきた……」という主張の正当性を実証したと言えよう。

(2) 長期的展望の必要性

グループの発展、個人の成長を考える場合、1年毎に把握することの必要性和共に各年度を撃がったものとして継続的にとらえることの有効性と必要性を明確にしたと思う。3年毎に区切るのではなく、各年度毎に継続性をもって展望するという意味においてである。

(3) ワーカー集団

プログラム、メンバーの問題行動等について、情報交換、処遇会議をもつこと、役割分担と補完性が重要であることが明らかにされた。また、56年度のバッティングピッチャー、57年度のこま紐巻き等は、「小論」で述べた即時的・実利的サービスの具体例である。

(4) メンバー構成と活動内容

56～58年度の活動内容は年毎に充実し、グループとしても発展している。メンバーとしても発展している。メンバー構成の変化に伴っているものであり、次年度にこの発展が継続するとは言えない。58年度には各分野にそれぞれ有能な3年生がいて、1、2年生には3年集団としてのリーダーシップとしてトータルに受けとめられていたようであった。さて、59年度に多数の有効メンバーが抜けた時、リーダーとしての成長が阻害

されていた新3年生は大いにとまどうのであった。マサシはリーダーとしてやる気十分であったが、多数リーダーのやってきたことを一身に負う形となった。しかし、新聞作りも協力メンバーの不足から挫折するなど思うようにはいかなかった。結局彼は、過去のリーダーがやったことのない仕事で成功した。卒園の際クラブに贈る木の本箱作りである。この作業には3年男子が全面的に協力したのであった。

この事例は、活動内容がメンバー構成と相関関係にあること、学年別人数のバランスに留意する必要性を示している。

(5) サブグループ

サブグループがあった方がグループの活動が盛んになることが考察された。しかし、サブグループが排他的であったり、活動指向に問題があるものには、ワーカーが働きかける必要性のあることを強調したい。

(6) グループ・メンバーの相互作用とその活用

サトルたちに誘われて泣々リレーに入ったヒロトが、意外と早い。ヒロトは驚いた顔をし、サトルたちも「あれっ」と感心する。ヒロトは自分の能力を見つけ、3年生は1年でも馬鹿にできないと思う。スポーツ、絵描き、工作、遊びのすすめ方と様々な場面でメンバー間の相互作用が行われる。

1人ぼっちの子に、「ドッチに入れてもらおうよ」などとワーカーが言えるのは、メンバーがいるからでワーカーだけでは不可能である。ここに、ケースワーク、カウンセリングと異なる利点がある。

〈あとがき〉

1年毎に約40名、3年間にわたって延70名の児童集団に於けるグループ・プロセスを記述する作業は非常に困難であった。記録されている子ども達の表情、言葉、行動の一つ一つの重み、それらについてのワーカーの対応の仕方。上手くいくこともあるし、全く意図に反して増々子ども達の興奮を助長して慌てたりする、そのいずれもが捨て去るには勇気のいることであった。

小さな言動の一つ一つの積み重ねこそ、人間対人間の緊密な関係をつくり上げていくことを日々痛感しているからである。ぼう大な記録から捨象する作業を支えたのは、生まのぼう大な資料の山の俵では、むしろ誰れにも真実を伝え得ないのだという私共の共通の認識であった。

この研究報告において各年度のいずれもが「小論」に述べたように、(1)準備・開始期、(2)発展期、(3)再編成期、(4)成熟期、(5)安定期の発達段階を辿ることは、一年周期としてみるグループ・プロセスにおいて具体的かつ詳細に、また、3年間のグループ・プロセスにおいては若干の指標の提示により明確化されてきた。もっとも、各年度のメンバー個人個人の特質を同傾向を有するメンバー数、年齢別などの構成に応じて、同じような、若しくは全く異っているような多様な様相を示していることも考察されたであろう。

グループ記録に目を通しながら、現在社会問題化したイジメについて想いを馳せるのであった。複数でいじめ、助ける者がいない、昨日の親友がいじめの側につく、いじめられる方に耐性がない等言われているが基本的には、家庭でも、学校でも、地域でも子ども同志、子どもと大人の関係が表面的で要領のいいものになり、親密な人間関係ではなくなったところに問題があると思う。

この研究報告は3年間のグループ・プロセスを明らかにすることが目的であったが、作業進行中にも、ますます深刻化する子どもをとりまく社会問題を、マスコミなどで見聞きするにつれ、この報告が、見方によっては、いわゆる現在子どもたちの成長に欠けているもの、そして不可欠の、人間同志の中ではぐくんでいくものが何であるかを社会に示唆するものともなり得ると考えるようになった。

また、私たちと子どもの豊かな人間関係を育て得る条件として、異年齢の子ども仲間、塾などから解放された時間、サッカーや野球などが自由にできる広い遊び場(校庭)、僅かに残された草はら、ままごとな

のできる場所があったことをつけ加えておきたい。

現在のふつうの子ども達に、これらの条件のいずれが満されているのであろうか。

今、核家族化と母親の就労、地域資源とりわけ子どもの自由になる自然の枯渇、学校教育のあり方など勘案しての具体的施策が求められるのである。

さて、この報告は全て、須之内、田中が協議の上分担執筆したものである。56年度と58年度のグループ・プロセスを須之内、その他の部分を田中が担当した。

なお、この報告では地域性などについては全く触れなかったが、次の表により若干の考察が得られよう。

(注)

- (1) 日本女子大学社会福祉学科「社会福祉23号」
P 115 ~126
- (2) 日本女子大学社会福祉学科編「児童福祉」
家政教育社 P 293 ~310
- (3) 上掲書

表1 Mクラブ児について

No.	名 前	性別	学校・学年	保育園等	特記事項(主に母親から聴取)	同 胞	住 宅	備 考
＜56年度在籍児＞								
1	コウヤ	男	0小・3	KG保	保育園で、人見知りせず下の子の面倒見がよい。ほがらかで友人多く先頭に立つ。甘ったれで泣き虫。	姉高2、高1	都 住	56年6月引越しのため退会
2	ヤスシ	男	N1小・3	OM保	保育園で、物を作る力があるといわれた。空想的な絵を描く。女の子が遊びに来る。気が弱い。	姉小4	都 住	姉はMクラブ卒園児
3	シンジ	男	0小・3	A 幼 M 保	保育園では活発で独特の大きな声で、「俺のあとに並べ」といい、ひき連れる。細かいことに集中する。	妹小1	持 ち 家	54年10月に途中入会 妹アツコはMクラブ在籍
4	ヤスヨリ	男	0小・3	2M保	保育園では友人多く、分けへだてなく、女の子とも遊ぶが自分から作ろうとしない。はにかみ屋、手先不器用。	妹保	持 ち 家	
5	ケンジ	男	0小・3	OM保	スポーツ好き、明るく素直。走るの早い。友だちが来る。友人を引っ張っていく。字書くのが好き。	兄小5	都 住	
6	タカオ	男	0小・3	NK保	おつちよこちといで体を動かすのが好き。絵が上手だ。左利き。	兄中1	都 住	兄は、Mクラブ卒園児
7	マサタツ	男	0小・3	M1保	保育園では人気者で言うことなしといわれた。御飯食べるの遅い。左利き、絵、ボール投げ好き。	兄高3	都 住	兄は、Mクラブ卒園児
8	ミ サ	女	N小・3	NK保	体が大きいので頼られ、友人も多い。男の子とも遊ぶのびのびしている。のろまといわれた。本読み好き。	姉高3	公社住宅	
9	ナオコ	女	N小・3	NK保	男の子の友人多い。おとなしい子を友人にして従わせる。面倒もみる。兄と仲よし。本好き。	兄小4	私 ア	兄がMクラブ卒園児
10	ミ エ	女	0小・3	KN保	父、友人、保育園の先生、だれにでもおしゃべり。絵を描くのが好き。読み書き、電話の応対できる。	な し	都 住	父子世帯
11	ユ ミ	女	0小・3	OM保	保育園では体育が得意。楽天的でたのもしといわれる。絵が上手い。外遊び、男の子が好き。	姉小4	持ち家(マ)	姉はMクラブ卒園児
12	ナオト	男	T小・2	2M保	保育園では手が掛からないといわれ、友人も沢山いた。絵かき、本読みも、運動も好き。	兄中2、姉小5	都 住	56年10月退会
13	アキカズ	男	0小・2	O 保	絵ブロックが好き。泣き虫ではっきり言えない。父と野球をする。	弟保	借 家	
14	サトル	男	0小・2	O 保	保育園ではかけ足、跳び箱1番。乳児期1年祖母にあずけた。きかない子だ。	兄中2、小6 弟 保	私 ア	
15	ヒデミツ	男	0小・2	K 幼	K幼稚園出身、気が小さく行動力がないといわれる。甲高い声を出す。	妹小1	借 家	妹キヨはMクラブ在籍
16	カズト	男	0小・2	NH保	保育園では温和しいが、とんでもないイタズラをする。いじめられ放して、近頃やり返す。	姉小3	都 住	
17	カヨミ	女	N小・2	—	1年の時、学校で女の友人は1人もいなかった。保育園は行かなかった。言葉きつ、運動嫌い。	弟保、妹保	私 ア	56年4月入会 幼・保通園せず。母子世帯
18	マサヨ	女	N小・2	O 保	絵が描けない。引込思案で母には甘えるが弟にすぐ手を出す。1才から他人、実家にあずけた。	弟保	私 ア	
19	ミ ホ	女	N小・2	OM保	保育園では母母に甘えたいのに表現できない。引込思案といわれた。	兄小4	公社住宅	兄はMクラブ卒園児 56年11月退会。母子世帯
20	アツコ	女	0小・2	M 保	保育園では女同志とくみ合ひして泣く。気が強く、泣虫、すぐふくれる。ウーガーに甘える。	兄小3	持 ち 家	兄シンジはMクラブ在籍 57年9月退会
21	ミワコ	女	0小・2	NH保	保育園では、口が達者でリーダー。学校でも積極的で担任に認められる。	姉中2、兄小5	私 ア	兄はMクラブ卒園児
22	ユ リ	女	0小・2	NH保	保育園では、申し分ないが言うことをきかなくて困るともいわれた。活発できつい。	兄中3	都 住	
23	ミチヨ	女	0小・2	M 保	活発で面倒見がよい。保育園でも泣いて先生の手には負えない子や障害児をみてあげる。	妹小1、弟保	借 家	妹マサエはMクラブ在籍
24	マユコ	女	0小・1	T 幼	学校で殆んどしゃべらない。みんなにとけこまない。8ヵ月未熟児で母甘やかして育てた。	兄高3、姉中2	都 住	57年1月母急死のため校長のすすめで入所。父子世帯
25	ヒロト	男	0小・1	KH保	保育園では年長になって、やっと友達できた。本ばかり読んでいた。神経質で理屈っぽい。	兄小3	持 ち 家(マ)	兄はK学童育成会
26	アツオ	男	0小・1	O 保	小児喘息、ヘルニア手術。保育園ではケンカばかりして、だれも遊ばない。	妹保	社 宅	
27	アキトシ	男	N小・1	O 保	保育園の先生にわがままでやさしいといわれる。遊び下手で友人なし。やることがおそい。	姉小6、小4	持 ち 家	
28	ユウタ	男	0小・1	O 保	真面目で応用できない。神経質で言葉で上手く言えない。保育園では嫌われ、友人いない。活発でない。	弟保	持 ち 家	
29	マサイチ	男	0小・1	O 保	保育園ではいい子といわれる。女の子と遊ぶ。絵、運動得意でない。	弟保	都 住	母の実家で働く 祖父母健在。母子世帯
30	テツシ	男	N小・1	NH保	保育園、学校で問題児といわれる。Mクラブでも突発的に暴力を振う。やさしさもある。	な し	都 住	母子世帯
31	ヒデト	男	N小・1	O 保	生真面目で消極的。保育園で泣いていけないと言われたらシャベルで怪我をしても泣かない。	姉中2、小5	持 ち 家	
32	トモテル	男	0小・1	OM保	自転車に乗れ遠出をする。積み木、鋏で切ることを好む、強情っぽい。	兄小5	持 ち 家(マ)	
33	エイキ	男	0小・1	OM保	保育園で言語障害といわれ舌の下の筋を手術。絵、字を書くのは嫌い。いじめられる。	な し	都 住	母子世帯
34	マサヨシ	男	0小・1	2M保	保育園で友人できず毎日泣く。ボール投げもしない。噛つき、けんか早いと母は言う。	姉小3、妹保	私 ア	母子世帯
35	ヒロユキ	男	0小・1	NH保	母は上の子を亡くしたのでかわいがる。保育園好きで甘ったれた。	な し	私 ア	近くに祖母がいる

No.	名 前	性別	学校・学年	保育園等	特記事項(主に母親から聴取)	同 胞	住 宅	備 考
36	ジュンヤ	男	N1小・1	NH保	保育園では誘われれば遊ぶ。母にも自分から話さないが、きけば答える。	なし	持ち家	58年9月退会
37	ヒトエ	女	O小・1	K 幼	幼稚園にバスで送迎、母の仕事場に連れて行った。多数の子の中に入れない。	なし	私 ア	K幼稚園出身で母子共に、保育園を履視
38	リカ	女	N小・1	OM保	3才位から完璧にやらないと気がすまない。人に言われてやるのはイヤな方だと母は言う。	兄小6	公社住宅	57年6月祖母が面倒をみてくれるため退会 母子世帯
39	シズ	女	N小・1	OM保	保育園では女子で1番強く、走るのも早く、負けん気が強い。	兄中2	都 住	57年1月母が仕事をやめたため退会
40	ヒデヨ	女	O小・1	O 保	保育園では、いつもほめられ、班長をよくやる。先生の言うことをよくきく。運動上手、おとなしい。	なし	公社住宅	58年9月退会
41	マサエ	女	O小・1	I 保	保育園では誘われれば遊ぶが、1人で遊ぶ。友人は多い。消極的で控え目だが志は強い。	姉小3、弟保	借 家	姉Mクラブに在籍
42	ヒロコ	女	O小・1	O 保	保育園ではおとなしく友人の中に入らなかった。内弁な言い方は母は言う。	弟保	借 家	4.5帖、3帖、日が当たらない。
43	タカコ	女	O小・1	O 保	幼稚園で他の子と関係がもてないといわれ、保育園に変わった。直ぐおこる。	妹保	借 間	父方祖父と同居
44	クミヨ	女	O小・1	KM保	おとなしく消極的だが負けず嫌い。絵は好きで茶目なところもある。	兄中3・小5	持ち家(マ)	
＜57年度入会児＞								
45	セイイチ	男	N1小・1	NH保	保育園で知能が遅れているのではないかと言われた。運動会でよく出来ない。TV好き。	兄中1・小5 妹小1	都 住	妹アイコはMクラブ在籍 小5兄はMクラブ卒園児
46	ノブキ	男	N小・1 (T小)	O 保	のんびりしていて、着替えなど遅い。プラモデルが好き。運動は普通。	兄小6	公社住宅	兄は学級で1番
47	ヒロヤ	男	N小・1	O 保	気が弱くて母が強くいと涙ぐむ。のろいので母がやってしまう。保育園では我がままがまんできない。	弟保	公社住宅	
48	ケンイチ	男	N小・1	O 保	保育園では、左利きを直すよう厳しくいわれた。友人同志はよいが、先生と面と向うとだめ。	姉小3	私 ア	姉カヨミはMクラブ在籍 母子世帯
49	マサシ	男	O小・1	MH保	保育園では外遊びが多く、1日中ずつと動いている。誰れとも仲よくできるといわれた。	なし	社 宅	
50	ジュンジ	男	O小・1	M2保	溫和しく照れ屋で人前で話さない。運動は余りやらず、TV、ロボット作り好き。	弟保	都 住	祖母同居(明治36年生)
51	マサツグ	男	O小・1	OM保	運動も、言われたことについても鈍い。保育園では、性格は悪くないがのろく、傷つき易い。	妹保	持ち家	
52	タケトシ	男	O小・1	KH保	保育園ではイタズラをして叱られている。友人多くサッカー、野球が好き。さびしがり屋。	弟保	公務員宿舎	
53	アキト	男	O小・1	OM保	風邪をひくと咳息が出る。にくまれ口を言ひ、多動で恐いもの知らず。	姉中2	持ち家	母子世帯
54	アイコ	女	N1・1	NH保	保育園で何を言うことないと言われる程い子ぶり。TV見ないで作ること好き、自己主張強い。	兄中1・小5 妹小1	都 住	兄セイイチはMクラブ在籍 小5兄はクラブ卒園児
55	アサコ	女	O小・1	O 保	人の世話をやくのが好き、利かない方だが人なつこい。意地っ張り。	姉小4	私 ア	母方祖母同居 父母不在
56	テルコ	女	O小・1	2M保	保育園は休みが多く馴染まず、友人ができず隅の方で遊ぶ。いじめるからイヤだという。	兄小3	借 家	兄マサヨシはMクラブ在籍 母子世帯
57	ミチエ	女	O小・1	O 保	負けず嫌い。絵、折紙も好きで運動は放群だった誰とでも遊べる。	兄小4	持ち家	
58	キヨ	女	O小・1	O 保	保育園では、几張面だが、食事、着替えが遅い。人の話をきかず覚えるのがおそい。運動好き。	兄小4	借 家	兄ヒデミツは Mクラブ卒園児
＜58年度入会児＞								
59	コウゾウ	男	N小・1	O 保	保育園では何も出来ないのに威張っているといわれた。はにかみ屋だが下の子の面倒よくみる。	姉小3	私 ア	姉マサヨはMクラブ卒園児
60	タケオ	男	N小・1	M 保	保育園では室内遊びが多く、他の子にやられると、しつこく追い回す。プラモデル、TVが好き。	弟保	持ち家(マ)	
61	ショウイチ	男	O小・1	O 保	誰とでも遊べ、保育園では別に心配はない、やさしいといわれた。外遊び、ブロック好き。	弟保	借 家	58年12月引越しのため 退会 母子世帯
62	ヒロジ	男	O小・1	OM保	きらよう面ですっかりしているが我がまま負けず嫌い。自転車に乗れる。田舎では蛙採り。	妹保	私 ア	57年6月現在地以前は 埼玉県。母子世帯
63	ヒロマサ	男	O小・1	NH保	保育園で食事1番早い。負けず嫌いで、よくしゃべる。人なつこく愛想がよいと母の言葉。	なし	都 住	母子世帯
64	ヨシキ	男	O小・1	O 保	保育園では問題ないといわれた。祖父母が甘やかした。頑固、甘えん坊。外遊び好き。	兄小3	都 住	兄マサイチがMクラブに在籍、 母子世帯
65	カズコ	女	O小・1	OM保	保育園では友人と仲よく出来、いい子といわれる。絵、折紙好きだが遊戯をしない。手先不器用。	妹保	持ち家	
66	キミ	女	O小・1	2M保	気が強く、けんかをする。折紙、ぬり絵は大好き自分の物さわられるのが嫌い。	兄小2	私 ア	母子世帯
67	ヨシコ	女	O小・1	OM保	保育園では威張ってボスらしい。運動上手で絵描きも好き。姉について歩く。	姉小5・小6	都 住	58年10月退会
68	マチコ	女	O小・1	OM保	未熟児で何度も引きつけ起す。お人形遊び好き。歌はよく覚え踊るのも好き。	兄小5	私 ア	母子世帯
69	コウイチ	男	O小・1	M 保	保育園では、絶対喧嘩しないでじっと我慢している。1度言われると必ず守る。家ではブロック遊び。	姉小4・小3	借 家	59年1月中途入会 姉マサエはMクラブ在籍
70	カナコ	女	O小・1	O 保	自意識過剰、おしゃべりだが人見知りする。保育園の時から絵が上手。おとなしくよく守る。自分の物を過さる。欲求不満といわれた。	姉小4	借 間	59年1月中途入会 姉タカコはMクラブ卒園児

(注) 都住=都営住宅 私ア=私営アパート (マ)=マンション

表2 Mクラブ児父母の職業

職 種	56		57		58		備 考
	父	母	父	母	父	母	
工 員	12	14	13	17	11	12	56年度母は全員パート 57、58年度母は1人を除きパート 寿司屋
職 人	2	1	1	1	1		
建 設 工	2		1		1		飲食業、プラスチック加工
自 営 業	4	5	6	3	4	4	
事 務 職	3	7	2	4	2	4	
外 交・営 業	4	1	2	2	1	4	
公務員(事務)	1	1		1	1	2	
公務員(現業)		1	1	3	1	3	
教 師		1					
保 母				1		1	
看 護 婦		1					
店 員	2	4	3	2	5	4	
運 転 手	2		1		1		画 家
自 由 業	1						
雑 役	0	2		1		1	
疾 病	0	1				2	
離 死 別	7	1	7	2	12	3	
世 帯 数	40		37		40		

